



中部電力

浜岡原子力発電所  
基準津波の策定のうち  
プレート間地震の津波評価について  
(コメント回答) データ集

2021年11月15日

# 目次

1	検討波源モデルDの詳細	
1-1	東海地域の大すべり域が1箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定	3
1-2	東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定	
	敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース	39
	敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース	137
2	日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細	
2-1	日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma$ 3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定	171
2-2	日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma$ 3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定	203
2-3	日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma$ 3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定	231

・検討波源モデルA、B-1のパラメータスタディモデルの設定については、第717回審査会合 机上配布資料に記載  
・検討波源モデルB-2、C<sup>※2</sup>および遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル、南海トラフ広域の痕跡再現モデルについては、  
第981回審査会合 机上配布資料に記載

※2第981回審査会合からの変更点として、検討波源モデルCについてはライズタイムを150sとしている。

## **1 検討波源モデルDの詳細**

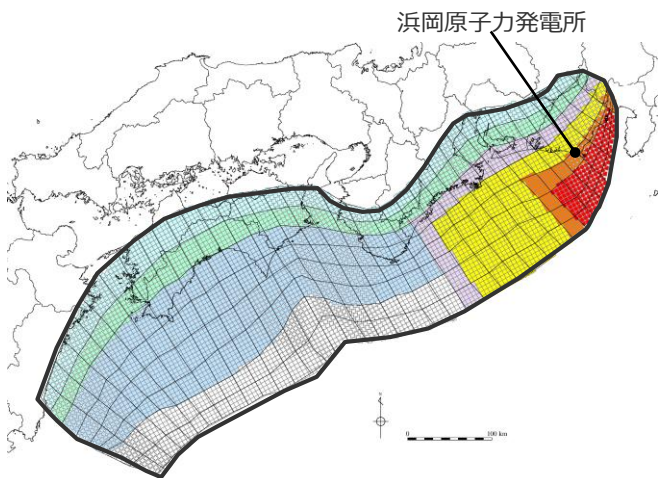
### **1-1 東海地域の大すべり域が1箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定**

---

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ100kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を東へ100kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ100kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
37.0	11.1

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ100kmとしたケース

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ100kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					→ 東	
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.1	3.0	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.5	2.2	2.2	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.3	1.3	1.0
	20km↓	2	7.2	7.2	7.0	7.0	6.8	6.8	6.2	6.0	6.0	5.8	5.7	5.7	5.5	5.3	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	5.0	5.0	4.4	4.4	3.7	3.7	3.7	2.9	2.9	2.9	2.6	2.6	1.9
		3	14.4	14.4	13.9	13.9	13.6	13.6	12.3	12.3	11.9	11.6	11.6	11.4	11.0	11.0	10.7	10.7	10.4	10.4	10.1	10.1	10.1	9.7	9.7	11.4	11.0	11.0	11.7	11.7	10.3	10.3	8.8	8.8	8.8	6.9	6.9	6.2	6.2	4.5
	10km↓	4	14.4	14.4	13.9	13.9	13.6	13.6	12.3	12.3	11.9	11.9	11.6	11.4	11.4	11.0	10.7	10.7	10.4	10.4	10.4	10.1	10.1	9.7	9.7	13.8	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1
		5	14.4	14.4	13.9	13.9	13.6	13.6	13.6	12.3	12.3	11.9	11.6	11.6	11.4	11.4	11.0	10.7	10.7	10.4	10.4	10.4	10.1	10.1	9.7	13.8	17.9	17.3	17.3	20.8	18.5	18.5	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	16.4	14.7	14.7
	0km↓	6	14.4	14.4	13.9	13.9	13.6	13.6	13.6	12.3	12.3	11.9	11.9	11.6	11.4	11.4	11.0	10.7	10.7	10.7	10.4	10.4	10.1	10.1	9.7	13.8	17.9	17.9	17.3	20.8	20.8	18.5	27.7	32.6	32.6	27.7	27.7	21.9	19.6	14.7
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	27.7	37.0	32.6	32.6	27.7	21.9	19.6	14.7
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	18.1	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	31.3	37.0	37.0	32.6	27.7	21.9	19.6	14.7	

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ100kmとしたケースの断層パラメータの設定)

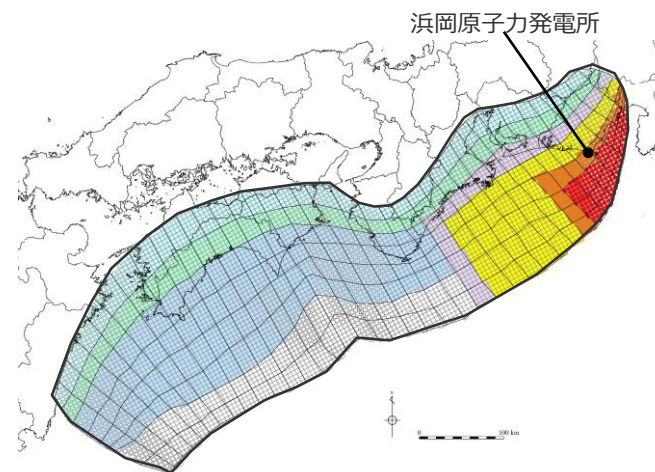
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ100kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	5.5×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.1
	最大すべり量 (m)	37.0
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		32.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.0×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	21.6
	最大すべり量 (m)	37.0

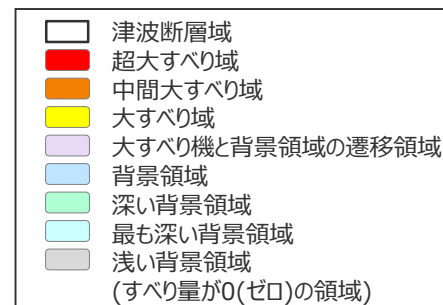
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,438km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(11,714km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ100kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ90kmとしたケースの断層パラメータの設定)

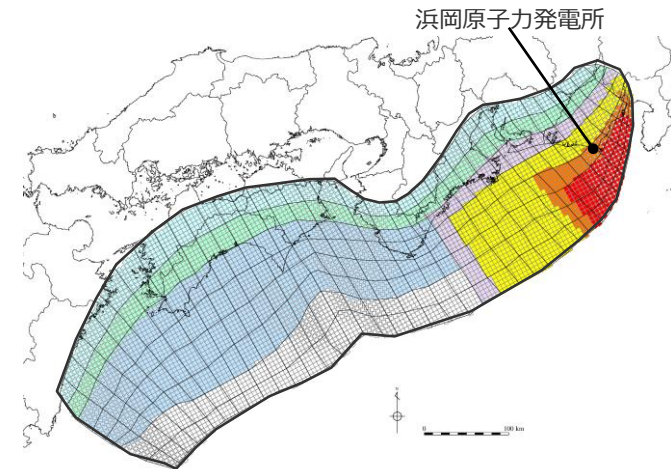
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ90kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	5.5×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.0
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.1×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	22.1
	最大すべり量 (m)	41.7

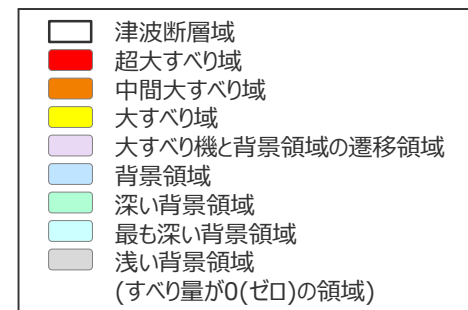
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,438km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(11,714km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ90kmとしたケース



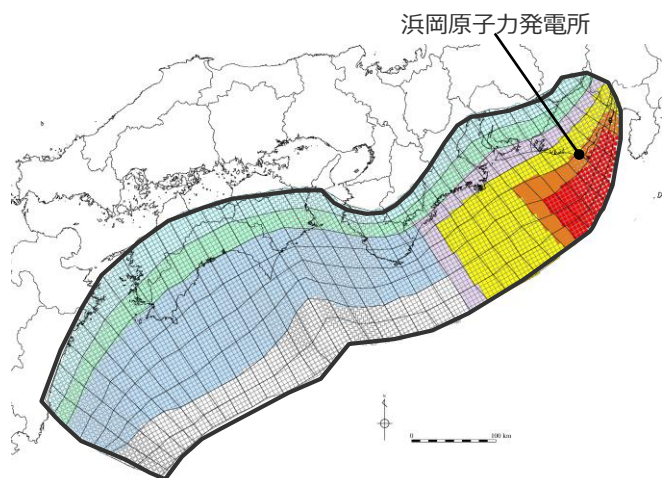
主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を東へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	11.2

	津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ80kmとしたケース

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東																																			
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																			
	30km↓	1	3.6	3.6	3.4	3.4	3.3	3.3	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.4	2.2	2.2	1.8	1.8	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.3	0.9	0.9																																			
	20km↓	2	7.1	7.1	6.9	6.9	6.7	6.7	6.1	5.9	5.9	5.7	5.6	5.6	5.4	5.3	5.1	5.1	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.7	4.7	4.6	4.9	4.9	4.3	4.3	3.7	3.7	3.7	2.9	2.9	2.9	2.6	2.6	1.9																																				
		3	14.2	14.2	13.8	13.8	13.4	13.4	12.1	12.1	11.8	11.5	11.5	11.2	10.8	10.8	10.5	10.5	10.3	10.3	9.9	9.9	9.9	9.6	9.6	11.3	10.9	10.9	11.7	11.7	10.3	10.3	8.7	8.7	8.7	6.9	6.9	6.2	6.2	4.5																																			
	10km↓	4	14.2	14.2	13.8	13.8	13.4	13.4	12.1	12.1	11.8	11.8	11.5	11.2	11.2	10.8	10.5	10.5	10.3	10.3	10.3	9.9	9.9	9.6	9.6	13.8	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1																																			
		5	14.2	14.2	13.8	13.8	13.4	13.4	13.4	12.1	12.1	11.8	11.8	11.5	11.2	11.2	10.8	10.5	10.5	10.3	10.3	10.3	9.9	9.9	9.6	9.6	13.8	17.9	17.3	17.3	20.8	18.5	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	16.4	14.7	9.8																																		
	0km↓	6	14.2	14.2	13.8	13.8	13.4	13.4	13.4	12.1	12.1	11.8	11.8	11.5	11.2	11.2	10.8	10.5	10.5	10.3	10.3	10.3	9.9	9.9	9.6	9.6	13.8	17.9	17.9	17.3	20.8	20.8	27.7	37.0	32.6	32.6	27.7	27.7	21.9	14.7	9.8																																		
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	31.3	37.0	37.0	32.6	32.6	27.7	21.9	14.7	9.8																																			
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	18.1	17.9	17.3	17.3	20.8	31.3	41.7	37.0	37.0	32.6	27.7	21.9	14.7	9.8																																					

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

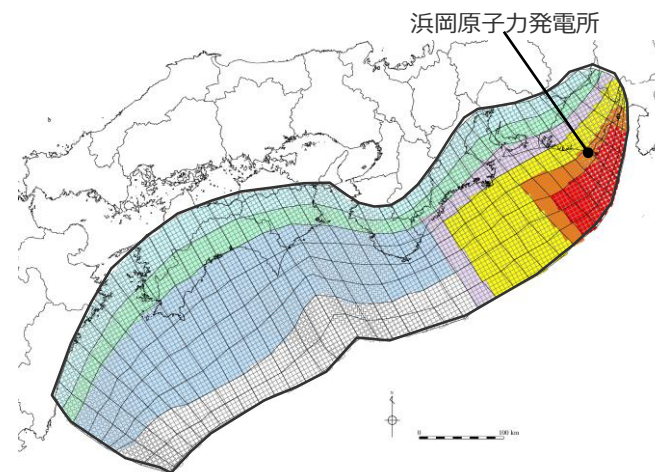
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	5.6×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.0
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.1×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	22.8
	最大すべり量 (m)	41.7

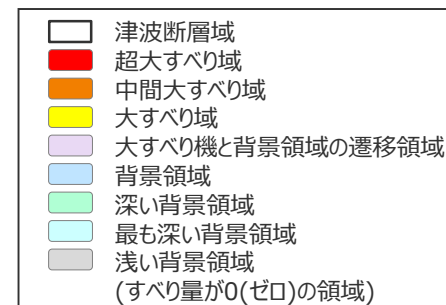
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,438km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(11,714km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ80kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

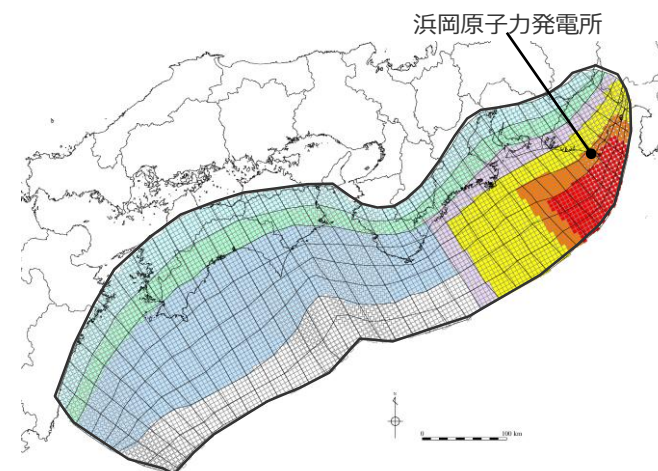
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$5.6 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.0
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	23.4
	最大すべり量 (m)	41.7

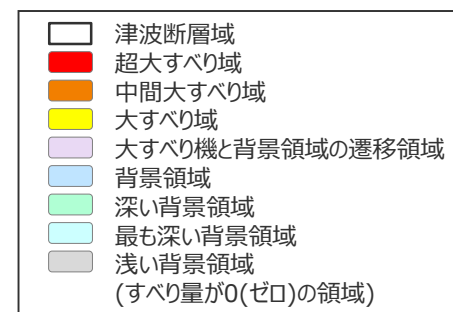
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,438km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(11,714km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ70kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層





# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

### 検討波源モデルD

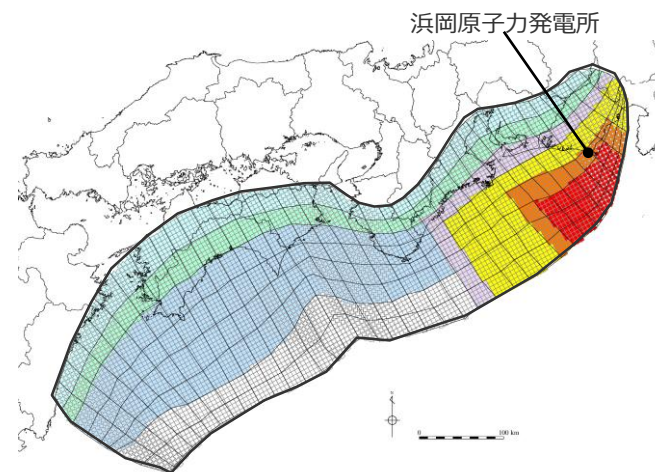
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	5.6×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.3
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.0
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.2×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	24.1
	最大すべり量 (m)	41.7

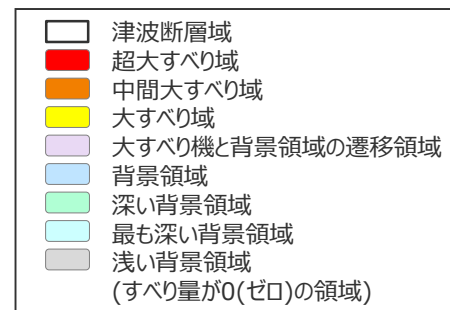
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,438km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(11,714km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

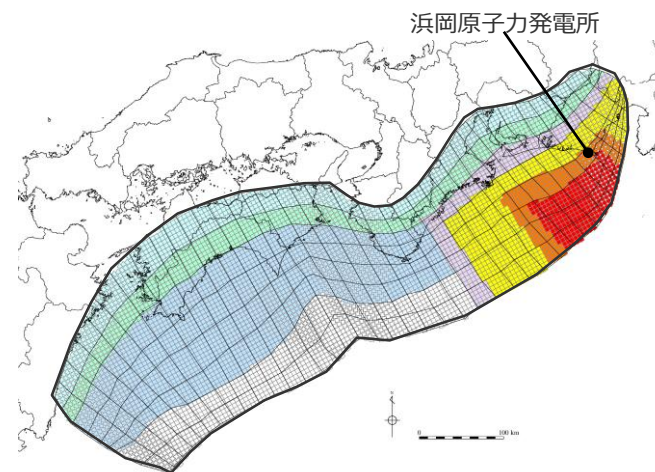
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	5.7×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.4
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.2×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	24.8
	最大すべり量 (m)	41.7

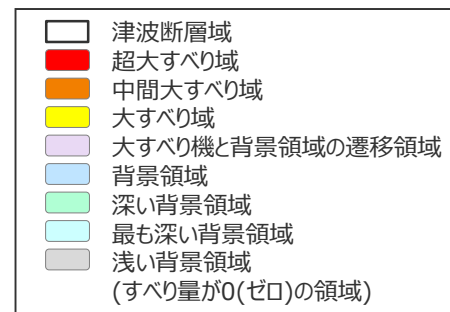
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,438km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(11,714km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケース



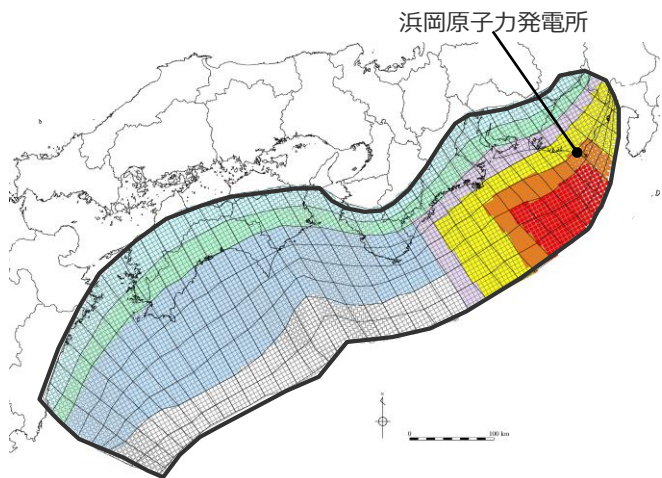
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	11.4

津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					→ 東																																			
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																		
	30km↓	1	3.5	3.5	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	2.9	2.8	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.4	2.1	2.1	1.8	1.8	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.3	0.9	0.9																																			
	20km↓	2	6.9	6.9	6.7	6.7	6.5	6.5	5.9	5.7	5.7	5.6	5.5	5.3	5.1	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.8	4.8	4.2	4.2	3.6	3.6	3.6	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8																																			
		3	13.8	13.8	13.4	13.4	13.0	13.0	11.8	11.8	11.4	11.1	11.1	10.9	10.5	10.5	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.3	9.3	11.3	10.9	10.9	11.6	11.6	10.2	10.2	8.7	8.7	8.7	6.9	6.9	6.2	6.2	4.5																																		
	10km↓	4	13.8	13.8	13.4	13.4	13.0	13.0	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	10.9	10.9	10.5	10.3	10.3	10.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.3	9.3	13.6	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1																																		
		5	13.8	13.8	13.4	13.4	13.0	13.0	13.0	11.8	11.8	11.4	11.1	11.1	10.9	10.9	10.5	10.3	10.3	10.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.3	13.6	17.9	17.3	17.3	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	16.4	10.9	9.8	9.8																																		
	0km↓	6	13.8	13.8	13.4	13.4	13.0	13.0	13.0	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	10.9	10.9	10.5	10.3	10.3	10.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.3	13.6	17.9	17.9	17.3	31.3	41.7	37.0	37.0	32.6	32.6	27.7	20.7	10.9	9.8	9.8																																		
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	17.9	17.9	17.3	25.9	41.7	41.7	37.0	37.0	32.6	32.6	20.7	10.9	9.8	9.8																																		
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	18.1	17.9	17.3	25.9	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	32.6	20.7	10.9	9.8	9.8																																				

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

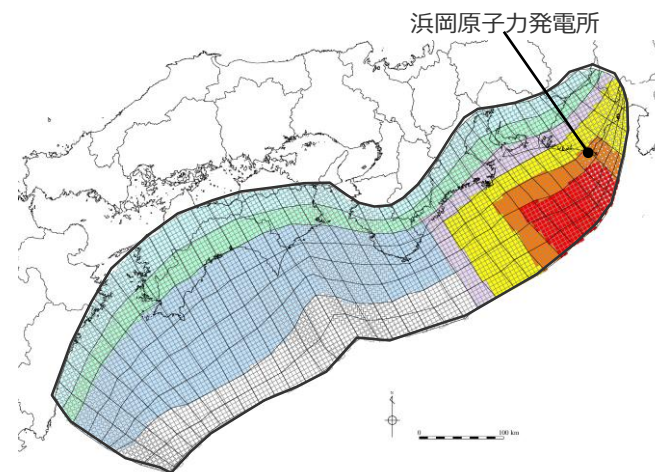
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$5.7 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.4
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.5
	最大すべり量 (m)	41.7

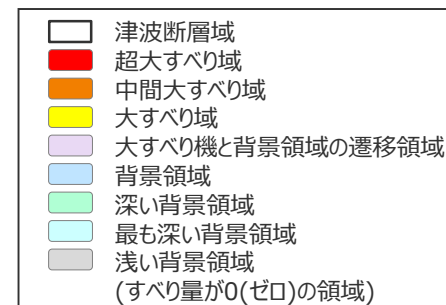
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,438km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(11,714km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

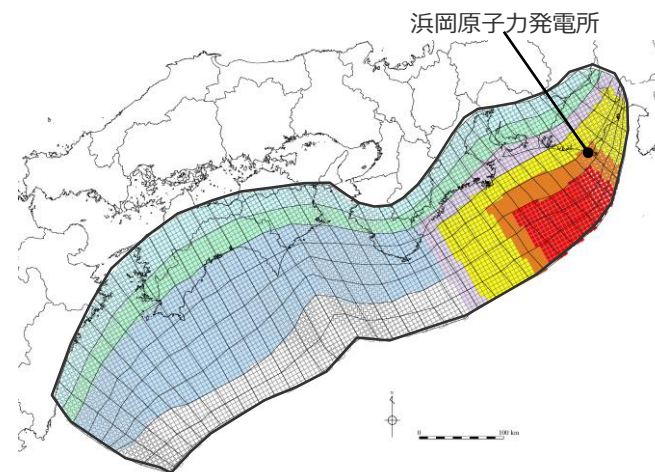
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	5.8×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.5
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.3×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	25.7
	最大すべり量 (m)	41.7

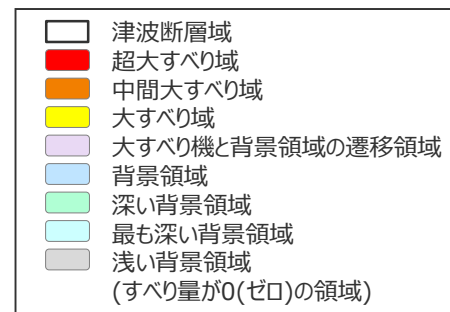
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(121,991km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(12,267km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース



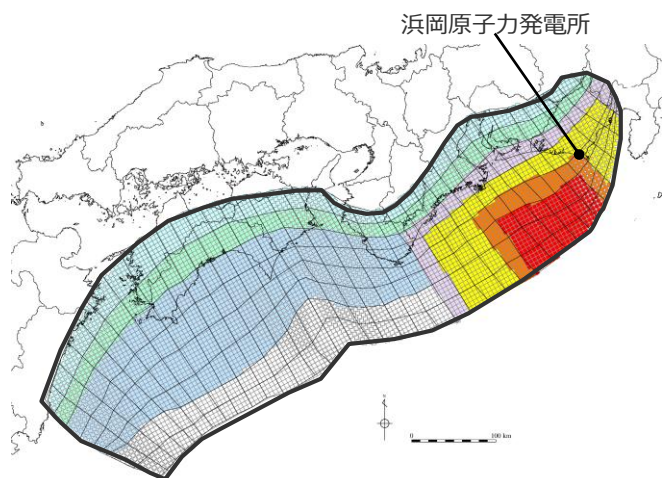
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	11.6

	津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				→ 東		
陸側 ⇄	海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	0.9
20km↓	2	6.8	6.8	6.5	6.5	6.4	6.4	5.8	5.6	5.6	5.4	5.3	5.1	5.0	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.5	4.3	4.6	4.6	4.1	4.1	3.5	3.5	3.5	2.7	2.7	2.5	2.5	1.8			
	3	13.5	13.5	13.1	13.1	12.7	12.7	11.5	11.5	11.2	10.9	10.9	10.6	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	9.1	11.2	11.2	10.8	10.8	11.6	11.6	10.2	10.2	8.7	8.7	8.7	6.8	6.8	6.1	6.1	5.8	
10km↓	4	13.5	13.5	13.1	13.1	12.7	12.7	11.5	11.5	11.2	11.2	10.9	10.6	10.6	10.3	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.1	13.5	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	4.9	
	5	13.5	13.5	13.1	13.1	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.2	10.9	10.9	10.6	10.6	10.3	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	13.7	17.9	17.9	17.3	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	20.7	20.7	10.9	10.9	9.8	4.9	
0km↓	6	13.5	13.5	13.1	13.1	12.7	12.7	12.7	11.5	11.5	11.2	10.9	10.6	10.6	10.3	10.0	10.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.4	13.8	18.1	17.9	17.9	25.9	41.7	41.7	37.0	37.0	32.6	32.6	20.7	13.8	10.9	9.8	4.9	
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	18.1	17.9	17.9	25.9	34.6	41.7	41.7	37.0	37.0	32.6	24.4	13.8	10.9	9.8	4.9	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	18.1	18.1	17.9	25.9	34.6	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	24.4	13.8	10.9	9.8	4.9		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

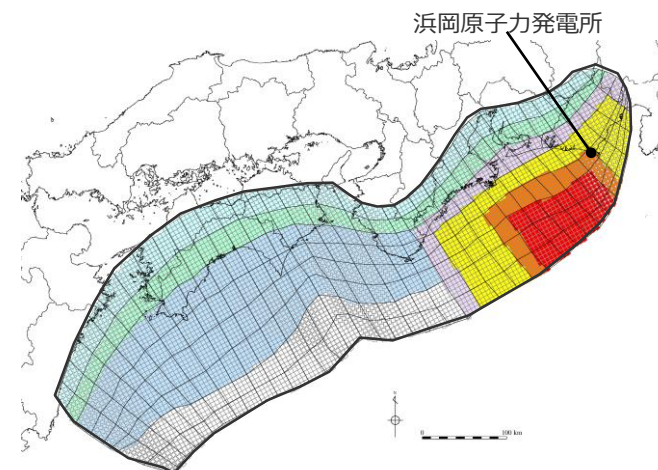
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$5.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.6
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.9
	最大すべり量 (m)	41.7

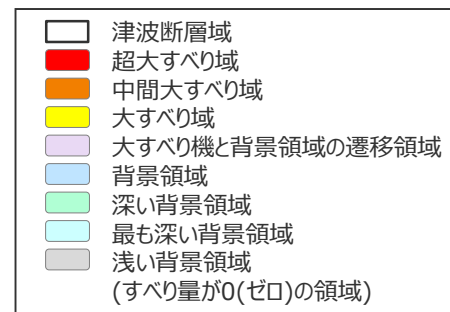
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(122,544km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(12,820km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース



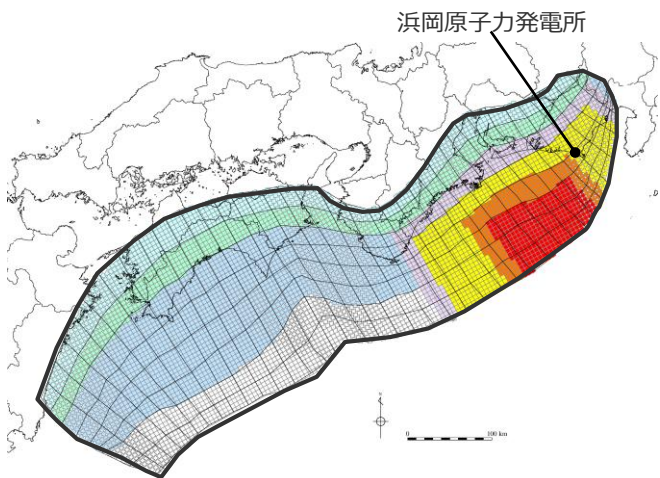
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	11.7

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- } 津波断層域の全面積の約20%

西 ←

検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

⇒ 東

深度	検討波源モデルDの大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)																																																																								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																			
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																			
30km↓	1	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.0	2.0	2.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2	0.9	0.9	0.9	0.9							
20km↓	2	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.5	6.5	6.3	6.3	6.3	6.3	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.4	5.4	5.3	5.3	5.3	5.1	5.1	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	4.6	4.6	4.6	4.6	4.1	4.1	4.1	4.1	3.4	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.7	2.7	2.4	2.4	2.4	2.4	1.8	1.8									
10km↓	3	13.4	13.4	13.4	13.0	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.6	12.6	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	10.8	10.8	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	9.4	9.0	11.3	11.2	11.2	10.8	10.8	10.8	11.6	11.6	11.6	10.2	10.2	10.2	10.2	8.6	8.6	8.6	8.6	6.8	6.8	6.8	6.8	6.1	4.8	4.8	4.8	3.3	3.5									
5km↓	4	13.4	13.4	13.4	13.0	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.6	12.6	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	10.8	10.8	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	9.9	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	9.4	9.0	13.7	13.5	18.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	9.8	7.2	4.9	3.5							
2km↓	5	13.4	13.4	13.4	13.0	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.6	12.6	12.6	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	10.8	10.8	10.8	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	9.9	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	9.4	13.7	13.6	18.1	17.9	17.9	17.9	17.3	25.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	27.7	27.7	24.4	24.4	24.4	24.4	20.7	20.7	20.7	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.9	4.9	4.9						
0km↓	6	13.4	13.4	13.4	13.0	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.6	12.6	12.6	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	10.8	10.8	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	9.9	9.9	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	9.4	13.7	13.7	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	17.9	17.9	26.9	25.9	25.9	34.6	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	37.0	37.0	32.6	32.6	24.4	24.4	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.9	4.9	4.9
0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.7	13.7	18.1	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	17.9	26.9	25.9	25.9	34.6	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	37.0	37.0	32.6	24.4	24.4	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.9	4.9	4.9			
0km↓	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.7	13.7	18.1	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	17.9	26.9	25.9	25.9	34.6	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	37.0	37.0	27.7	24.4	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.9	4.9	4.9					

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

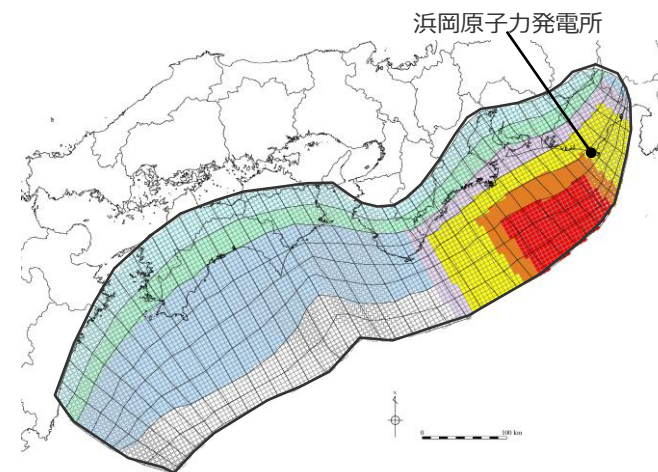
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$5.9 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.9
	最大すべり量 (m)	41.7

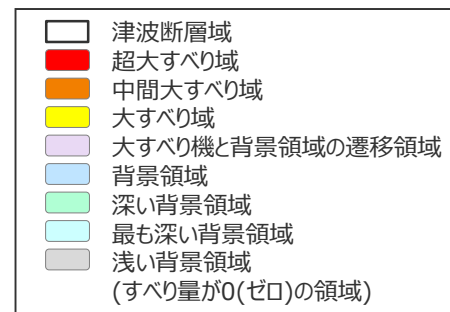
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,097km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(13,372km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層





# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

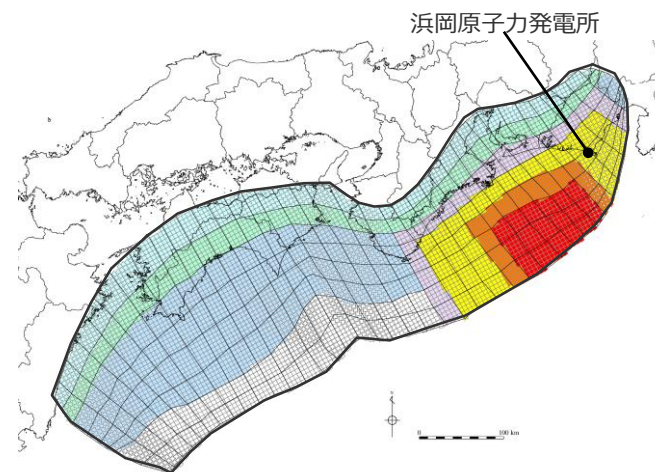
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.0×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.5×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	26.0
	最大すべり量 (m)	41.7

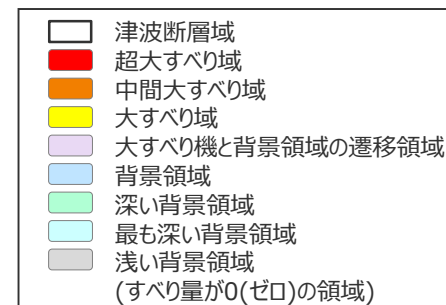
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,700km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(13,975km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を基準位置としたケース



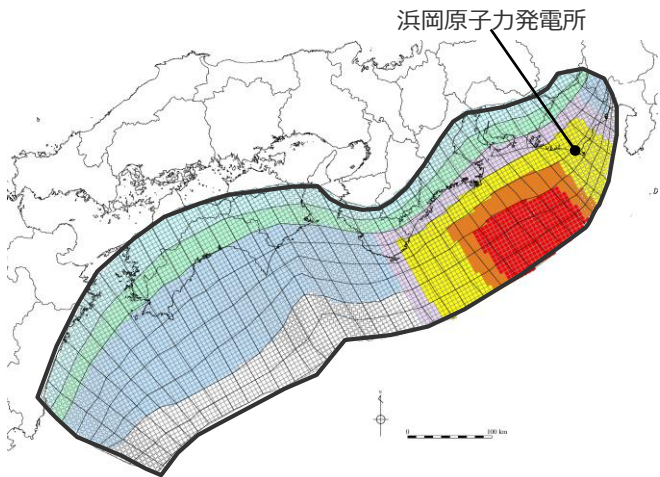
主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	11.8

	津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

西 ← 検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m) → 東

深度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																														
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																														
30km↓	1	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.1	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.3	2.3	2.0	2.0	2.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.2	1.2	0.9	0.9	0.9	0.9										
20km↓	2	6.6	6.6	6.6	6.6	6.4	6.4	6.4	6.4	6.2	6.2	6.2	6.2	5.6	5.6	5.5	5.5	5.5	5.5	5.3	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2	4.5	4.5	4.5	4.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.7	2.7	2.4	2.4	2.4	2.4	1.7	1.7								
10km↓	3	13.2	13.2	13.2	13.2	12.8	12.8	12.8	12.8	12.4	12.4	12.4	12.4	11.3	11.3	11.3	11.3	10.9	10.9	10.6	10.6	10.6	10.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.1	11.3	11.3	11.3	11.3	11.2	11.2	10.8	10.8	10.8	11.5	11.5	11.5	10.1	10.1	10.1	10.1	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	6.8	6.8	6.8	6.8	4.8	4.8	4.8	3.5	3.5					
0km↓	4	13.2	13.2	13.2	13.2	12.8	12.8	12.8	12.8	12.4	12.4	12.4	12.4	11.3	11.3	11.3	11.3	10.9	10.9	10.9	10.9	10.6	10.6	10.6	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	13.7	13.7	18.1	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	7.9	7.2	4.8	3.5	3.5
	5	13.2	13.2	13.2	13.2	12.8	12.8	12.8	12.8	12.4	12.4	12.4	12.4	11.3	11.3	11.3	11.3	10.9	10.9	10.6	10.6	10.6	10.6	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.2	14.1	13.7	18.8	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	17.9	26.9	25.9	25.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	27.7	27.7	24.4	24.4	24.4	24.4	20.7	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	8.6	7.9	4.8	4.8	4.8				
	6	13.2	13.2	13.2	13.2	12.8	12.8	12.8	12.8	12.4	12.4	12.4	12.4	11.3	11.3	11.3	11.3	10.9	10.9	10.9	10.9	10.6	10.6	10.6	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.2	14.1	13.7	18.8	18.1	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	26.9	26.9	35.8	34.6	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	37.0	37.0	32.6	24.4	24.4	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	9.3	7.9	4.8	4.8	4.8			
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	13.7	18.8	18.1	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	26.9	26.9	35.8	34.6	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	37.0	37.0	27.7	24.4	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.9	8.6	7.9	0.0	0.0	0.0		
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	13.7	18.8	18.8	18.8	18.1	18.1	18.1	27.2	26.9	35.8	34.6	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	41.7	37.0	27.7	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	10.9	8.6	7.9	0.0	0.0	0.0						

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

### 検討波源モデルD

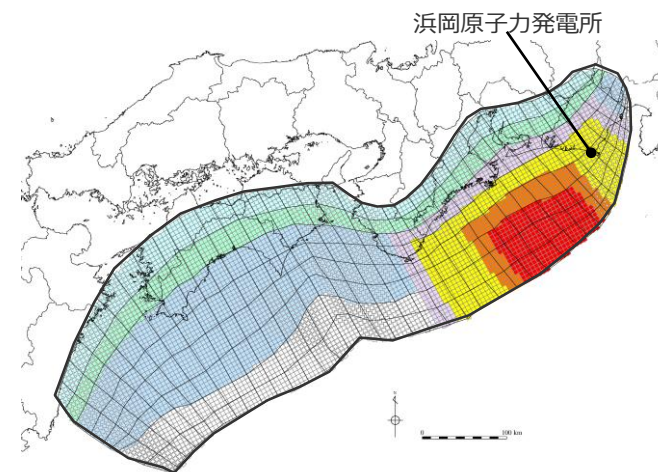
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.0×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.5×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	26.5
	最大すべり量 (m)	41.7

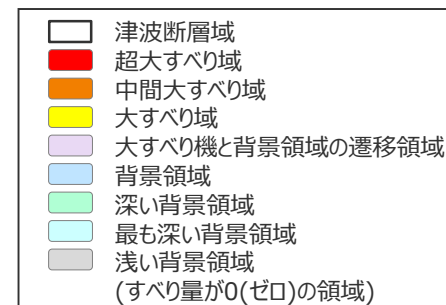
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,951km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,227km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース



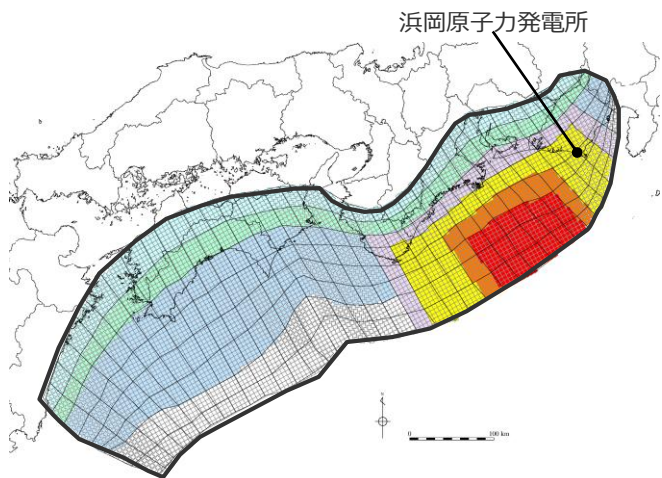
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1 検討波源モデルDの詳細

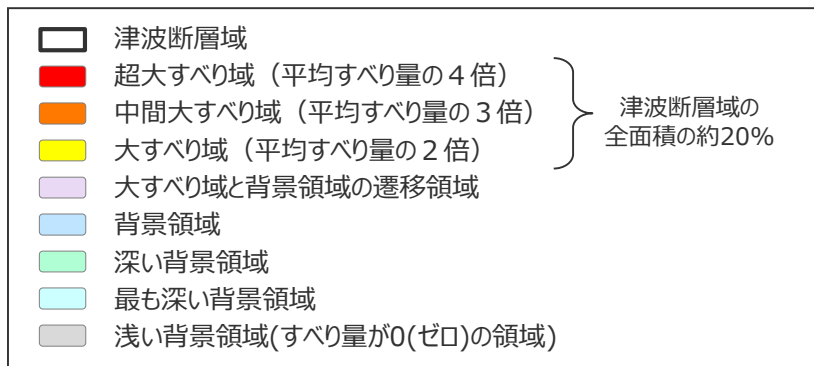
## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	11.9



検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					→ 東	
陸側 ⇄	海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	2.8	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.2	2.0	2.0	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.9
20km↓	2	6.5	6.5	6.3	6.3	6.1	6.1	5.6	5.4	5.4	5.3	5.1	5.1	5.0	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.5	4.5	4.0	4.0	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.7	2.4	2.4	1.7	
	3	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	11.1	11.1	10.8	10.5	10.5	10.3	9.9	9.9	9.7	9.7	9.4	9.4	9.1	9.1	11.3	11.3	11.3	11.1	10.7	10.7	11.5	11.5	10.1	10.1	8.6	8.6	8.6	6.8	6.8	6.7	4.7	3.4	
10km↓	4	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.3	10.3	9.9	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	9.1	14.3	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	7.8	4.7	3.4	
	5	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	12.3	11.1	11.1	10.8	10.5	10.5	10.3	10.3	9.9	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	14.7	18.8	18.1	17.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	24.4	13.8	13.8	10.9	7.8	4.7	4.7	
0km↓	6	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	12.3	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.3	10.3	9.9	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	14.7	18.8	18.1	18.1	26.9	35.8	34.6	41.7	41.7	37.0	37.0	24.4	16.3	13.8	13.8	9.3	4.7	4.7	
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	18.8	18.1	18.1	26.9	35.8	34.6	34.6	41.7	41.7	37.0	27.7	16.3	16.3	13.8	9.3	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	18.8	18.8	18.1	27.2	35.8	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	27.7	18.5	16.3	13.8	9.3	0.0	0.0	

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10km の位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

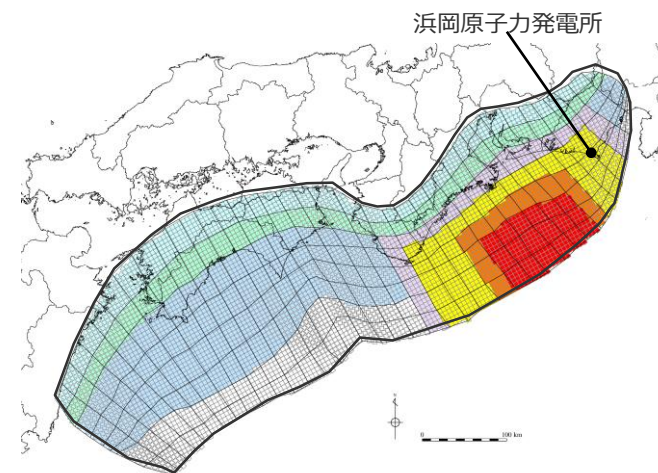
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.1×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.6×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	26.9
	最大すべり量 (m)	41.7

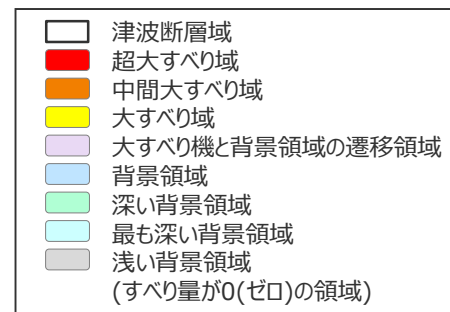
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,294km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,570km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース



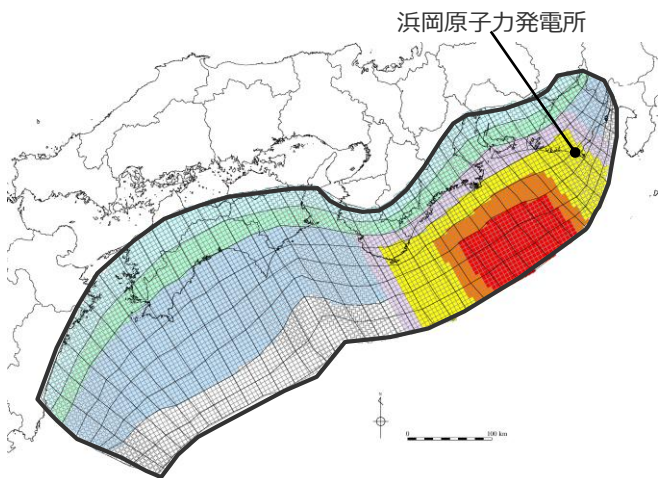
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1 検討波源モデルDの詳細

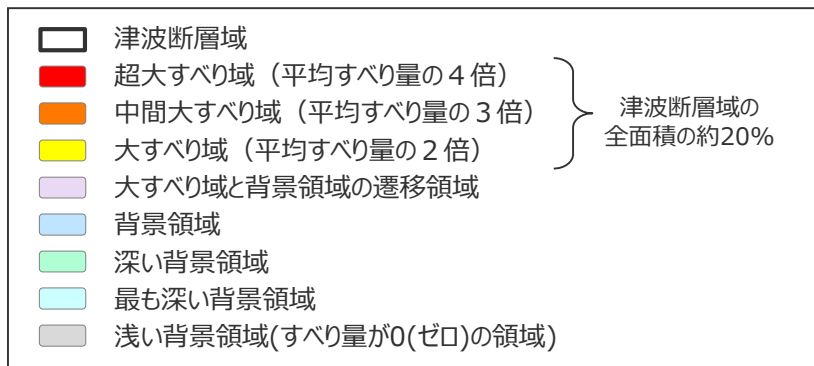
## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.0



検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

西 ← 検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m) → 東

深度	小断層のすべり量分布 (m)																																																																										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																					
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																					
30km↓	1	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.2	2.2	2.0	2.0	2.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.2	0.9	0.9	0.9	0.9															
20km↓	2	6.5	6.5	6.5	6.5	6.3	6.3	6.3	6.3	6.1	6.1	6.1	6.1	5.5	5.5	5.4	5.4	5.4	5.2	5.2	5.1	5.1	5.1	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.5	4.5	4.5	4.5	3.9	3.9	3.9	3.9	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	2.6	2.6	2.6	2.6	2.4	2.4	2.4	2.4	1.7	1.7							
10km↓	3	13.0	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.6	12.6	12.2	12.2	12.2	12.2	11.1	11.1	11.1	11.1	10.7	10.7	10.5	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.6	9.4	9.4	9.4	9.4	9.4	9.4	9.1	9.1	11.6	9.1	11.6	11.3	11.3	11.3	11.1	11.1	10.7	10.7	10.7	11.5	11.5	11.5	10.1	10.1	10.1	10.1	8.6	8.6	8.6	8.6	6.8	6.1	6.8	6.1	3.5	4.7	4.7	4.7	3.4	3.4		
5km↓	4	13.0	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.6	12.6	12.2	12.2	12.2	12.2	11.1	11.1	11.1	11.1	10.7	10.7	10.5	10.5	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.6	9.4	9.4	9.4	9.4	9.4	9.4	14.1	13.6	18.8	18.1	18.1	18.1	18.1	17.9	17.9	17.9	17.3	17.3	20.8	20.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	9.6	7.8	5.3	4.7	4.7	4.7	3.4	3.4	
0km↓	5	13.0	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.6	12.6	12.2	12.2	12.2	12.2	11.1	11.1	11.1	11.1	10.7	10.7	10.5	10.5	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.6	9.4	9.4	9.4	9.4	9.4	14.1	14.1	18.8	18.8	18.1	18.1	18.1	18.1	26.9	26.9	26.9	25.9	25.9	25.9	31.3	31.3	27.7	27.7	27.7	27.7	24.4	24.4	24.4	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	9.6	8.6	5.3	4.7	4.7	4.7	4.7
0km↓	6	13.0	13.0	13.0	13.0	12.6	12.6	12.6	12.6	12.2	12.2	12.2	12.2	11.1	11.1	11.1	11.1	10.7	10.7	10.7	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.6	9.4	9.4	9.4	9.4	9.4	14.1	14.1	18.8	18.8	18.1	18.1	18.1	18.1	27.2	26.9	35.8	35.8	35.8	35.8	34.6	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	27.7	24.4	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	10.2	9.3	5.3	4.7	4.7	4.7		
0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	14.1	19.4	18.8	18.8	18.1	18.1	18.1	27.2	26.9	35.8	35.8	35.8	34.6	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	27.7	24.4	16.3	16.3	13.8	13.8	9.6	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0				
0km↓	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	14.1	19.4	18.8	18.8	18.8	18.1	18.1	27.2	27.2	36.3	35.8	35.8	34.6	34.6	34.6	41.7	41.7	41.7	41.7	37.0	37.0	27.7	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	9.6	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0			

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10km の位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

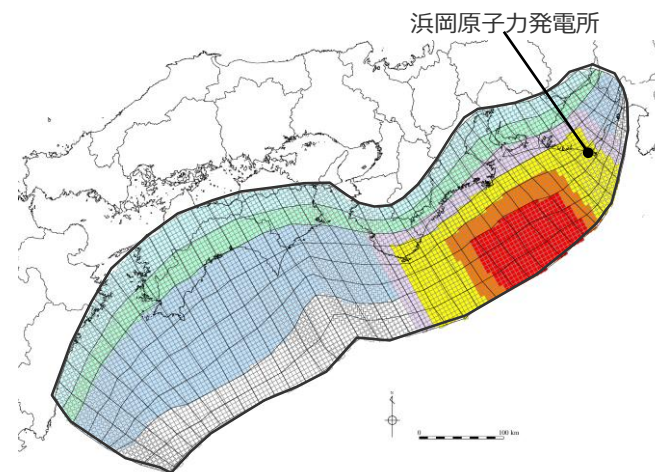
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.1×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.0
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.7×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	27.1
	最大すべり量 (m)	41.7

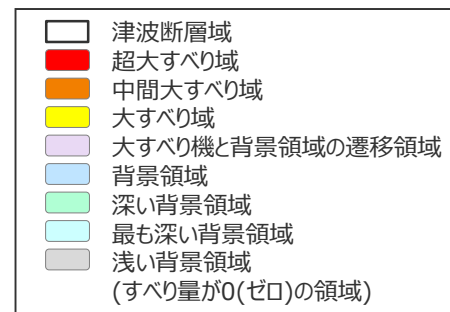
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,589km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,864km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース



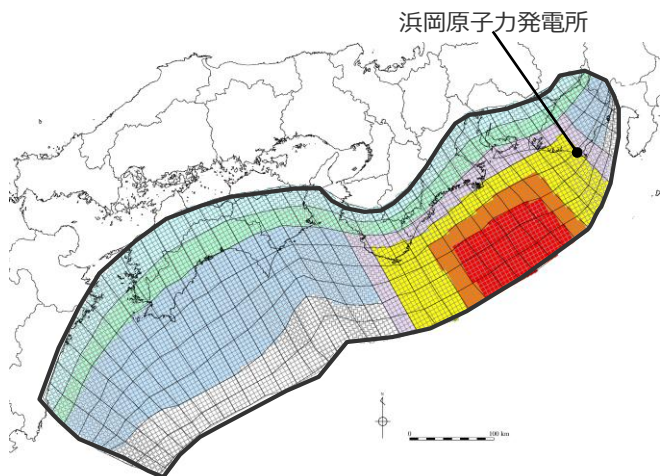
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.1

- 津波断層域
- 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
- 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
- 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
- 大すべり域と背景領域の遷移領域
- 背景領域
- 深い背景領域
- 最も深い背景領域
- 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)

津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					⇒ 東																																				
陸側⇄海溝軸側	深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																			
	30km↓	1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	1.9	1.9	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.8	0.8																																		
	20km↓	2	6.4	6.4	6.2	6.2	6.0	6.0	5.5	5.3	5.3	5.2	5.1	5.1	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.4	4.4	3.9	3.9	3.3	3.3	3.3	2.6	2.6	2.6	2.3	2.3	1.7																																			
		3	12.8	12.8	12.4	12.4	12.1	12.1	11.0	11.0	10.6	10.3	10.3	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.0	11.6	11.3	11.2	11.2	11.1	10.7	10.7	11.5	11.5	10.1	10.1	8.6	8.6	8.6	8.2	8.2	4.7	4.7	3.4																																			
	10km↓	4	12.8	12.8	12.4	12.4	12.1	12.1	11.0	11.0	10.6	10.6	10.3	10.1	10.1	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	14.0	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	9.5	5.2	4.7	3.4																																			
		5	12.8	12.8	12.4	12.4	12.1	12.1	12.1	11.0	11.0	10.6	10.3	10.3	10.1	10.1	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	14.0	18.8	18.8	18.1	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	24.4	16.3	13.8	13.8	9.5	5.2	4.7	4.7																																			
	0km↓	6	12.8	12.8	12.4	12.4	12.1	12.1	12.1	11.0	11.0	10.6	10.6	10.3	10.1	10.1	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	14.0	18.8	18.8	18.1	27.2	35.8	35.8	34.6	41.7	41.7	37.0	27.7	16.3	16.3	13.8	9.5	5.2	4.7	4.7																																			
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	19.4	18.8	18.1	27.2	35.8	35.8	34.6	34.6	41.7	41.7	27.7	18.5	16.3	16.3	9.5	0.0	0.0	0.0																																			
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	19.4	18.8	18.8	27.2	36.3	35.8	34.6	34.6	41.7	41.7	31.3	18.5	18.5	16.3	9.5	0.0	0.0	0.0																																				

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

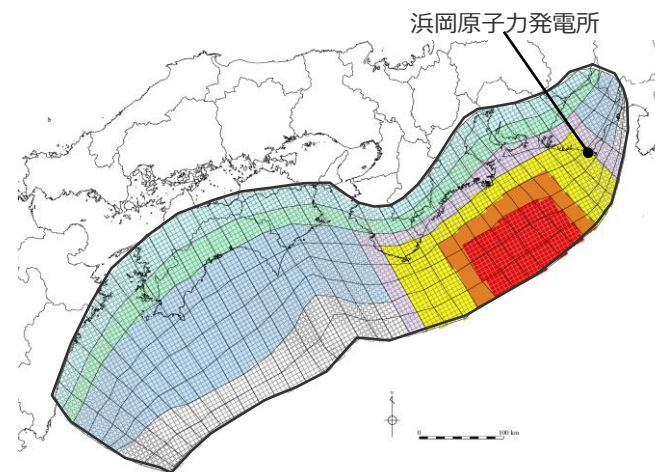
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.7×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	27.4
	最大すべり量 (m)	41.7

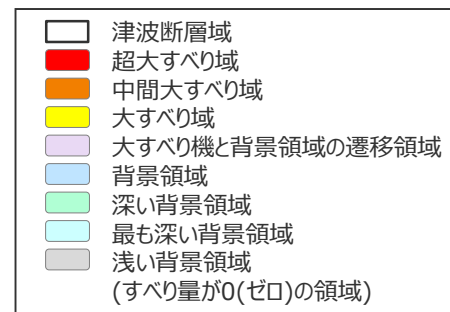
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,782km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,058km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

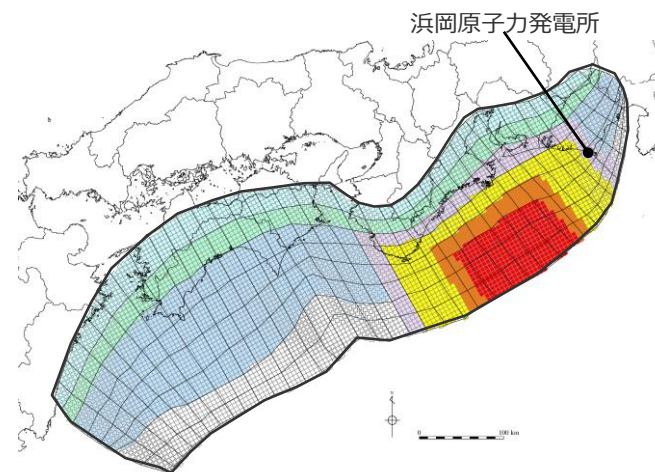
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.7×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	27.8
	最大すべり量 (m)	41.7

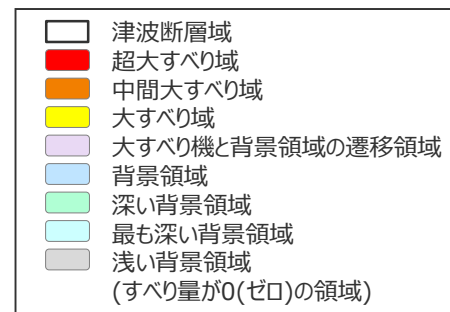
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,602km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,877km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース



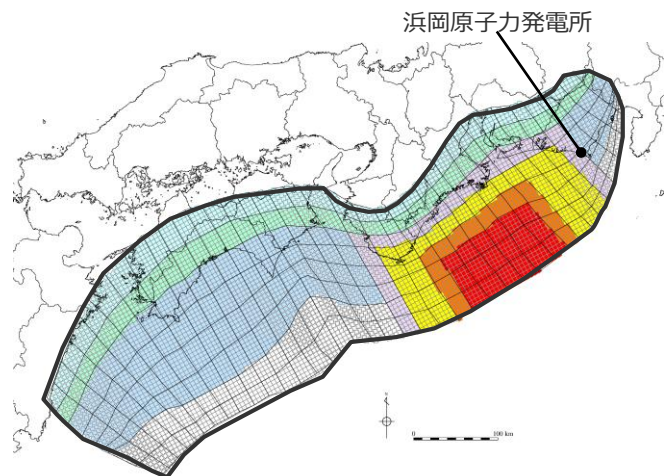
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.1

	津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

検討波源モデルDの大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				→ 東		
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	2.8	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.2	2.0	2.0	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.9	0.9
	20km↓	2	6.5	6.5	6.3	6.3	6.1	6.1	5.6	5.4	5.4	5.3	5.1	5.1	5.0	4.8	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.5	4.5	4.0	4.0	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.7	2.4	2.4	1.7
		3	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	11.1	11.1	10.8	10.5	10.5	10.3	9.9	9.9	9.7	9.7	9.4	9.4	9.1	11.7	11.3	11.3	11.3	11.1	10.7	10.7	11.5	11.5	10.1	10.1	8.6	8.6	8.6	8.2	5.3	4.7	4.7	3.4
	10km↓	4	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.3	10.3	9.9	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	14.1	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	9.6	5.3	5.3	4.7	3.4
		5	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	12.3	11.1	11.1	10.8	10.5	10.5	10.3	10.3	9.9	9.7	9.7	9.4	9.4	14.1	18.8	18.8	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	27.7	27.7	16.3	16.3	13.8	9.6	5.3	5.3	4.7	4.7
	0km↓	6	13.0	13.0	12.6	12.6	12.3	12.3	12.3	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.3	10.3	9.9	9.7	9.7	9.7	9.4	14.1	18.8	18.8	27.2	36.3	35.8	35.8	34.6	41.7	41.7	27.7	18.5	16.3	16.3	11.5	6.7	5.3	4.7	4.7
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	19.4	18.8	27.2	36.3	35.8	35.8	34.6	34.6	41.7	31.3	18.5	18.5	16.3	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	19.4	18.8	28.1	36.3	36.3	35.8	34.6	34.6	41.7	31.3	20.8	18.5	18.5	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



# 1 検討波源モデルDの詳細

## 1-1 東海地域の大すべり域が1箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

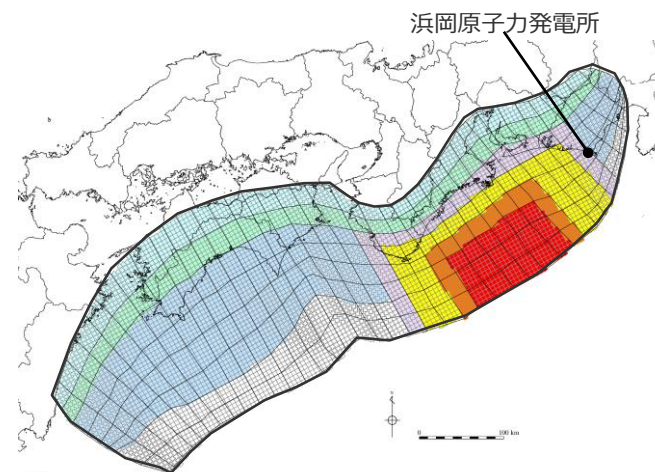
検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		4.5×10 <sup>22</sup>
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		41.7
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.7×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量※3 (m)	28.1
	最大すべり量 (m)	41.7

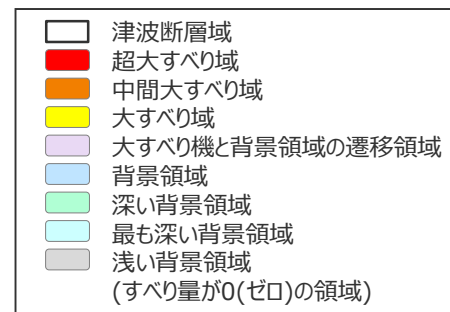
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,293km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,569km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルD  
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

---

余 白

## 1 検討波源モデルDの詳細

### 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

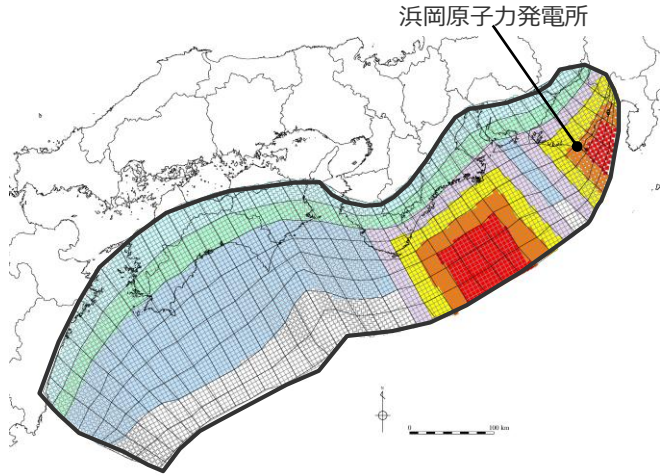
---

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.3	11.7

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- } 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																		⇒ 東																				
陸側⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	2.9	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.3	2.1	2.1	1.8	1.8	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9
海溝軸側⇄	20km↓	2	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.6	5.6	5.5	5.4	5.4	5.2	5.0	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7	4.7	4.1	4.1	3.5	3.5	3.5	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8
		3	13.6	13.6	13.2	13.2	12.8	12.8	11.6	11.6	11.3	11.0	11.0	10.7	10.3	10.3	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	11.4	11.4	11.2	10.8	10.8	11.6	11.6	8.4	8.4	7.0	8.7	8.7	6.9	6.9	6.1	6.1	4.4
	10km↓	4	13.6	13.6	13.2	13.2	12.8	12.8	11.6	11.6	11.3	11.3	11.0	10.7	10.7	10.3	10.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	13.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	18.5	12.7	7.0	10.4	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1
		5	13.6	13.6	13.2	13.2	12.8	12.8	12.8	11.6	11.6	11.3	11.0	11.0	10.7	10.7	10.3	10.1	10.1	9.8	9.8	9.8	14.3	18.8	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	31.3	18.5	13.4	8.3	11.0	13.8	20.7	16.4	16.4	14.7	9.8
	0km↓	6	13.6	13.6	13.2	13.2	12.8	12.8	12.8	11.6	11.6	11.3	11.3	11.0	10.7	10.7	10.3	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	14.3	18.8	27.2	36.3	35.8	35.8	34.6	31.3	20.8	15.1	9.4	12.8	16.3	20.7	27.7	21.9	14.7	9.8
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	18.8	27.2	36.3	35.8	35.8	34.6	25.9	20.8	15.1	0.0	12.8	16.3	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	18.8	28.1	36.3	36.3	35.8	34.6	25.9	20.8	15.1	0.0	12.8	18.5	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

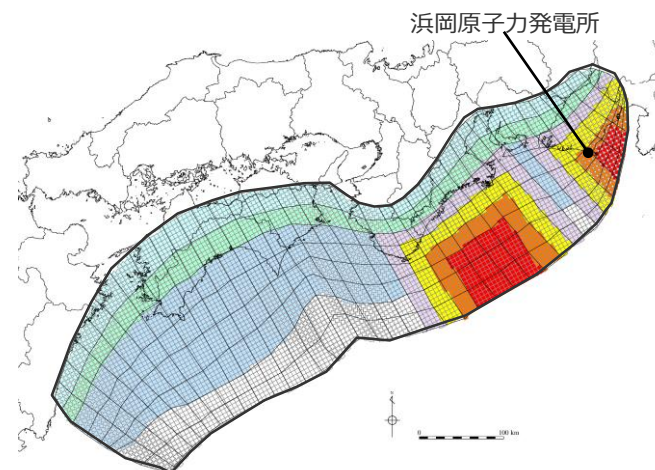
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	36.3
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		36.3
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.5
	最大すべり量 (m)	36.3

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,950km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,225km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

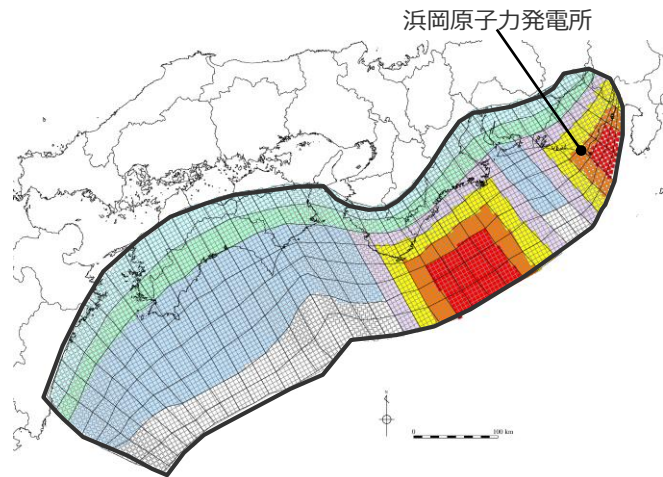
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
37.5	11.7

- 津波断層域
- 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
- 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
- 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
- 大すべり域と背景領域の遷移領域
- 背景領域
- 深い背景領域
- 最も深い背景領域
- 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)

津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				⇒ 東		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.3	2.1	2.1	1.8	1.8	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	0.9	
	30km↓	1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.6	5.6	5.5	5.4	5.4	5.2	5.1	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7	4.7	4.1	4.1	3.5	3.5	3.5	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	13.7	13.7	13.2	13.2	12.8	12.8	11.7	11.7	11.3	11.0	11.0	10.8	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	11.8	11.8	11.4	11.4	11.2	10.8	10.8	11.6	11.6	6.2	8.3	7.0	8.7	8.7	6.9	6.9	6.1	6.1	4.4
	10km↓	3	13.7	13.7	13.2	13.2	12.8	12.8	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	10.8	10.8	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	9.8	14.3	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	13.4	8.3	7.0	10.4	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1
⇄	0km↓	4	13.7	13.7	13.2	13.2	12.8	12.8	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	10.8	10.8	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	14.3	18.8	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	20.8	15.1	9.4	8.3	11.1	13.8	20.7	16.4	16.4	14.7	9.8	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	19.4	28.1	36.3	36.3	35.8	35.8	25.9	17.3	15.1	0.0	0.0	12.8	16.3	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	19.4	28.1	37.5	36.3	36.3	35.8	25.9	17.3	15.1	0.0	0.0	12.8	18.5	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8	

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

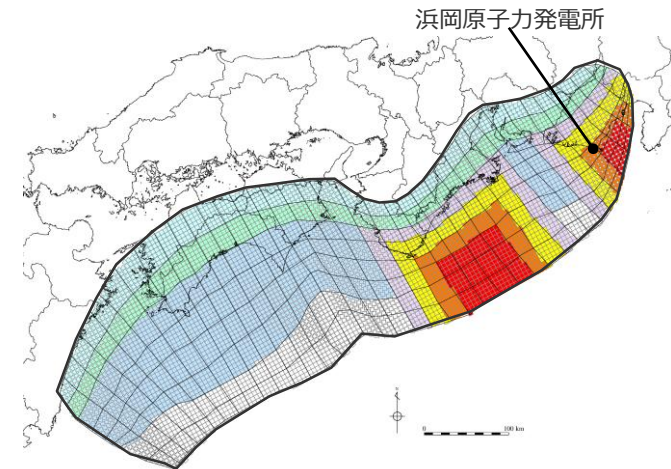
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	37.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		36.3
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.4
	最大すべり量 (m)	37.5

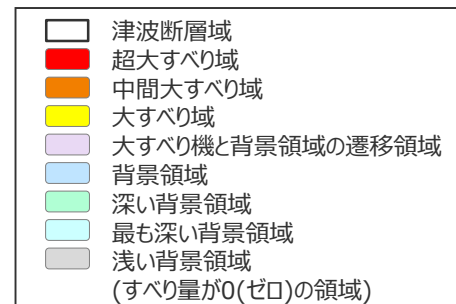
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,050km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,326km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

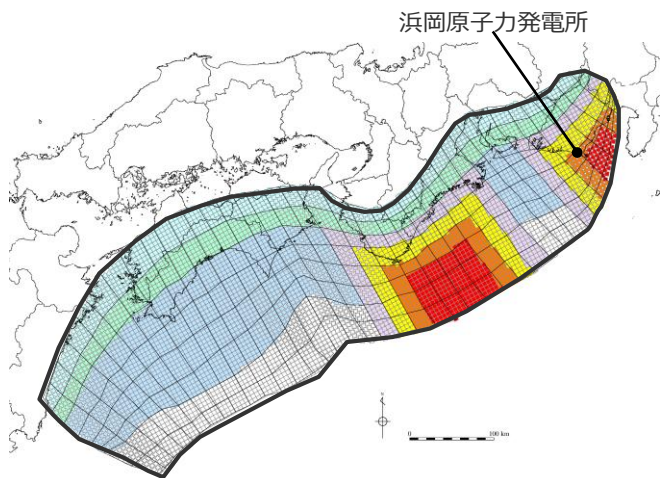


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
37.5	11.7

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を60kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				⇒ 東		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側⇄	深度40km↓		3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.3	2.1	2.1	1.8	1.8	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	0.9	
	30km↓	1	6.8	6.8	6.6	6.6	6.4	6.4	5.8	5.6	5.6	5.5	5.4	5.4	5.2	5.1	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7	4.7	4.1	4.1	3.5	3.5	3.5	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8
海溝軸側⇄	20km↓	2	13.6	13.6	13.2	13.2	12.8	12.8	11.7	11.7	11.3	11.0	11.0	10.8	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.2	10.8	10.8	9.9	9.9	8.3	8.3	7.0	8.7	8.7	6.9	6.9	6.1	6.1	4.4
	10km↓	3	13.6	13.6	13.2	13.2	12.8	12.8	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	10.8	10.8	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	14.3	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	15.1	9.4	8.3	7.0	10.4	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1
⇄	0km↓	4	13.6	13.6	13.2	13.2	12.8	12.8	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	10.8	10.8	10.4	10.1	10.1	9.8	14.6	19.4	28.1	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	17.3	13.3	9.4	9.4	8.3	11.1	13.8	20.7	16.4	16.4	14.7	9.8	
	5	13.6	13.6	13.2	13.2	12.8	12.8	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	10.8	10.8	10.4	10.1	10.1	10.1	14.7	19.4	28.1	37.5	36.3	36.3	35.8	26.9	17.3	13.9	10.6	9.4	9.4	12.8	16.3	20.7	27.7	21.9	14.7	9.8		
⇄	6	13.6	13.6	13.2	13.2	12.8	12.8	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	10.8	10.8	10.4	10.1	10.1	10.1	14.7	19.4	29.1	37.5	36.3	36.3	35.8	26.9	17.3	13.9	0.0	0.0	0.0	12.8	16.3	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8		
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	19.4	29.1	37.5	36.3	36.3	35.8	26.9	17.3	13.9	0.0	0.0	0.0	12.8	16.3	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8		
⇄	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	19.4	29.1	37.5	37.5	36.3	36.3	26.9	17.3	13.9	0.0	0.0	0.0	12.8	18.5	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8		

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

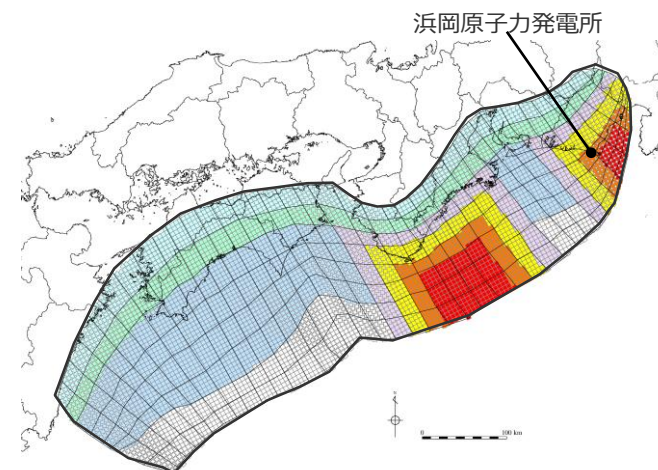
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	37.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.5
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.4
	最大すべり量 (m)	37.5

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,027km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,303km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を60kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

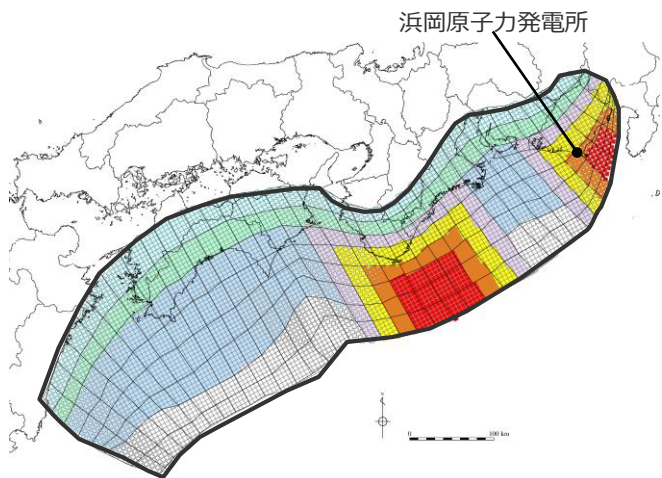
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.8	11.7

	津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を80kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				→ 東		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.3	2.1	2.1	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	0.9	
	30km↓	1	6.8	6.8	6.5	6.5	6.4	6.4	5.8	5.6	5.6	5.4	5.3	5.1	5.0	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7	4.7	4.1	4.1	3.5	3.5	3.5	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	1.8	
海溝軸側 ⇄	20km↓	3	13.5	13.5	13.1	13.1	12.7	12.7	11.6	11.6	11.2	10.9	10.9	10.7	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.2	10.8	10.8	7.0	9.3	8.2	8.2	7.0	8.7	8.7	6.8	6.8	6.1	6.1	4.4
		4	13.5	13.5	13.1	13.1	12.7	12.7	11.6	11.6	11.2	11.2	10.9	10.7	10.7	10.3	10.0	10.0	9.8	14.6	19.4	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	13.3	9.3	9.3	8.2	7.0	10.4	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1
	10km↓	5	13.5	13.5	13.1	13.1	12.7	12.7	12.7	11.6	11.6	11.2	10.9	10.9	10.7	10.7	10.3	10.0	10.0	14.7	19.4	29.1	28.1	28.1	27.2	26.9	26.9	17.3	13.9	10.5	9.3	9.3	8.2	11.0	13.8	20.7	16.4	16.4	14.7	9.8
		6	13.5	13.5	13.1	13.1	12.7	12.7	12.7	11.6	11.6	11.2	10.9	10.7	10.7	10.3	10.0	10.0	14.7	19.4	29.1	37.5	37.5	36.3	36.3	26.9	17.9	14.2	10.5	10.5	9.3	9.3	12.8	16.3	20.7	27.7	21.9	14.7	9.8	
⇄	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	19.9	29.1	38.8	37.5	36.3	36.3	26.9	17.9	14.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	16.3	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8	
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	19.9	29.1	38.8	37.5	36.3	36.3	27.2	17.9	14.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	18.5	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

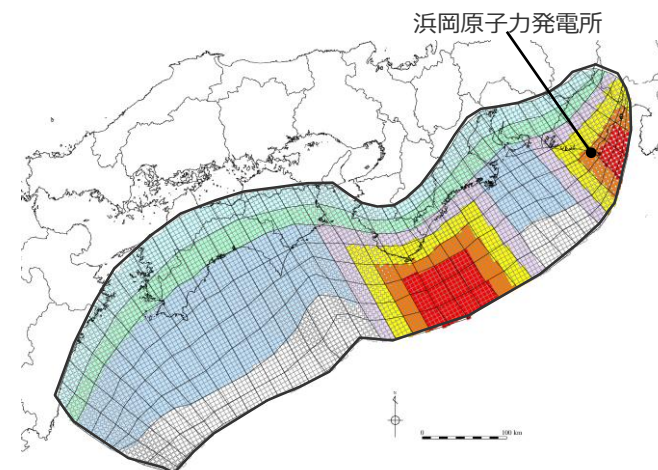
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$5.9 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	38.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.5
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.8
	最大すべり量 (m)	38.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,477km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(13,753km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を80kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

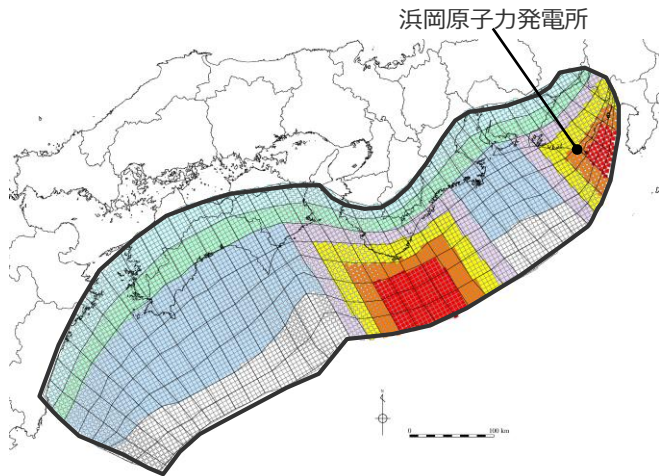


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.8	11.7

	津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←														⇒ 東																								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	2.8	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	0.9	
	30km↓	1	6.7	6.7	6.5	6.5	6.3	6.3	5.7	5.5	5.5	5.4	5.3	5.3	5.1	5.0	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.3	4.6	4.6	4.1	4.1	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.4	2.4	1.8	
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.1	10.8	10.8	10.5	10.2	10.2	9.9	9.9	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.3	11.3	11.2	9.2	9.2	9.2	8.1	8.1	6.9	8.6	8.6	6.8	6.8	6.1	6.1	4.4	
		3	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.1	11.1	10.8	10.5	10.5	10.2	9.9	9.9	14.6	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	14.1	10.4	9.2	9.2	8.1	6.9	10.4	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1
	10km↓	4	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.5	10.2	9.9	14.6	19.4	29.1	29.1	28.1	28.1	27.2	26.9	17.9	13.3	8.6	10.4	9.2	9.2	8.1	11.0	13.8	20.7	16.4	16.4	14.7	9.8
		5	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.1	11.1	10.8	10.5	10.5	10.2	9.9	14.9	19.9	29.1	38.8	37.5	37.5	36.3	27.2	17.9	13.3	8.6	10.4	10.4	9.2	9.2	12.7	16.3	20.7	27.7	21.9	14.7	9.8	
⇄	0km↓	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.9	19.9	29.9	38.8	38.8	37.5	36.3	27.2	17.9	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	16.3	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8	
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.9	19.9	29.9	38.8	38.8	37.5	37.5	27.2	18.1	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	18.5	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータの設定)

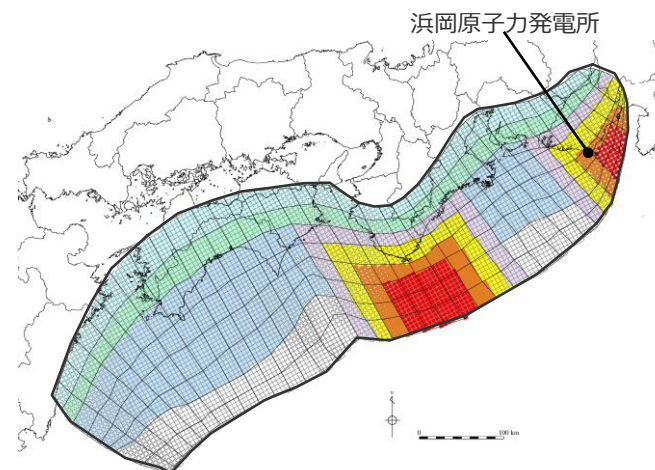
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$5.9 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	38.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.6
	最大すべり量 (m)	38.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,328km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(13,603km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

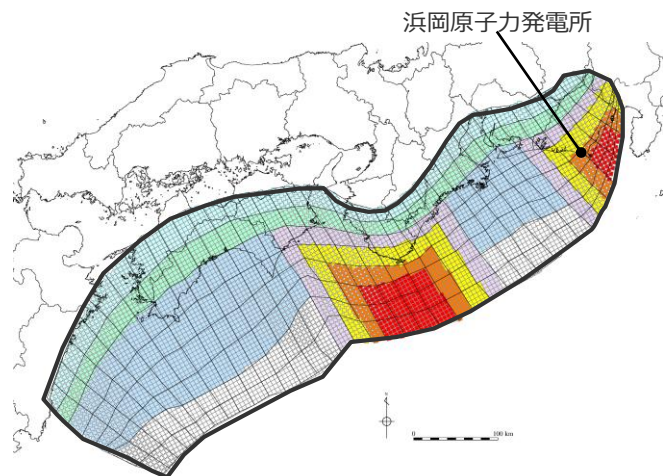
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
39.8	11.7

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- } 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を120kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																		→ 東																				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km	1	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.9	0.9
	30km	2	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	5.7	5.5	5.5	5.3	5.2	5.0	4.9	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.6	4.6	4.0	4.0	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.7	2.4	2.4	1.7	
海溝軸側 ⇄	20km	3	13.3	13.3	12.8	12.8	12.5	12.5	11.3	11.3	11.0	10.7	10.7	10.5	10.1	10.1	9.8	9.8	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.3	11.3	11.2	6.4	8.5	9.1	9.1	8.0	8.0	6.8	8.6	8.6	6.8	6.8	6.1	6.1	4.4
		4	13.3	13.3	12.8	12.8	12.5	12.5	11.3	11.3	11.0	11.0	10.7	10.5	10.5	10.1	9.8	14.6	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	13.2	8.5	10.3	9.1	9.1	8.0	6.8	10.3	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1
	10km	5	13.3	13.3	12.8	12.8	12.5	12.5	12.5	11.3	11.3	11.0	10.7	10.5	10.5	10.1	15.0	19.9	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	27.2	17.9	13.2	8.5	8.5	10.3	9.1	9.1	8.0	10.9	13.8	20.7	16.4	16.4	14.7	9.8	
		6	13.3	13.3	12.8	12.8	12.5	12.5	12.5	11.3	11.3	11.0	10.7	10.5	10.5	10.1	15.0	19.9	29.9	38.8	38.8	37.5	37.5	27.2	18.1	13.5	8.8	8.5	10.3	10.3	9.1	9.1	12.7	16.3	20.7	27.7	21.9	14.7	9.8	
	0km	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	19.9	29.9	39.8	38.8	38.8	37.5	27.2	18.1	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	16.3	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8	
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	20.4	29.9	39.8	38.8	38.8	37.5	28.1	18.1	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	18.5	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8		

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータの設定)

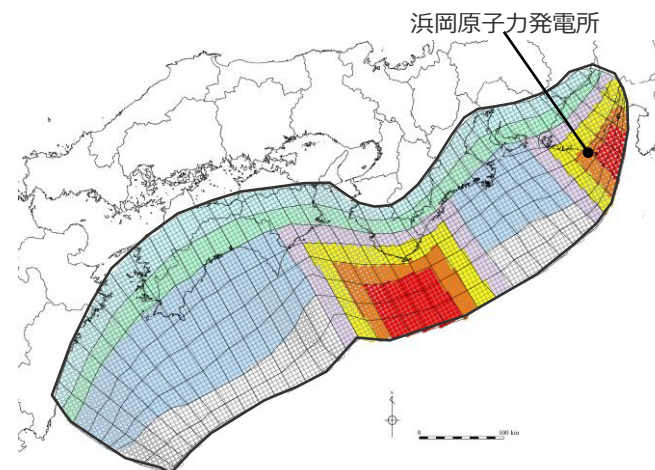
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$5.9 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	39.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.4
	最大すべり量 (m)	39.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,452km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(13,727km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

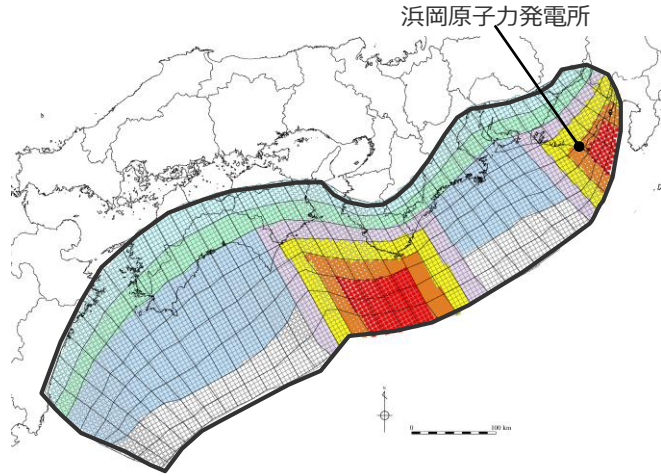


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
39.8	11.7

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

陸側 ⇄ 海溝軸側

		西 ←															→ 東																							
深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側	30km↓	1	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	2.8	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.2	2.0	2.0	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.9	0.9	
	20km↓	2	6.5	6.5	6.3	6.3	6.2	6.2	5.6	5.4	5.4	5.2	5.2	5.0	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4	4.4	4.4	4.2	4.5	4.5	4.0	4.0	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.4	2.4	1.7		
海溝軸側	10km↓	3	13.1	13.1	12.6	12.6	12.3	12.3	11.2	11.2	10.8	10.5	10.5	10.3	9.9	9.9	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.7	11.7	11.3	11.3	8.9	8.4	8.4	9.0	9.0	7.9	7.9	6.7	8.6	8.6	6.8	6.8	6.1	6.1	4.4
	0km↓	4	13.1	13.1	12.6	12.6	12.3	12.3	11.2	11.2	10.8	10.8	10.5	10.3	10.3	9.9	14.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	18.1	13.4	8.7	8.4	10.1	9.0	9.0	7.9	6.7	10.3	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1
	10km↓	5	13.1	13.1	12.6	12.6	12.3	12.3	11.2	11.2	10.8	10.5	10.5	10.3	10.3	15.1	19.9	29.9	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	18.1	13.4	8.7	8.4	8.4	10.1	9.0	9.0	7.9	10.9	13.8	20.7	16.4	16.4	14.7	9.8	
	0km↓	6	13.1	13.1	12.6	12.6	12.3	12.3	11.2	11.2	10.8	10.8	10.5	10.3	10.3	15.1	19.9	29.9	39.8	39.8	38.8	38.8	37.5	28.1	18.1	13.4	8.7	8.7	8.4	10.1	10.1	9.0	9.0	12.6	16.3	20.7	27.7	21.9	14.7	9.8
	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.1	20.4	29.9	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	28.1	18.1	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.6	16.3	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8	
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.1	20.4	30.6	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	28.1	18.8	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.6	18.5	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータの設定)

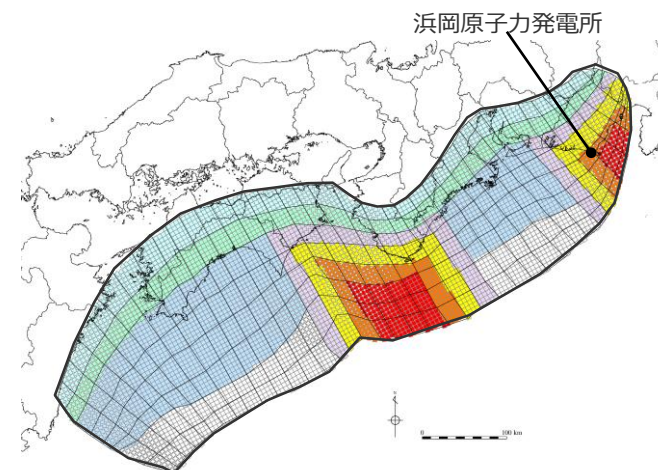
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$5.9 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	39.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.2
	最大すべり量 (m)	39.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,700km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(13,976km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

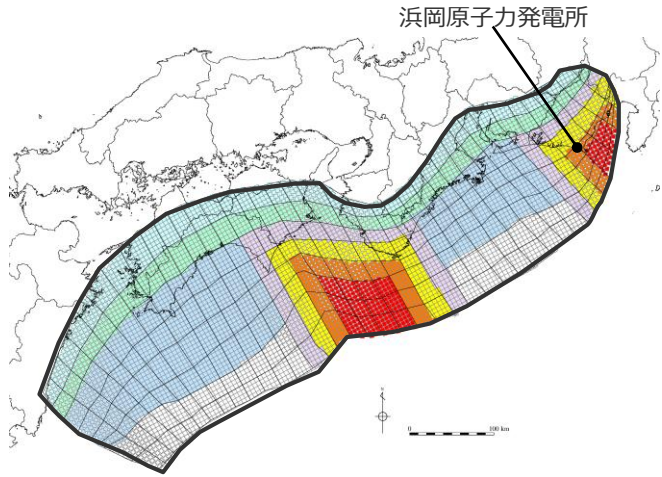
浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	11.7

津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						⇒ 東																																			
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																			
	30km↓	1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.8	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.2	2.0	2.0	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.9	0.9																																			
	20km↓	2	6.5	6.5	6.3	6.3	6.1	6.1	5.5	5.4	5.4	5.2	5.1	5.1	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.5	4.5	3.9	3.9	3.3	3.3	3.3	2.6	2.6	2.6	2.4	2.4	1.7																																			
		3	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	11.1	11.1	10.7	10.4	10.4	10.2	9.8	10.0	12.4	12.4	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.3	11.3	8.6	8.3	8.3	8.9	8.9	7.8	7.8	6.7	8.6	8.6	6.8	6.8	6.1	6.1	4.4																																			
	10km↓	4	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	11.1	11.1	10.7	10.7	10.4	10.2	10.2	15.1	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	13.4	8.6	8.6	8.3	10.0	8.9	8.9	7.8	6.7	10.2	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	7.1																																			
		5	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	11.1	11.1	10.7	10.7	10.4	10.2	10.2	15.3	20.4	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	28.1	18.8	13.7	8.6	8.6	8.3	8.3	10.0	8.9	8.9	7.8	10.8	13.8	20.7	16.4	16.4	14.7	9.8																																			
	0km↓	6	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	11.1	11.1	10.7	10.7	10.4	10.2	10.2	15.3	20.4	29.9	39.8	39.8	38.8	38.8	28.1	18.8	13.8	8.7	8.6	8.6	8.3	10.0	10.0	8.9	8.9	12.6	16.3	20.7	27.7	21.9	14.7	9.8																																			
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3	20.4	30.6	39.8	39.8	39.8	38.8	29.1	18.8	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.6	16.3	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8																																				
8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3	20.4	30.6	40.8	39.8	39.8	38.8	29.1	18.8	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.6	18.5	24.4	27.7	21.9	14.7	9.8																																					

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータの設定)

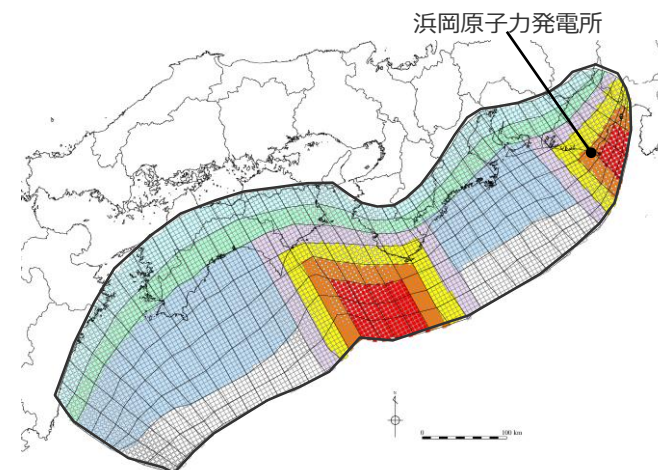
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.6
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(123,924km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,200km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

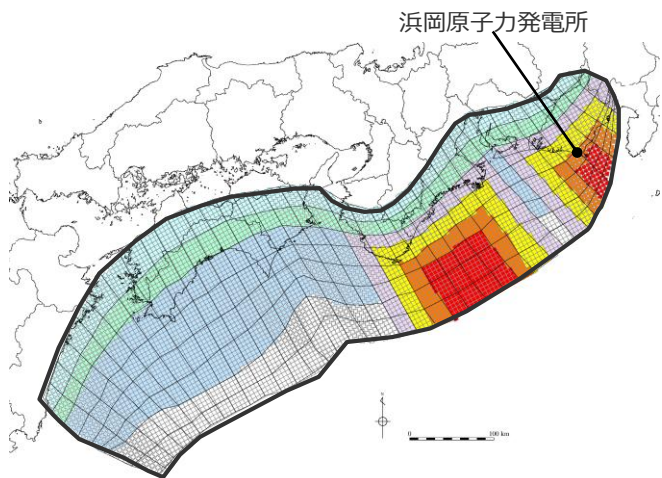


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
37.5	11.8

	津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を20kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					→ 東	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	2.8	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	0.9	
	30km↓	1	6.7	6.7	6.5	6.5	6.3	6.3	5.7	5.5	5.5	5.4	5.3	5.3	5.1	4.9	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.6	4.6	4.0	4.0	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.7	2.4	2.4	1.8
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.0	10.8	10.8	10.5	10.1	10.1	9.9	9.9	9.6	9.6	9.3	11.7	11.7	11.3	11.3	11.2	10.8	10.8	11.5	11.5	6.1	8.1	8.6	8.6	8.6	6.8	6.8	6.1	6.1	3.3
	3	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.0	11.0	10.8	10.5	10.5	10.1	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	14.2	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	18.5	13.3	8.1	11.0	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	4.9	
⇄	10km↓	4	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.0	10.8	10.8	10.5	10.5	10.1	9.9	9.9	9.6	9.6	14.2	18.8	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	25.9	20.8	15.0	9.2	12.7	16.3	20.7	20.7	16.4	16.4	9.8	4.9	
	5	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.0	11.0	10.8	10.8	10.5	10.5	10.1	9.9	9.9	9.6	9.6	14.2	18.8	28.1	36.3	36.3	35.8	35.8	25.9	20.8	15.0	9.2	12.7	16.3	24.4	27.7	27.7	16.4	16.4	9.8	4.9
⇄	0km↓	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.2	19.4	28.1	36.3	36.3	35.8	35.8	25.9	17.3	15.0	0.0	12.7	18.5	24.4	32.6	27.7	16.4	16.4	9.8	4.9
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.2	19.4	28.1	37.5	36.3	36.3	35.8	25.9	17.3	15.0	0.0	12.7	18.5	27.7	32.6	27.7	16.4	16.4	9.8	4.9
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.2	19.4	28.1	37.5	36.3	36.3	35.8	25.9	17.3	15.0	0.0	12.7	18.5	27.7	32.6	27.7	16.4	16.4	9.8	4.9

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

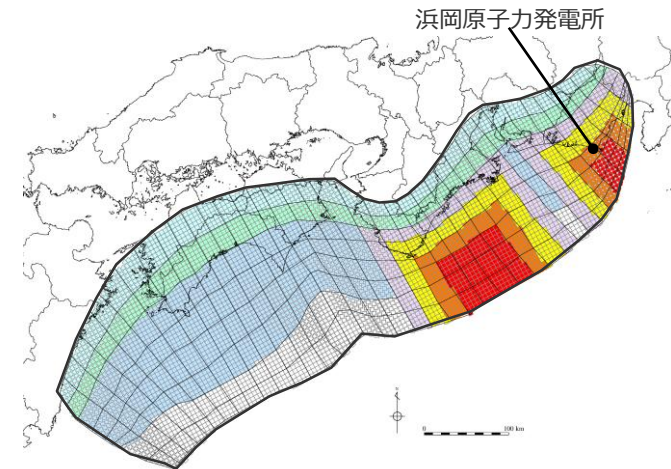
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、  
大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	37.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		36.3
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.3
	最大すべり量 (m)	37.5

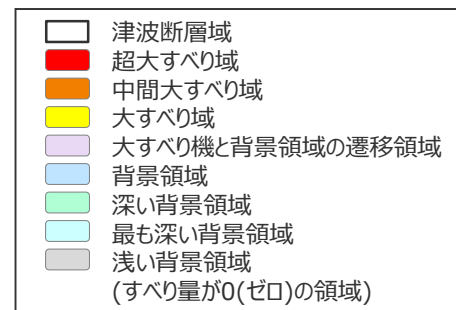
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,807km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,082km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、  
大すべり域間の距離を20kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

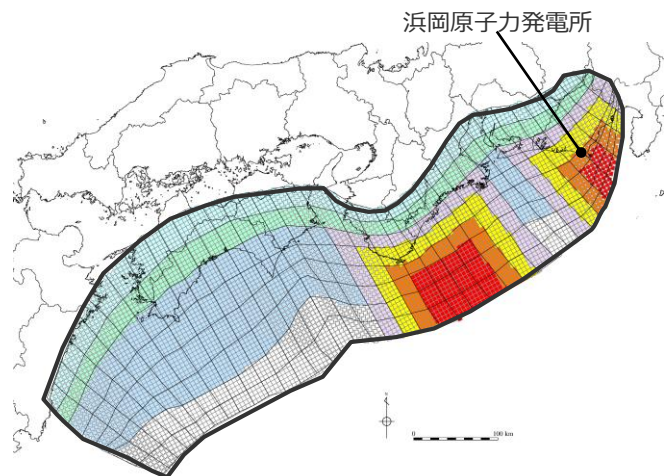
浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
37.5	11.8

津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を40kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					⇒ 東																																				
陸側⇄ 海溝軸側	深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																			
	30km↓	1	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	2.8	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	0.9	0.9																																			
	20km↓	2	6.7	6.7	6.5	6.5	6.3	6.3	5.7	5.5	5.5	5.4	5.3	5.3	5.1	4.9	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.6	4.6	4.0	4.0	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.7	2.4	2.4	1.8																																			
		3	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.0	10.8	10.8	10.5	10.1	10.1	9.9	9.9	9.6	9.6	11.7	11.7	11.7	11.3	11.3	11.2	10.8	10.8	9.8	9.8	8.1	8.1	8.6	8.6	8.6	6.8	6.8	6.1	6.1	3.3																																			
	10km↓	4	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	11.4	11.4	11.0	11.0	10.8	10.5	10.1	10.1	9.9	9.9	9.6	9.6	14.2	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	20.8	15.0	9.2	8.1	11.0	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	4.9																																			
		5	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	12.6	11.4	11.4	11.0	10.8	10.8	10.5	10.1	10.1	9.9	9.9	9.6	14.5	19.4	28.1	28.1	27.2	26.9	26.9	25.9	17.3	13.2	9.2	9.2	12.7	16.3	20.7	20.7	16.4	16.4	9.8	4.9																																			
	0km↓	6	13.4	13.4	12.9	12.9	12.6	12.6	12.6	11.4	11.4	11.0	11.0	10.8	10.5	10.1	10.1	9.9	9.9	9.9	14.6	19.4	28.1	37.5	36.3	36.3	35.8	26.9	17.3	13.8	10.4	9.2	12.7	16.3	24.4	27.7	27.7	16.4	9.8	4.9																																			
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6	19.4	29.1	37.5	36.3	36.3	35.8	26.9	17.3	13.8	0.0	0.0	12.7	18.5	24.4	32.6	27.7	16.4	9.8	4.9																																			
8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6	19.4	29.1	37.5	37.5	36.3	36.3	26.9	17.3	13.8	0.0	0.0	12.7	18.5	27.7	32.6	27.7	16.4	9.8	4.9																																					

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

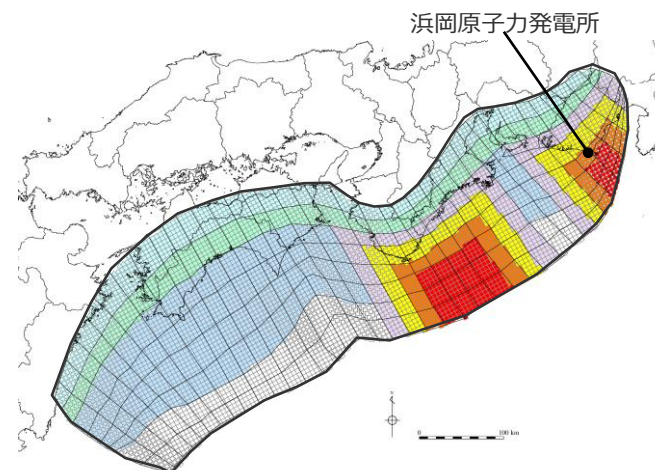
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	37.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.5
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.3
	最大すべり量 (m)	37.5

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,784km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,059km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を40kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

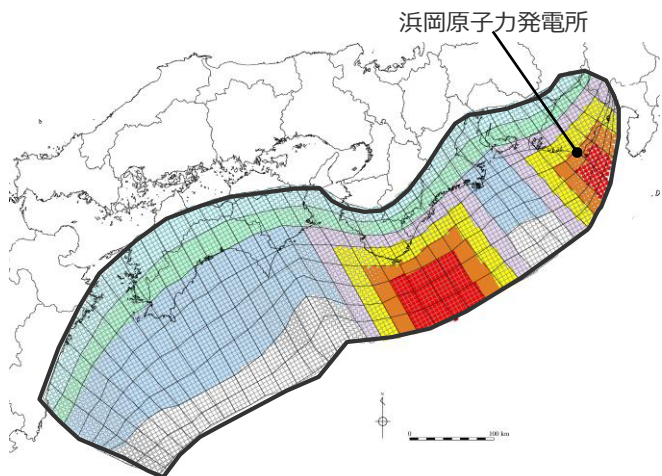


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
38.8	11.8

<span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span>	津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
<span style="background-color: red; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span>	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
<span style="background-color: orange; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span>	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
<span style="background-color: yellow; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span>	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
<span style="background-color: lightblue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span>	大すべり域と背景領域の遷移領域	
<span style="background-color: lightblue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span>	背景領域	
<span style="background-color: lightgreen; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span>	深い背景領域	
<span style="background-color: cyan; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span>	最も深い背景領域	
<span style="background-color: lightgrey; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span>	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を60kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					⇒ 東																																			
陸側⇄海溝軸側	深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																		
	30km↓	1	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.3	2.0	2.0	1.7	1.7	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	0.9	0.9																																		
	20km↓	2	6.6	6.6	6.4	6.4	6.2	6.2	5.7	5.5	5.5	5.3	5.2	5.2	5.0	4.9	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.6	4.6	4.0	4.0	3.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.4	2.4	1.7																																			
		3	13.2	13.2	12.8	12.8	12.5	12.5	11.3	11.3	10.9	10.7	10.7	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	12.1	11.7	11.7	11.7	11.3	11.3	11.2	10.8	10.8	6.8	9.1	8.0	8.0	8.6	8.6	8.6	6.8	6.8	6.1	6.1	3.3																																		
	10km↓	4	13.2	13.2	12.8	12.8	12.5	12.5	11.3	11.3	10.9	10.9	10.7	10.4	10.4	10.1	9.8	9.8	9.5	14.5	19.4	18.8	18.1	18.1	17.9	17.9	17.3	13.2	9.1	9.1	8.0	10.9	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	4.9																																			
		5	13.2	13.2	12.8	12.8	12.5	12.5	12.5	11.3	11.3	10.9	10.7	10.4	10.4	10.1	9.8	9.8	14.6	19.4	29.1	28.1	28.1	27.2	26.9	26.9	17.3	13.8	10.3	9.1	9.1	12.7	16.3	20.7	20.7	16.4	16.4	9.8	4.9																																			
	0km↓	6	13.2	13.2	12.8	12.8	12.5	12.5	12.5	11.3	11.3	10.9	10.9	10.7	10.4	10.4	10.1	9.8	9.8	14.6	19.4	29.1	37.5	37.5	36.3	36.3	26.9	17.9	14.1	10.3	10.3	9.1	12.7	16.3	24.4	27.7	27.7	16.4	9.8	4.9																																		
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6	19.9	29.1	38.8	37.5	36.3	36.3	26.9	17.9	14.1	0.0	0.0	0.0	12.7	18.5	24.4	32.6	27.7	16.4	9.8	4.9																																		
8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6	19.9	29.1	38.8	37.5	36.3	36.3	27.2	17.9	14.1	0.0	0.0	0.0	12.7	18.5	27.7	32.6	27.7	16.4	9.8	4.9																																			

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

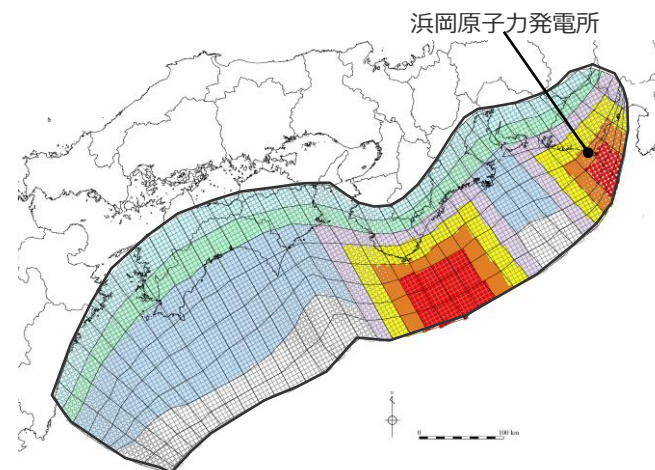
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	38.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.5
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.6
	最大すべり量 (m)	38.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,234km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,509km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を60kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

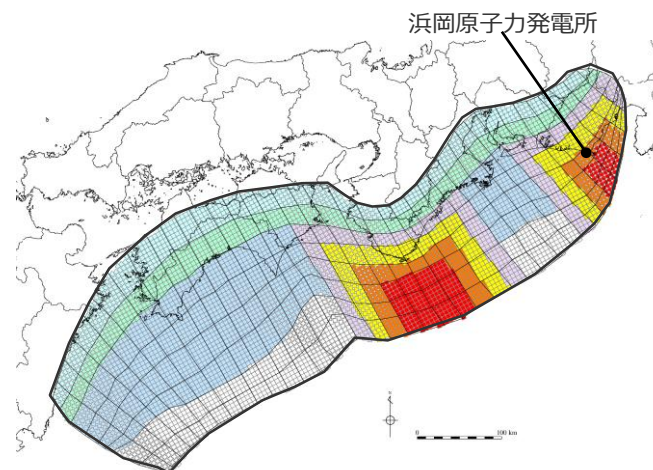
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、  
大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	38.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.5
	最大すべり量 (m)	38.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,084km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,360km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、  
大すべり域間の距離を80kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータの設定)

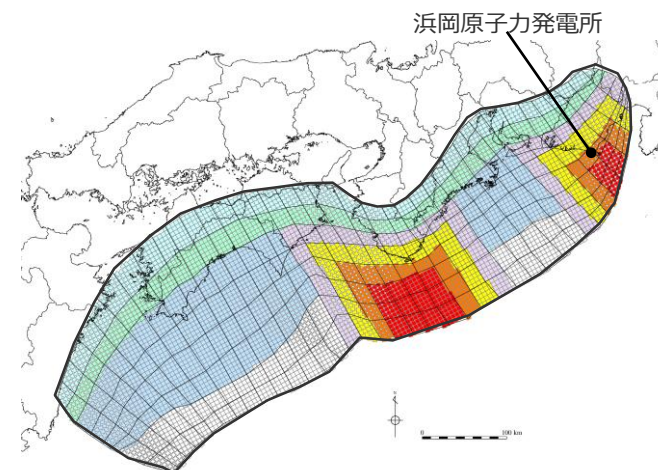
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	39.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.3
	最大すべり量 (m)	39.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,208km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,484km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を100kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータの設定)

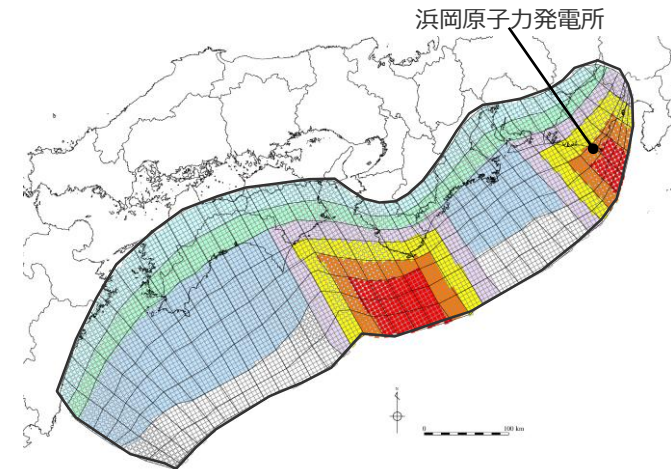
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.7
	最大すべり量 (m)	39.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.1
	最大すべり量 (m)	39.8

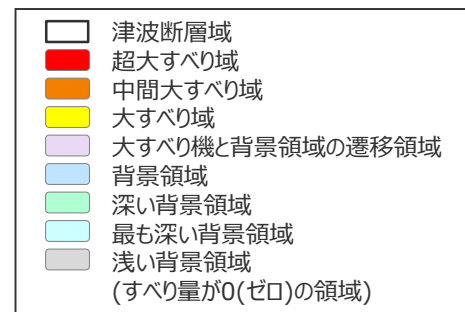
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,457km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,732km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケース



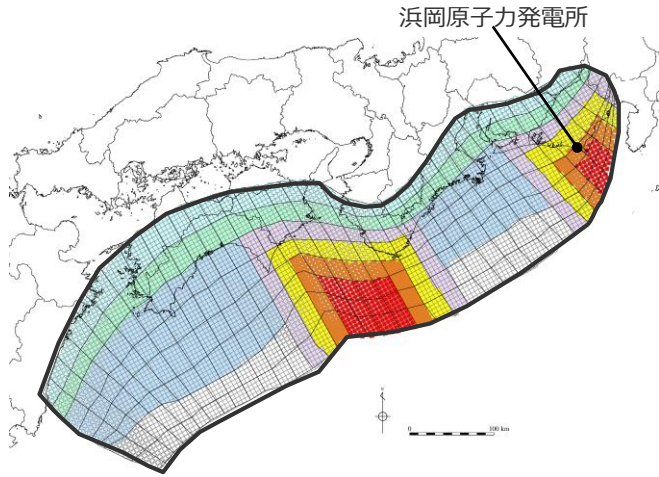
主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層



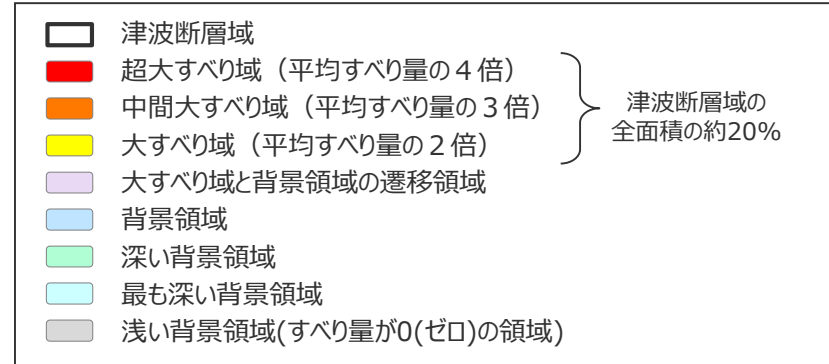
# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース (敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	11.8



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																												⇒ 東										
陸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
	海溝軸側 ⇄	30km↓	1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.2	1.9	1.9	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	0.8	0.8
20km↓		2	6.3	6.3	6.1	6.1	5.9	5.9	5.4	5.2	5.2	5.1	5.0	5.0	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	3.8	3.8	3.2	3.2	3.2	2.6	2.6	2.6	2.3	2.3	1.7
		3	12.6	12.6	12.2	12.2	11.9	11.9	10.8	10.8	10.4	10.2	10.2	10.0	9.6	9.9	12.3	12.3	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.2	11.2	8.4	8.1	8.1	8.7	8.7	7.7	7.7	8.5	8.5	8.5	6.8	6.8	6.0	6.0	3.3
10km↓		4	12.6	12.6	12.2	12.2	11.9	11.9	10.8	10.8	10.4	10.4	10.2	10.0	10.0	14.9	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	13.3	8.4	8.4	8.1	9.8	8.7	8.7	7.7	10.7	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	9.8	4.9
		5	12.6	12.6	12.2	12.2	11.9	11.9	11.9	10.8	10.8	10.4	10.2	10.0	10.0	15.2	20.4	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	28.1	18.8	13.6	8.4	8.4	8.1	8.1	9.8	8.7	8.7	12.5	16.3	20.7	20.7	16.4	16.4	9.8	4.9
0km↓		6	12.6	12.6	12.2	12.2	11.9	11.9	11.9	10.8	10.8	10.4	10.4	10.2	10.0	15.2	20.4	29.9	39.8	39.8	38.8	38.8	28.1	18.8	13.6	8.5	8.4	8.4	8.1	9.8	9.8	8.7	12.5	16.3	24.4	27.7	27.7	16.4	9.8	4.9
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	20.4	30.6	39.8	39.8	39.8	38.8	29.1	18.8	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	18.5	24.4	32.6	27.7	16.4	9.8	4.9	
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	20.4	30.6	40.8	39.8	39.8	38.8	29.1	18.8	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	18.5	27.7	32.6	27.7	16.4	9.8	4.9	

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータの設定)

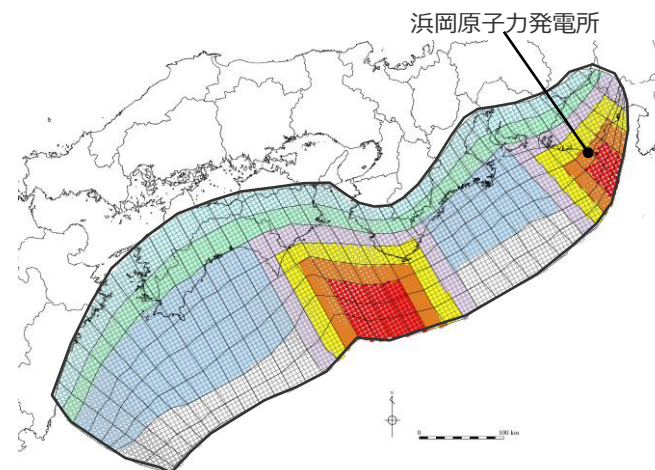
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.5
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,681km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(14,956km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータの設定)

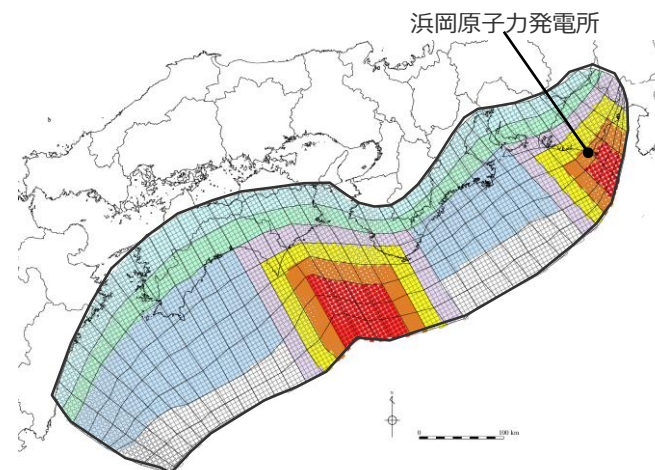
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.3
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,830km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,105km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ20km、大すべり域間の距離を160kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

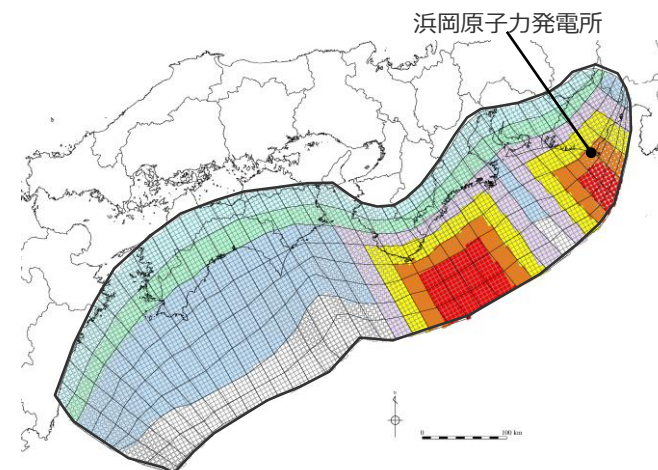
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	37.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.5
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.3
	最大すべり量 (m)	37.5

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,614km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,890km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を20kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

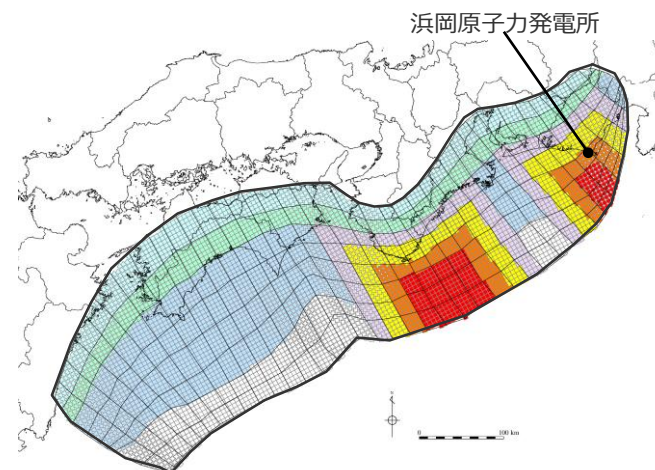
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	38.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.5
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.6
	最大すべり量 (m)	38.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,064km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,340km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

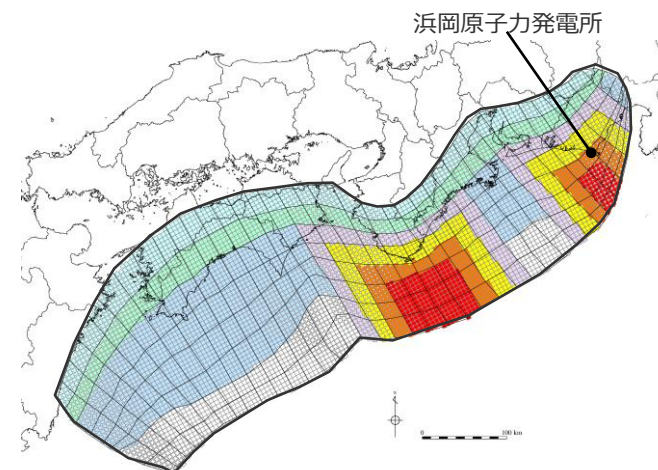
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	38.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.5
	最大すべり量 (m)	38.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,915km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,190km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

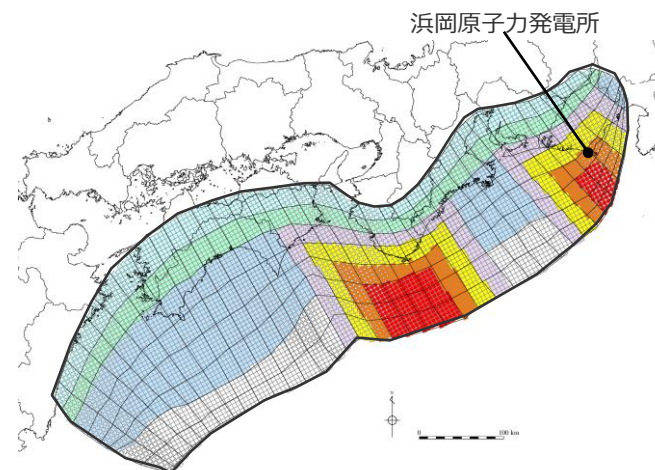
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	39.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.3
	最大すべり量 (m)	39.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,039km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,314km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を80kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータの設定)

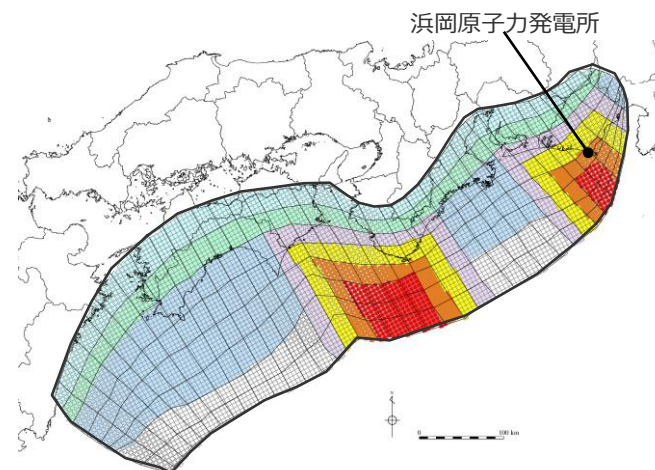
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	39.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.1
	最大すべり量 (m)	39.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,287km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,563km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を100kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータの設定)

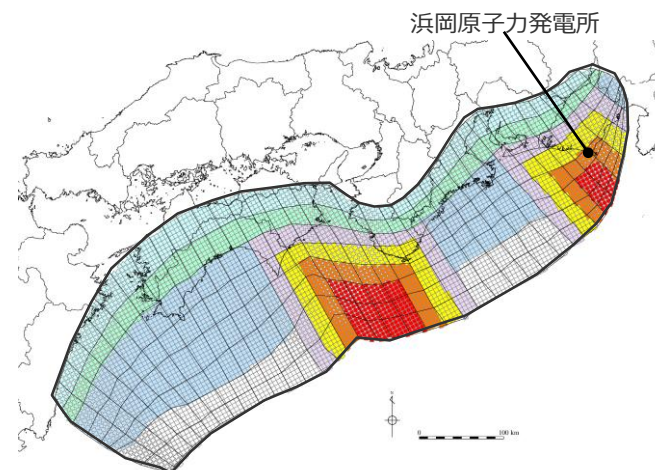
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.4
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,511km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,787km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータの設定)

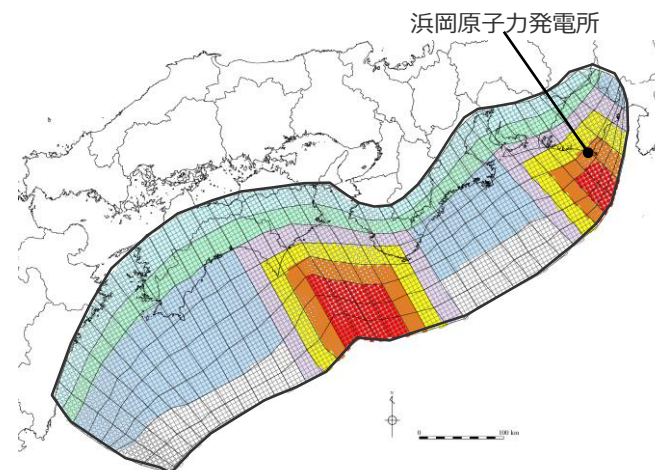
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.2 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.3
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,660km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,936km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を140kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

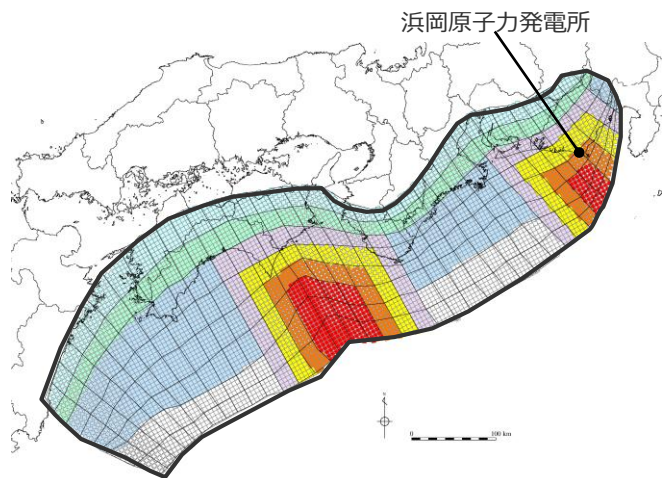
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	12.1

	津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を160kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
	30km↓	1	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	5.9	5.9	5.7	5.7	5.5	5.5	5.0	4.9	4.9	4.7	4.6	4.6	4.5	4.4	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0	3.6	3.6	3.0	3.0	3.0	2.4	2.4	2.4	2.1	2.1	1.6
	3	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.5	9.5	12.9	12.4	12.4	12.1	12.1	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	7.9	7.9	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	7.1	7.3	8.4	8.4	8.4	6.7	6.7	4.6	4.6	3.1
⇄	10km↓	4	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.5	15.3	21.2	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	13.4	7.9	7.9	7.8	7.8	7.6	9.1	8.1	8.1	11.0	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	7.0	3.1
	5	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.5	15.3	21.2	31.8	30.6	29.9	29.9	29.1	29.1	19.4	13.8	8.2	7.9	7.8	7.8	7.6	7.6	9.1	8.1	12.2	16.3	24.4	20.7	20.7	16.4	10.9	7.6	4.3	
⇄	0km↓	6	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.7	15.5	21.2	31.8	40.8	39.8	39.8	39.8	29.1	19.4	13.8	8.2	7.9	7.9	7.8	7.8	7.6	9.1	9.1	13.8	18.5	24.4	32.6	27.7	20.7	10.9	7.6	4.3	
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.5	21.7	31.8	40.8	40.8	39.8	39.8	29.9	19.4	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	18.5	27.7	32.6	32.6	20.7	10.9	7.6	4.3		
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.5	21.7	31.8	40.8	40.8	40.8	39.8	29.9	19.4	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	20.8	27.7	37.0	32.6	20.7	10.9	7.6	4.3			

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータの設定)

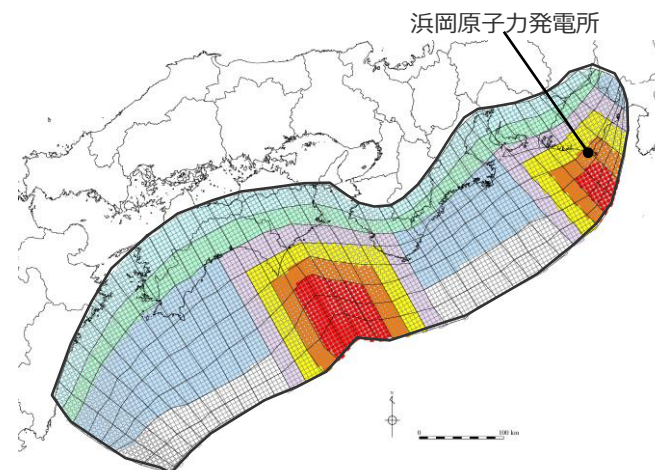
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		40.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	27.3
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,585km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,860km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を160kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

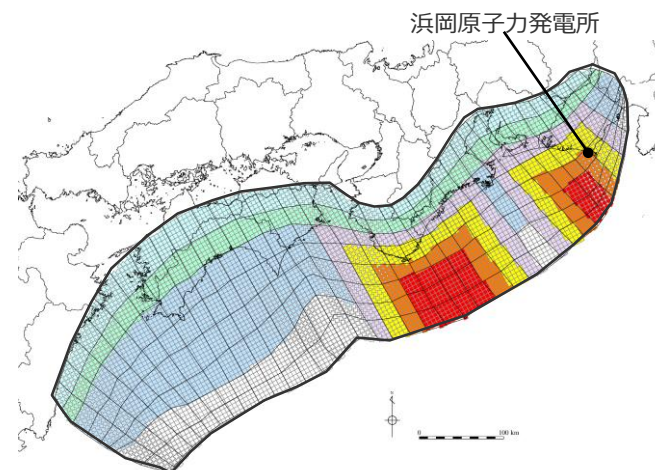
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.2 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.0
	最大すべり量 (m)	38.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		37.5
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.0
	最大すべり量 (m)	38.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,632km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,908km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を20kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

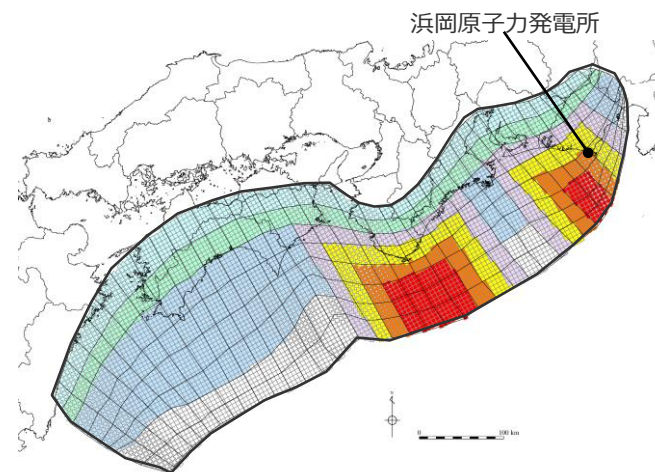
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	38.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.9
	最大すべり量 (m)	38.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,483km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,758km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

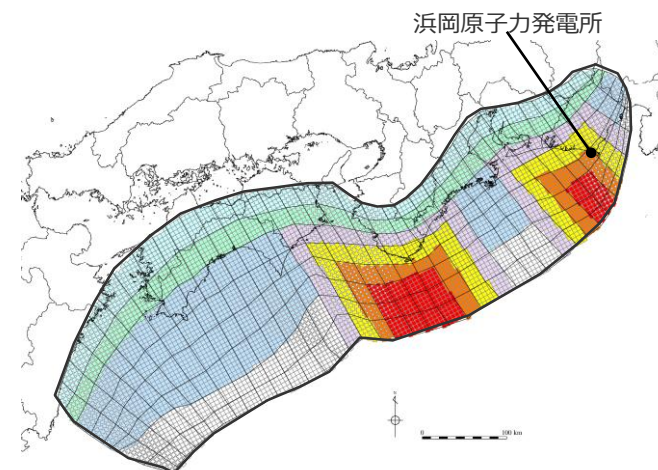
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	39.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.7
	最大すべり量 (m)	39.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,607km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,882km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

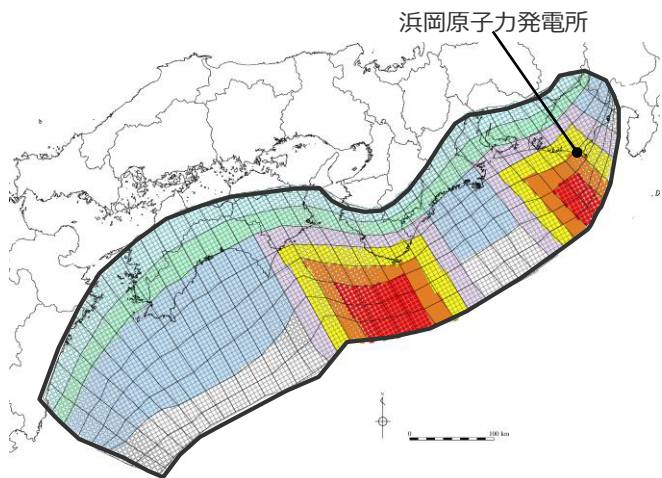
浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
39.8	11.9

津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を80kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				→ 東		
陸側 ⇄	海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1
20km↓	2	6.1	6.1	5.9	5.9	5.7	5.7	5.2	5.0	4.9	4.8	4.8	4.6	4.5	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	3.9	4.2	4.2	3.7	3.7	3.1	3.1	3.1	2.5	2.5	2.5	2.2	2.2	1.6		
	3	12.2	12.2	11.8	11.8	11.4	11.4	10.4	10.4	10.1	9.8	9.8	9.6	9.2	6.9	12.2	12.2	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	8.6	7.8	7.8	8.4	8.4	10.0	10.0	8.5	8.5	8.5	6.7	6.7	3.3	4.4	3.2	
10km↓	4	12.2	12.2	11.8	11.8	11.4	11.4	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.6	9.6	9.2	14.6	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	18.1	13.1	8.1	7.8	9.4	8.4	12.3	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	7.7	4.4	3.2	
	5	12.2	12.2	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.1	9.8	9.8	9.6	9.6	14.8	19.9	29.9	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	18.1	13.1	8.1	7.8	7.8	9.4	14.0	18.5	24.4	24.4	20.7	20.7	10.9	7.7	4.4	4.4	
0km↓	6	12.2	12.2	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.6	9.6	14.8	19.9	29.9	39.8	39.8	38.8	38.8	28.1	18.1	13.1	8.1	8.1	7.8	9.4	14.0	18.5	27.7	32.6	32.6	20.7	13.8	9.1	4.4	4.4	
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.8	20.4	29.9	39.8	39.8	38.8	38.8	28.1	18.1	13.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	20.8	27.7	37.0	32.6	24.4	13.8	9.1	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.8	20.4	30.6	39.8	39.8	38.8	38.8	28.1	18.8	13.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	13.8	9.1	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

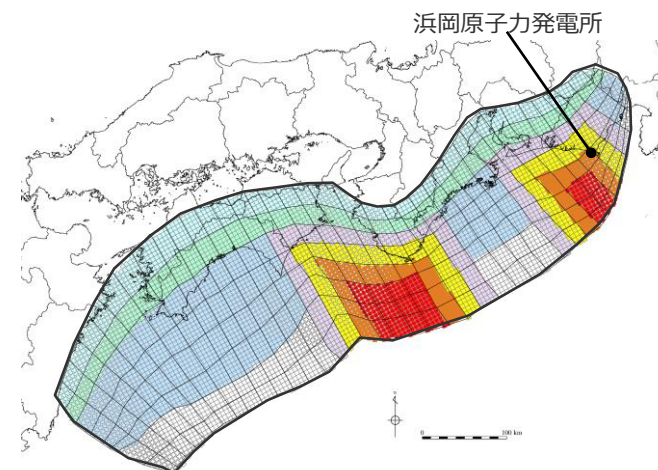
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.2 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	39.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.5
	最大すべり量 (m)	39.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,855km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(16,131km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を80kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータの設定)

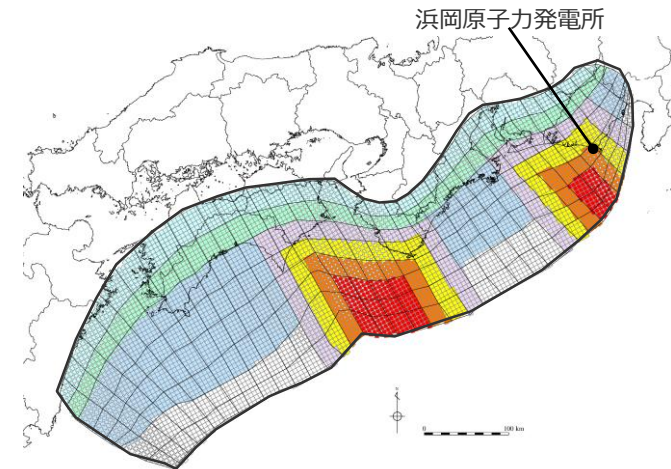
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.2 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.8
	最大すべり量 (m)	40.8

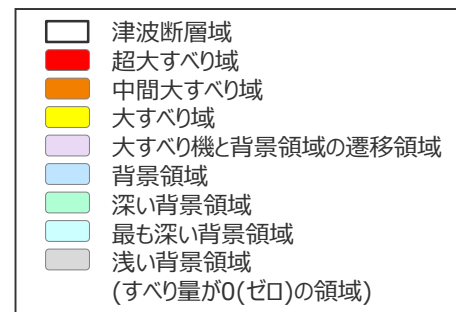
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,079km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(16,355km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を100kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

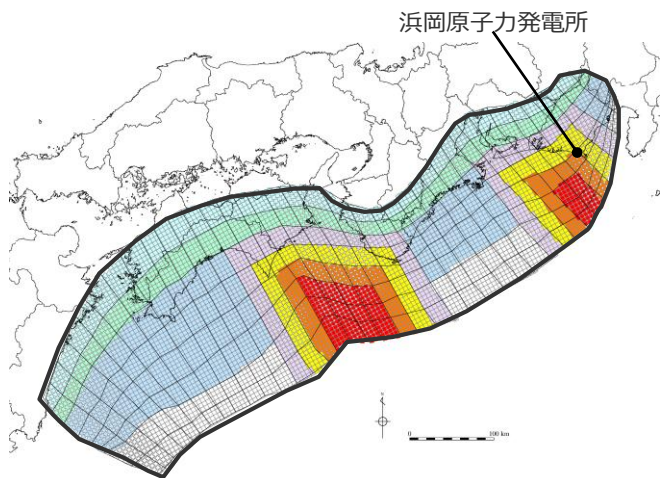
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	12.1

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を120kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																→ 東																						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
	30km↓	1	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	5.9	5.9	5.7	5.7	5.5	5.5	5.0	4.8	4.8	4.7	4.6	4.6	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	4.0	4.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	2.4	2.4	2.4	2.1	2.1	1.5	
	3	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	9.2	12.4	12.4	12.1	12.1	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	8.6	7.9	7.8	7.5	7.5	8.1	8.1	9.9	9.9	8.4	8.4	8.4	6.7	6.7	3.2	4.3	3.1	
⇄	10km↓	4	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.2	14.8	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	13.3	7.9	7.8	7.8	7.5	9.1	8.1	12.2	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	7.6	4.3	3.1
	5	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	15.3	21.2	30.6	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	18.8	13.3	7.9	7.8	7.8	7.5	7.5	9.1	13.8	18.5	24.4	24.4	20.7	20.7	10.9	7.6	4.3	4.3	
⇄	0km↓	6	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	15.3	21.2	30.6	39.8	39.8	39.8	38.8	29.1	18.8	13.3	7.9	7.9	7.8	7.8	7.5	9.1	13.8	18.5	27.7	32.6	32.6	20.7	13.8	9.0	4.3	4.3	
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3	21.2	30.6	40.8	39.8	39.8	39.8	29.1	19.4	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	20.8	27.7	37.0	32.6	24.4	13.8	9.0	0.0	0.0		
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3	21.2	30.6	40.8	40.8	39.8	39.8	29.1	19.4	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	13.8	9.0	0.0	0.0		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータの設定)

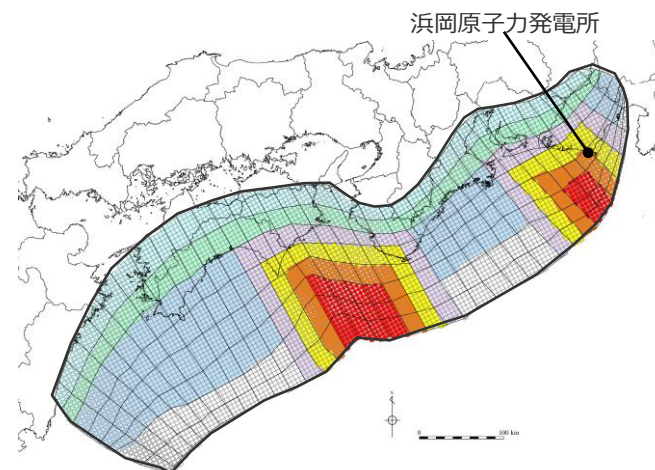
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.6
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,228km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(16,504km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を120kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

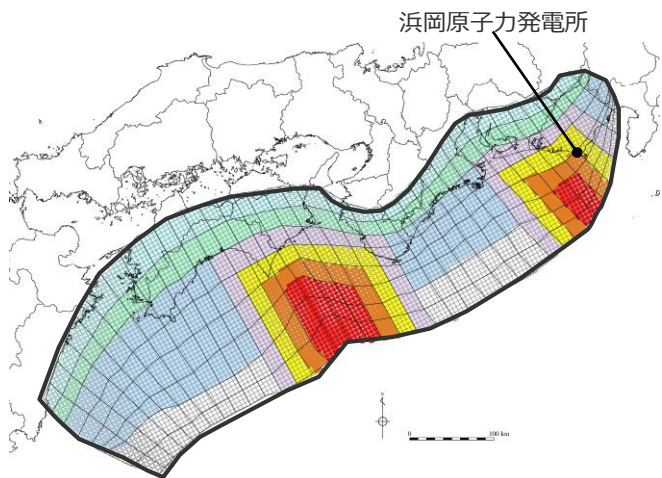


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	12.2

	津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←										→ 東																											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
陸側 ⇄	深度40km↓		2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	2.0	1.7	1.7	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.0	1.0	0.8	0.8
	30km↓	1	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	2.0	1.7	1.7	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.0	1.0	0.8	0.8
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	5.7	5.7	5.5	5.5	5.4	5.4	4.9	4.7	4.7	4.6	4.5	4.5	4.3	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.5	3.5	2.9	2.9	2.9	2.3	2.3	2.3	2.1	2.1	1.5
	3	11.4	11.4	11.0	11.0	10.7	10.7	9.7	9.7	9.4	9.2	9.2	12.8	12.4	12.4	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	7.7	7.7	7.6	7.3	7.3	7.8	7.8	9.9	9.9	8.4	8.4	8.4	6.6	6.6	3.1	4.1	3.0
10km↓	4	11.4	11.4	11.0	11.0	10.7	10.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	15.2	21.2	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	13.2	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	8.8	7.8	12.1	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	7.5	4.1	3.0
	5	11.4	11.4	11.0	11.0	10.7	10.7	10.7	9.7	9.7	9.4	9.2	15.2	21.2	31.8	30.6	29.9	29.9	29.1	29.1	19.4	13.7	7.9	7.7	7.6	7.6	7.3	7.3	8.8	13.7	18.5	24.4	24.4	20.7	20.7	10.9	7.5	4.1	4.1
0km↓	6	11.4	11.4	11.0	11.0	10.7	10.7	10.7	9.7	9.7	9.4	9.4	15.3	21.2	31.8	40.8	39.8	39.8	39.8	29.1	19.4	13.7	7.9	7.7	7.6	7.6	7.3	8.8	13.7	18.5	27.7	32.6	32.6	20.7	13.8	9.0	4.1	4.1	
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3	21.7	31.8	40.8	40.8	39.8	39.8	29.9	19.4	13.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.7	20.8	27.7	37.0	32.6	24.4	13.8	9.0	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3	21.7	31.8	40.8	40.8	40.8	39.8	29.9	19.4	13.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.7	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	13.8	9.0	0.0	0.0		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータの設定)

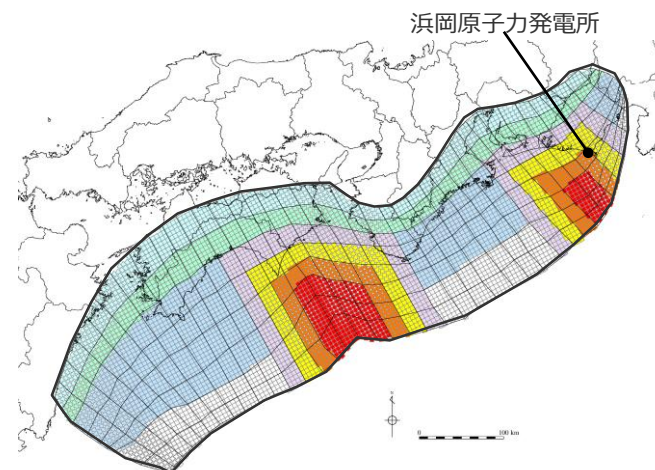
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		40.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	27.6
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,153km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(16,428km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を140kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

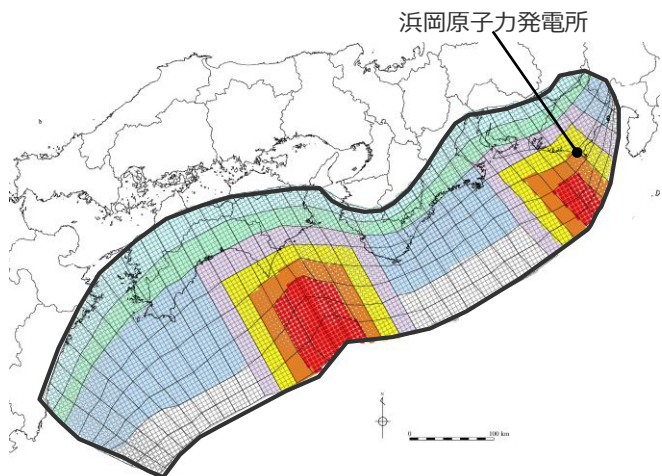
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
42.4	12.4

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を160kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km ↓		2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9	1.7	1.7	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	0.7
	30km ↓	1	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9	1.7	1.7	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	0.7
海溝軸側 ⇄	20km ↓	2	5.6	5.6	5.4	5.4	5.3	5.3	4.8	4.6	4.6	4.5	4.4	4.4	4.2	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	3.6	3.8	3.8	3.4	3.4	2.9	2.9	2.9	2.3	2.3	2.3	2.0	2.0	1.5	
	3	11.2	11.2	10.8	10.8	10.5	10.5	9.5	9.5	9.2	9.0	9.9	12.8	12.3	12.3	12.0	12.0	11.7	11.7	8.7	8.7	7.8	7.5	7.5	7.4	7.2	7.2	7.7	7.7	9.8	9.8	8.4	8.4	8.4	6.6	6.6	3.0	4.1	2.9	
10km ↓	4	11.2	11.2	10.8	10.8	10.5	10.5	9.5	9.5	9.2	9.2	15.2	21.2	21.2	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	13.6	7.8	7.5	7.5	7.4	7.4	7.2	8.7	7.7	12.0	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	7.5	4.1	2.9	
	5	11.2	11.2	10.8	10.8	10.5	10.5	10.5	9.5	9.5	9.2	15.4	21.7	31.8	31.8	30.6	29.9	29.9	29.1	19.4	13.6	7.8	7.8	7.5	7.4	7.4	7.2	7.2	8.7	13.6	18.5	24.4	24.4	20.7	20.7	10.9	7.5	4.1	4.1	
0km ↓	6	11.2	11.2	10.8	10.8	10.5	10.5	10.5	9.5	9.5	9.2	15.4	21.7	31.8	42.4	40.8	39.8	39.8	29.9	19.4	13.6	7.8	7.8	7.5	7.5	7.4	7.4	7.2	8.7	13.6	18.5	27.7	32.6	32.6	20.7	13.8	8.9	4.1	4.1	
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	22.2	32.5	42.4	40.8	40.8	39.8	29.9	19.9	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	20.8	27.7	37.0	32.6	24.4	13.8	8.9	0.0	0.0	
8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	22.2	32.5	42.4	40.8	40.8	40.8	29.9	19.9	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	13.8	8.9	0.0	0.0		

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータの設定)

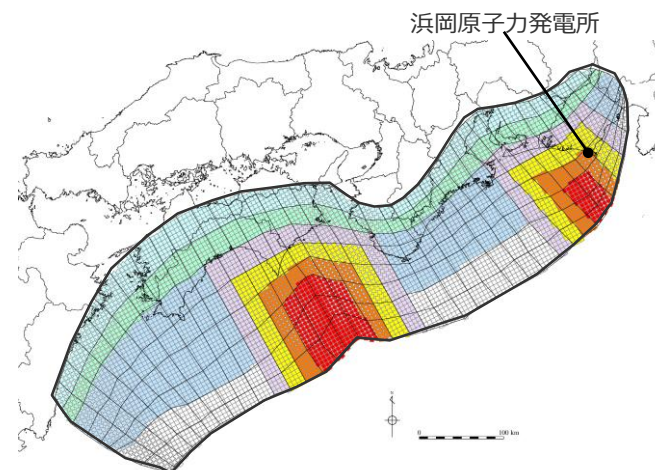
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.4
	最大すべり量 (m)	42.4
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		42.4
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	28.6
	最大すべり量 (m)	42.4

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,077km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(16,352km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ20km、  
大すべり域間の距離を160kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

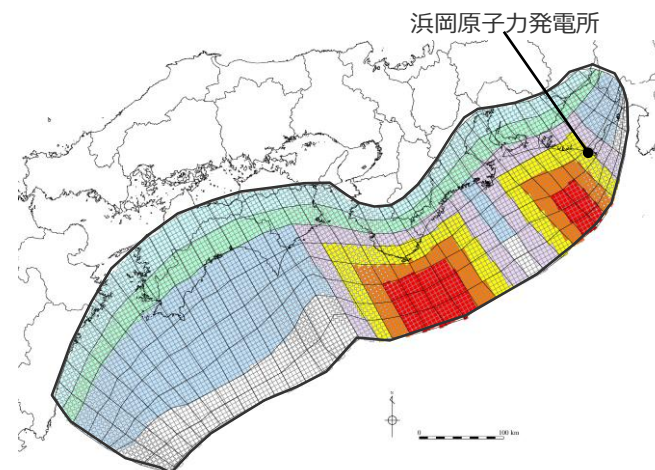
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.0
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,420km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(16,696km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を20kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

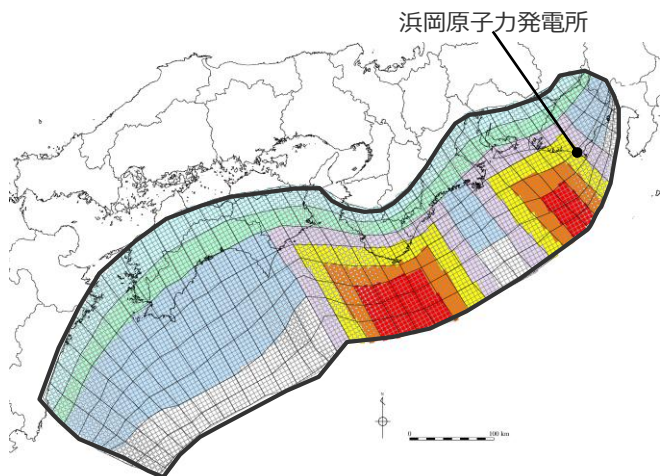
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.1

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															→ 東																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.1	1.8	1.8	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
	30km↓	1	6.0	6.0	5.8	5.8	5.7	5.7	5.1	5.0	5.0	4.8	4.7	4.7	4.6	4.5	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	4.1	4.1	3.6	3.6	3.1	3.1	3.1	2.5	2.5	2.2	2.2	1.6	
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	12.0	12.0	11.6	11.6	11.3	11.3	10.3	10.3	10.0	9.7	9.7	9.5	9.1	8.9	9.3	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	11.0	5.8	7.7	8.3	11.3	10.0	10.0	8.5	8.5	8.5	5.9	5.9	4.4	4.4	3.2	
	10km↓	3	12.0	12.0	11.6	11.6	11.3	11.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.5	9.5	9.1	8.9	14.1	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	12.8	7.7	9.3	13.9	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	9.4	4.9	4.4	3.2
	0km↓	4	12.0	12.0	11.6	11.6	11.3	11.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.7	9.5	9.5	9.1	14.5	19.9	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	27.2	17.9	12.8	7.7	7.7	13.1	18.5	27.7	24.4	24.4	20.7	13.8	9.4	4.9	4.4	4.4
	0km↓	5	12.0	12.0	11.6	11.6	11.3	11.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.5	9.5	9.1	14.5	19.9	29.9	38.8	38.8	37.5	37.5	27.2	18.1	13.1	8.0	7.7	14.3	20.8	27.7	37.0	32.6	24.4	13.8	9.4	4.9	4.4	4.4	
⇄	0km↓	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.5	19.9	29.9	39.8	38.8	37.5	27.2	18.1	13.1	0.0	0.0	14.3	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	9.4	0.0	0.0	0.0		
	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.5	20.4	29.9	39.8	38.8	38.8	37.5	28.1	18.1	13.1	0.0	0.0	14.3	20.8	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	9.4	0.0	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

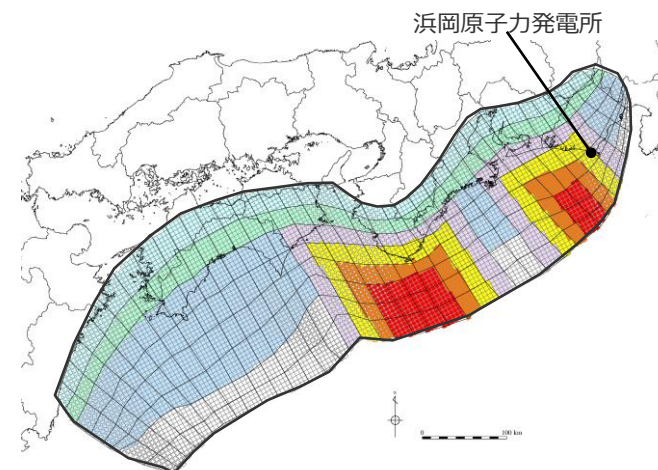
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.8
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,544km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(16,820km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

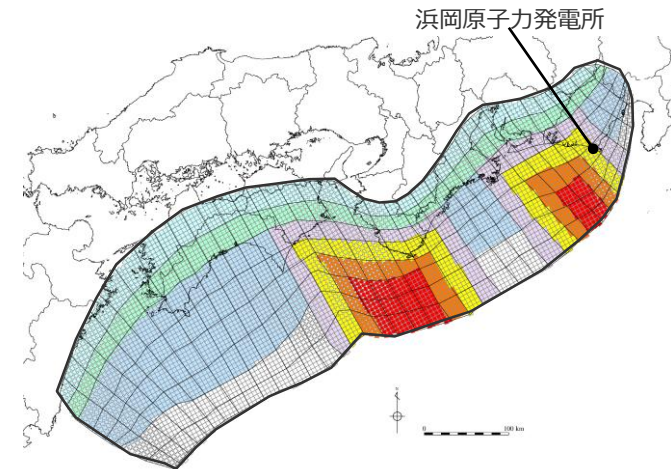
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.7
	最大すべり量 (m)	41.7

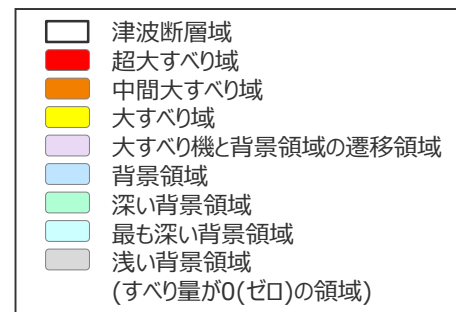
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,792km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,068km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

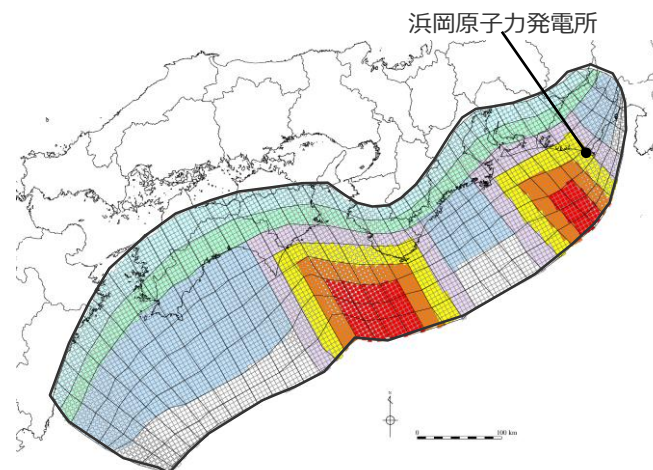
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、  
大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.0
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,017km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,292km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、  
大すべり域間の距離を80kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

浅部断層: 深さ10km以浅の断層

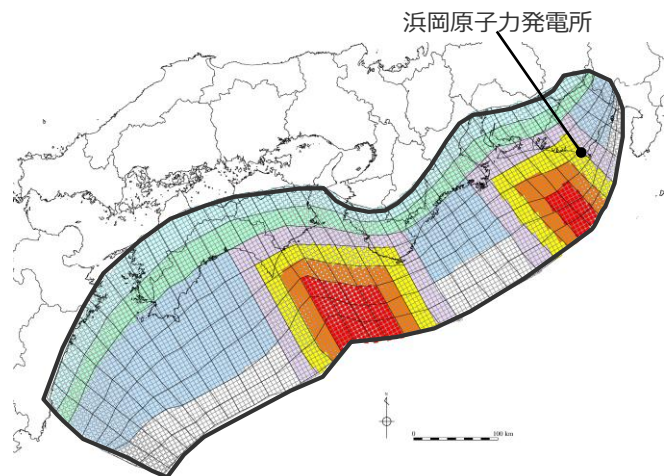


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.2

	津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																												⇒ 東										
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	2.4	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	2.0	1.7	1.7	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.0	1.0	0.8	0.8
	20km↓	2	5.7	5.7	5.5	5.5	5.4	5.4	4.9	4.7	4.7	4.6	4.5	4.5	4.3	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.5	3.5	2.9	2.9	2.9	2.3	2.3	2.3	2.1	2.1	1.5	
		3	11.4	11.4	11.0	11.0	10.7	10.7	9.7	9.7	9.4	9.2	9.2	9.0	12.4	12.4	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	8.5	7.7	7.6	7.3	7.3	7.8	11.2	9.9	9.9	8.4	8.4	8.4	5.8	5.8	4.1	4.1	3.0
	10km↓	4	11.4	11.4	11.0	11.0	10.7	10.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.0	14.7	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	13.2	7.7	7.6	7.6	7.3	8.8	13.7	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	9.2	4.6	4.1	3.0
		5	11.4	11.4	11.0	11.0	10.7	10.7	10.7	9.7	9.7	9.4	9.2	9.2	15.2	21.2	30.6	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	18.8	13.2	7.7	7.6	7.6	7.3	7.3	12.9	18.5	27.7	24.4	24.4	20.7	13.8	9.2	4.6	4.1	4.1
	0km↓	6	11.4	11.4	11.0	11.0	10.7	10.7	10.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	15.2	21.2	30.6	39.8	39.8	39.8	38.8	29.1	18.8	13.2	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	14.1	20.8	27.7	37.0	32.6	24.4	13.8	9.2	4.6	4.1	4.1
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	21.2	30.6	40.8	39.8	39.8	39.8	29.1	19.4	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	9.2	0.0	0.0	0.0
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	21.2	30.6	40.8	40.8	39.8	39.8	29.1	19.4	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	20.8	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	9.2	0.0	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータの設定)

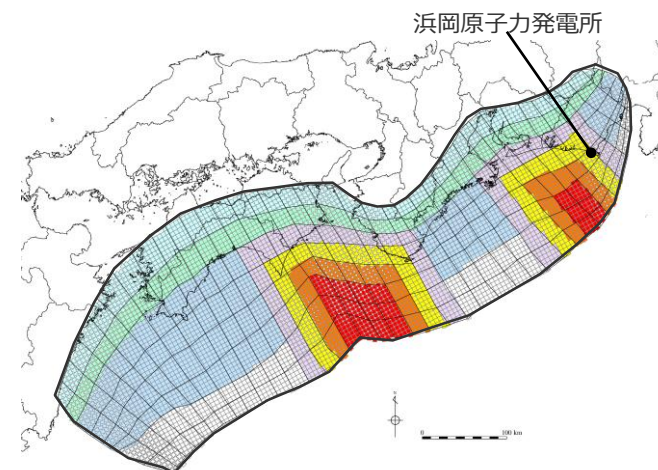
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.7
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,165km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,441km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を100kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータの設定)

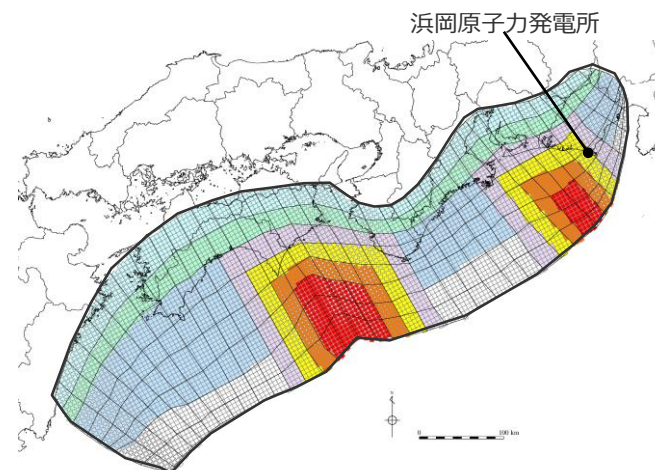
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.4
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		40.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	27.7
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,090km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,365km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を120kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

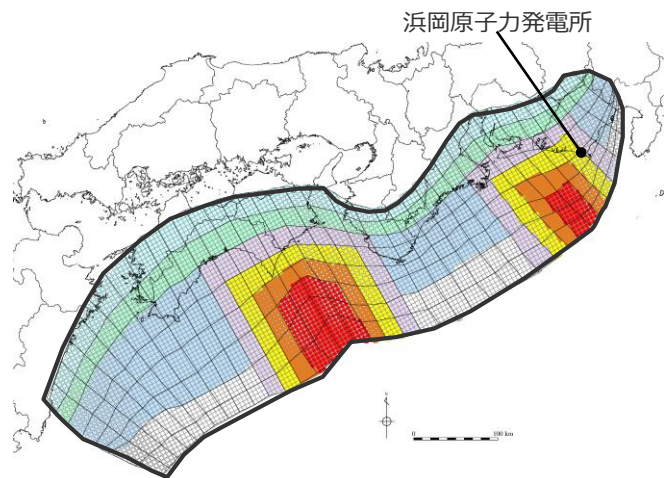


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

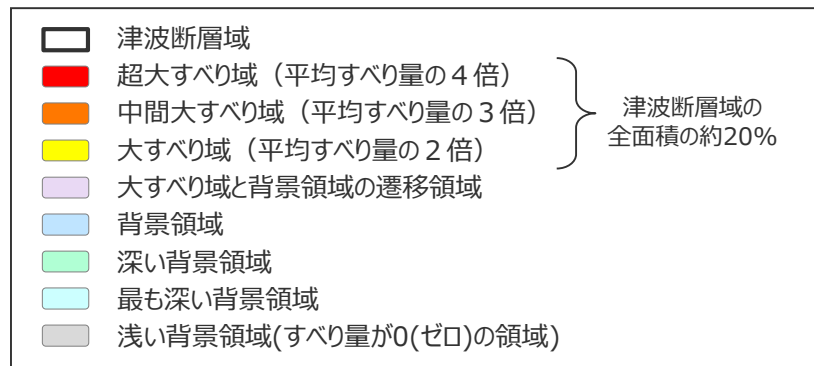
(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
42.4	12.5



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.9	1.6	1.6	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	0.7	
	30km↓	1	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.9	1.6	1.6	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	0.7	
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	5.4	5.4	5.2	5.2	5.1	5.1	4.6	4.5	4.5	4.4	4.3	4.3	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.3	3.3	2.8	2.8	2.8	2.2	2.2	2.2	2.0	2.0	1.4
		3	10.8	10.8	10.5	10.5	10.2	10.2	9.3	9.3	9.0	8.7	9.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	11.6	11.6	8.6	8.6	7.6	7.3	7.3	7.2	7.0	7.0	7.5	11.1	9.8	9.8	8.3	8.3	8.3	5.7	5.7	3.9	3.9	2.9
	10km↓	4	10.8	10.8	10.5	10.5	10.2	10.2	9.3	9.3	9.0	9.0	15.1	21.2	21.2	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	13.5	7.6	7.3	7.3	7.2	7.2	7.0	8.4	13.4	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	9.1	4.4	3.9	2.9
		5	10.8	10.8	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	9.3	9.3	9.0	15.3	21.7	31.8	31.8	30.6	29.9	29.9	29.1	19.4	13.5	7.6	7.6	7.3	7.2	7.2	7.0	7.0	12.7	18.5	27.7	24.4	24.4	20.7	13.8	9.1	4.4	3.9	3.9
0km↓	6	10.8	10.8	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	9.3	9.3	9.0	15.3	21.7	31.8	42.4	40.8	39.8	39.8	29.9	19.4	13.5	7.6	7.6	7.3	7.3	7.2	7.2	7.0	13.9	20.8	27.7	37.0	32.6	24.4	13.8	9.1	4.4	3.9	3.9	
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3	22.2	32.5	42.4	40.8	40.8	39.8	29.9	19.9	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	9.1	0.0	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3	22.2	32.5	42.4	40.8	40.8	40.8	29.9	19.9	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	20.8	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	9.1	0.0	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータの設定)

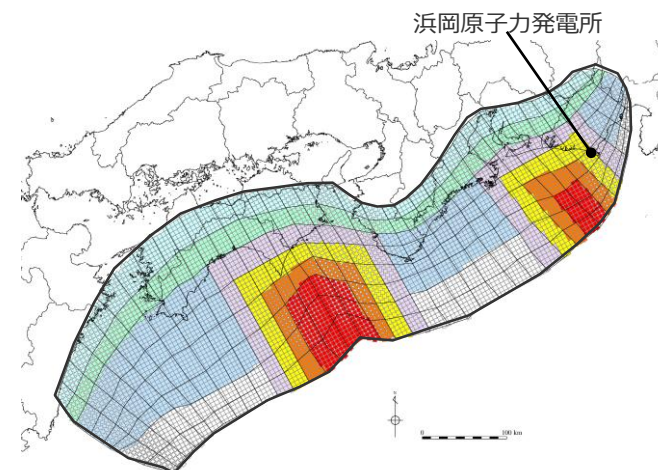
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.5 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.5
	最大すべり量 (m)	42.4
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		42.4
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	28.6
	最大すべり量 (m)	42.4

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,014km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,289km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を140kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

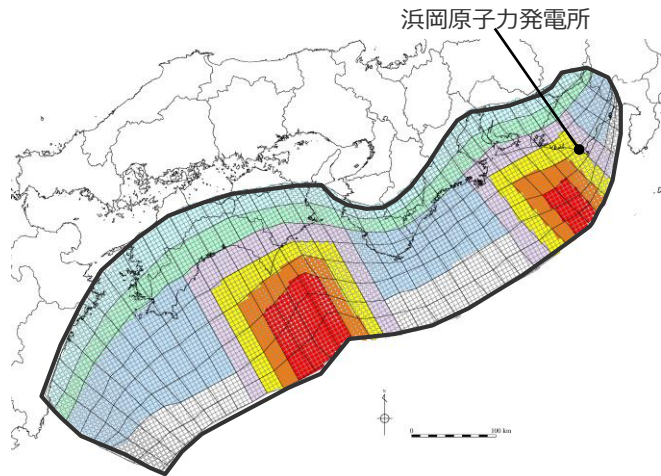
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

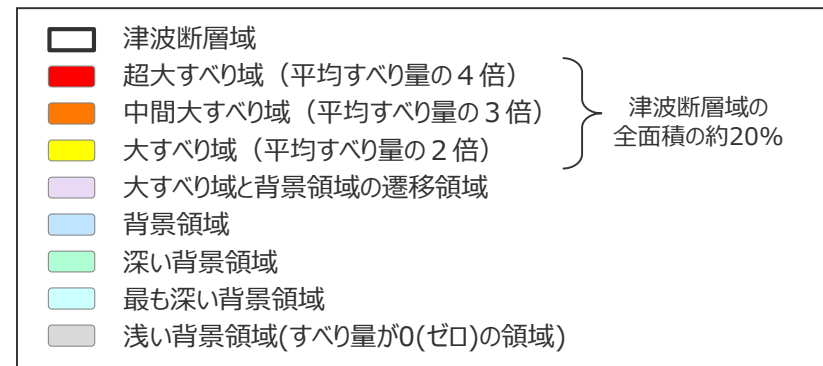
(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.3	12.6



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																→ 東																						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.8	1.6	1.6	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	1.1	0.9	0.9	0.7	0.7		
	30km↓	1	5.2	5.2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.5	4.3	4.3	4.2	4.1	4.1	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.2	3.2	2.7	2.7	2.7	2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.4
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	8.9	8.9	8.6	12.9	12.9	12.7	12.2	12.2	11.9	11.9	11.6	11.6	5.5	7.3	7.3	7.0	7.0	7.0	6.7	6.7	7.2	11.0	9.7	9.7	8.3	8.3	8.3	5.6	5.6	3.8	3.8	2.8
	10km↓	3	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	8.9	8.9	8.6	15.1	21.7	21.2	21.2	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	13.3	7.3	7.3	7.0	7.0	7.0	6.7	8.1	13.3	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	9.0	4.2	3.8	2.8	
⇄	0km↓	4	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	8.9	8.9	8.9	15.3	21.7	32.5	31.8	31.8	30.6	29.9	29.9	19.4	13.4	7.5	7.3	7.3	7.0	7.0	6.7	6.7	12.6	18.5	27.7	24.4	24.4	20.7	13.8	9.0	4.2	3.8	3.8	
	8	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.8	8.9	8.9	8.9	15.6	22.2	32.5	42.4	42.4	40.8	39.8	29.9	19.9	13.7	7.5	7.3	7.3	7.0	7.0	7.0	6.7	13.8	20.8	27.7	37.0	32.6	24.4	13.8	9.0	4.2	3.8	3.8		
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.6	22.2	33.3	43.3	42.4	40.8	40.8	29.9	19.9	13.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	9.0	0.0	0.0	0.0		
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.6	22.2	33.3	43.3	42.4	40.8	40.8	30.6	19.9	13.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	20.8	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	9.0	0.0	0.0	0.0		

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータの設定)

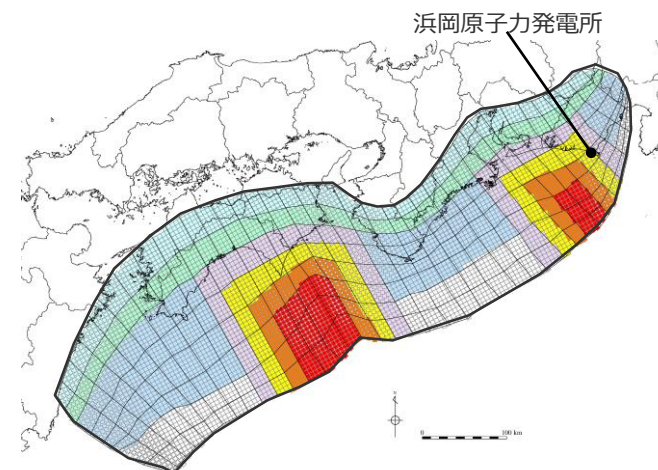
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.5 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.6
	最大すべり量 (m)	43.3
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		42.4
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	29.2
	最大すべり量 (m)	43.3

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,938km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,213km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ40km、大すべり域間の距離を160kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

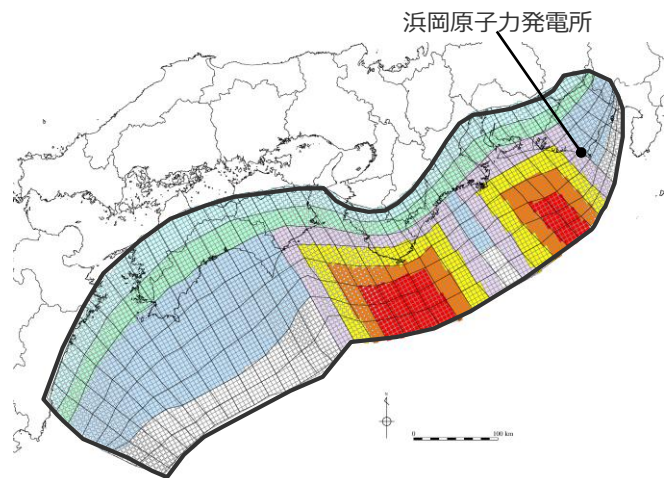


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.2

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を20kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															→ 東																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
	30km↓	1	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	5.9	5.9	5.7	5.7	5.5	5.5	5.0	4.9	4.9	4.7	4.6	4.6	4.5	4.4	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	4.1	4.1	3.6	3.6	3.0	3.0	3.0	2.4	2.4	2.4	2.1	2.1	1.6
		3	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.5	9.5	9.3	9.0	9.0	8.7	9.2	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	10.9	5.7	7.6	11.3	11.3	9.9	9.9	8.4	8.4	8.4	3.6	4.8	4.3	4.3	3.1
	10km↓	4	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.5	9.3	9.3	9.0	8.7	14.1	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	18.1	17.9	12.7	7.6	13.0	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	9.3	4.8	4.8	4.3	3.1
		5	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.5	9.3	9.3	9.0	14.4	19.9	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	27.2	17.9	12.7	7.6	14.2	20.8	27.7	27.7	24.4	24.4	13.8	9.3	4.8	4.8	4.3	4.3	
⇄	0km↓	6	11.8	11.8	11.4	11.4	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.5	9.3	9.3	9.0	14.4	19.9	29.9	38.8	38.8	37.5	37.5	27.2	18.1	13.0	7.9	14.3	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	11.2	6.1	4.8	4.3	4.3	
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.4	19.9	29.9	39.8	38.8	38.8	37.5	27.2	18.1	13.0	0.0	14.3	17.3	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	11.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.4	20.4	29.9	39.8	38.8	38.8	37.5	28.1	18.1	13.0	0.0	14.3	17.3	31.3	41.7	41.7	27.7	18.5	11.2	0.0	0.0	0.0	0.0		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

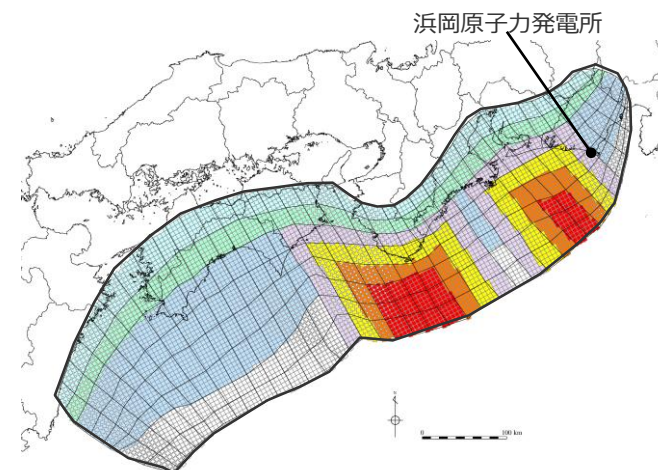
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		38.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.1
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,135km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,410km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を20kmとしたケース



主部断層: 深さ10km以深の断層

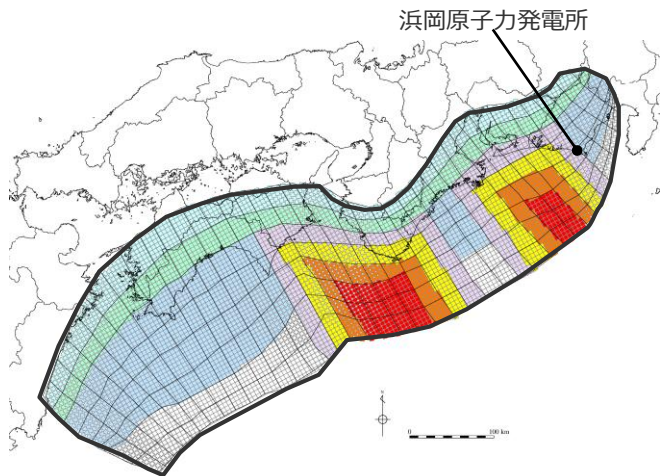
浅部断層: 深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.2

津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を40kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						→ 東	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
陸側 ⇄	深度40km↓		2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.5	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
	30km↓	1	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.5	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	2.0	1.8	1.8	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	5.8	5.8	5.6	5.6	5.4	5.4	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	4.6	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.7	4.0	4.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	2.4	2.4	2.4	2.1	2.1	1.5	
		3	11.6	11.6	11.2	11.2	10.9	10.9	9.9	9.9	9.6	9.3	9.3	9.1	8.8	8.8	12.1	12.1	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.0	11.0	8.4	7.4	7.4	11.2	11.2	9.9	9.9	8.4	8.4	8.4	3.5	4.7	4.2	4.2	3.1	
	10km↓	4	11.6	11.6	11.2	11.2	10.9	10.9	9.9	9.9	9.6	9.6	9.3	9.1	9.1	8.8	14.4	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	18.1	12.9	7.7	7.4	13.0	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	9.3	4.7	4.7	4.2	3.1	
		5	11.6	11.6	11.2	11.2	10.9	10.9	10.9	9.9	9.9	9.6	9.3	9.3	9.1	9.1	14.5	19.9	29.9	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	18.1	12.9	7.7	7.4	14.1	20.8	27.7	27.7	24.4	24.4	13.8	9.3	4.7	4.7	4.2	4.2	
⇄	0km↓	6	11.6	11.6	11.2	11.2	10.9	10.9	10.9	9.9	9.9	9.6	9.6	9.3	9.1	9.1	14.5	19.9	29.9	39.8	39.8	38.8	38.8	37.5	28.1	18.1	12.9	7.7	7.7	14.3	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	11.1	6.0	4.7	4.2	4.2
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.5	20.4	29.9	39.8	39.8	38.8	38.8	28.1	18.1	12.9	0.0	0.0	14.3	17.3	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.5	20.4	30.6	39.8	39.8	38.8	38.8	28.1	18.8	12.9	0.0	0.0	14.3	17.3	31.3	41.7	41.7	27.7	18.5	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

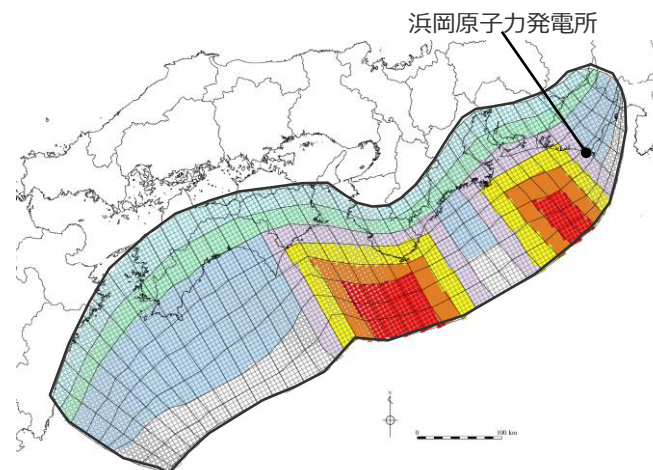
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.0
	最大すべり量 (m)	41.7

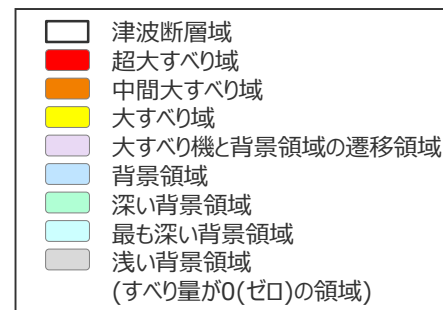
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,383km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,659km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を40kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

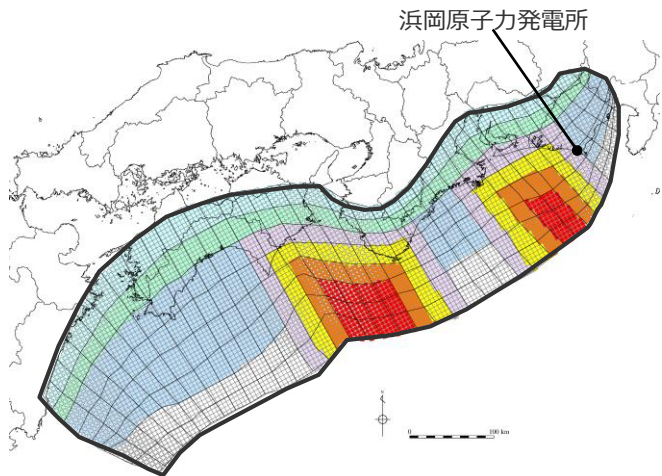


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.2

津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を60kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←															→ 東																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km ↓		2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	2.0	1.7	1.7	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.0	1.0	0.8	0.8	
	30km ↓	1	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	2.0	1.7	1.7	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.0	1.0	0.8	0.8	
海溝軸側 ⇄	20km ↓	2	5.7	5.7	5.5	5.5	5.4	5.4	4.9	4.7	4.7	4.6	4.5	4.5	4.3	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.5	3.5	2.9	2.9	2.9	2.3	2.3	2.1	2.1	1.5	
		3	11.4	11.4	11.0	11.0	10.8	10.8	9.8	9.8	9.4	9.2	9.2	9.0	8.7	9.4	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.0	11.0	7.6	7.3	7.3	11.2	11.2	9.9	9.9	8.4	8.4	8.4	3.5	4.6	4.2	4.2	3.0
	10km ↓	4	11.4	11.4	11.0	11.0	10.8	10.8	9.8	9.8	9.4	9.4	9.2	9.0	9.0	14.5	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.1	12.9	7.6	7.6	7.3	12.9	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	9.2	4.6	4.6	4.2	3.0
		5	11.4	11.4	11.0	11.0	10.8	10.8	10.8	9.8	9.8	9.4	9.2	9.2	9.0	14.7	20.4	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	28.1	18.8	13.2	7.6	7.6	7.3	14.1	20.8	27.7	27.7	24.4	24.4	13.8	9.2	4.6	4.6	4.2	4.2
⇄	0km ↓	6	11.4	11.4	11.0	11.0	10.8	10.8	10.8	9.8	9.8	9.4	9.4	9.2	9.0	14.7	20.4	29.9	39.8	39.8	38.8	38.8	28.1	18.8	13.2	7.7	7.6	7.6	14.2	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	11.1	5.9	4.6	4.2	4.2
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	20.4	30.6	39.8	39.8	39.8	38.8	29.1	18.8	13.2	0.0	0.0	14.2	17.3	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	20.4	30.6	40.8	39.8	39.8	38.8	29.1	18.8	13.2	0.0	0.0	14.2	17.3	31.3	41.7	41.7	27.7	18.5	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

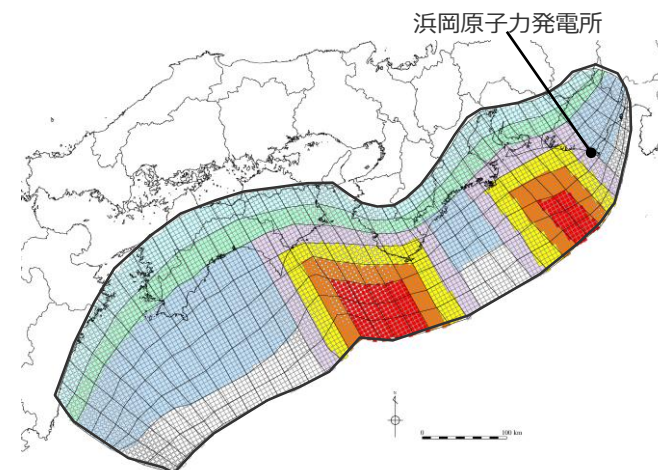
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.3
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,607km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,883km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

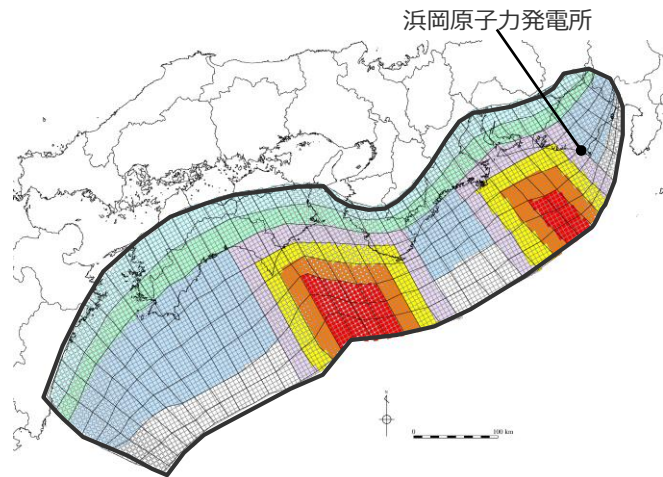
浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.4

津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を80kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					→ 東																																				
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																			
	30km↓	1	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.4	2.3	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9	1.7	1.7	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	0.7																																		
	20km↓	2	5.6	5.6	5.4	5.4	5.2	5.2	4.7	4.6	4.6	4.5	4.4	4.4	4.2	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.4	3.4	2.9	2.9	2.9	2.3	2.3	2.3	2.0	2.0	1.5																																			
		3	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.5	9.5	9.5	9.2	9.0	9.0	8.8	12.3	12.3	12.0	12.0	11.7	11.7	11.3	11.3	11.3	8.4	7.5	7.4	7.2	7.2	11.2	11.2	9.8	9.8	8.3	8.3	8.3	3.4	4.5	4.0	4.0	2.9																																			
	10km↓	4	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.5	9.5	9.5	9.2	9.2	9.0	8.8	14.6	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	13.1	7.5	7.4	7.4	7.2	12.8	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	9.2	4.5	4.5	4.0	2.9																																			
		5	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.5	10.5	9.5	9.5	9.2	9.0	9.0	15.1	21.2	30.6	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	18.8	13.1	7.5	7.4	7.4	7.2	14.0	20.8	27.7	27.7	24.4	24.4	13.8	9.2	4.5	4.5	4.0	4.0																																			
	0km↓	6	11.1	11.1	10.8	10.8	10.5	10.5	10.5	9.5	9.5	9.2	9.2	9.0	15.1	21.2	30.6	39.8	39.8	39.8	38.8	29.1	18.8	13.1	7.5	7.5	7.4	7.4	14.1	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	11.0	5.7	4.5	4.0	4.0																																			
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.1	21.2	30.6	40.8	39.8	39.8	39.8	29.1	19.4	13.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	17.3	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0																																			
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.1	21.2	30.6	40.8	40.8	39.8	39.8	29.1	19.4	13.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	17.3	31.3	41.7	41.7	27.7	18.5	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0																																				

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

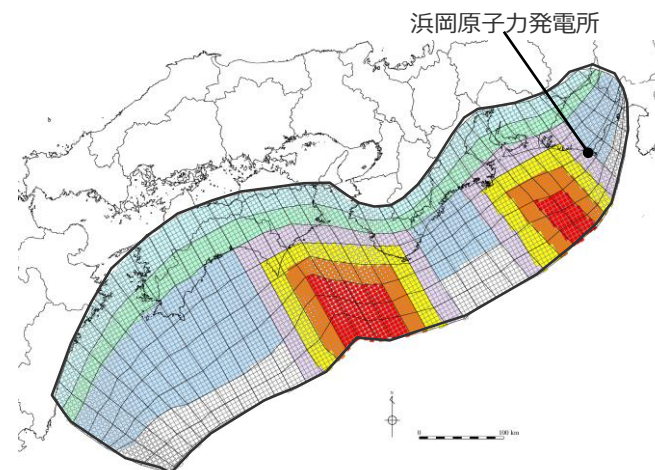
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.5 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.4
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	27.0
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,756km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(18,032km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を80kmとしたケース



主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

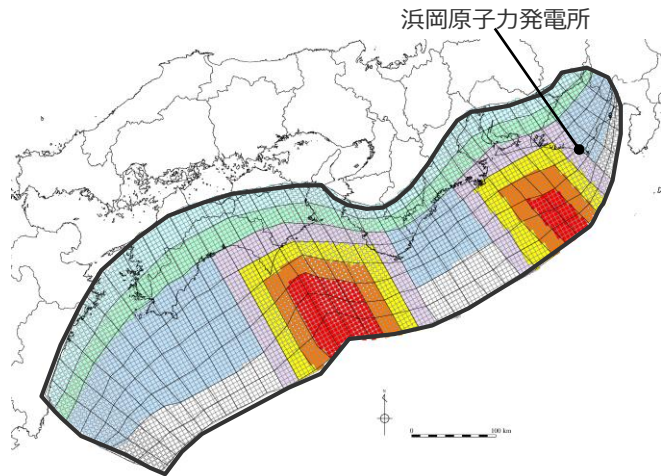


## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.5

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を100kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km ↓		2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.9	1.6	1.6	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	0.7
	30km ↓	1	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.3	2.2	2.2	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.9	1.6	1.6	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	0.7
海溝軸側 ⇄	20km ↓	2	5.4	5.4	5.2	5.2	5.1	5.1	4.6	4.5	4.5	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.3	3.3	2.8	2.8	2.8	2.2	2.2	2.2	2.0	2.0	1.4
		3	10.8	10.8	10.4	10.4	10.1	10.1	9.2	9.2	8.9	8.7	8.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	11.6	11.6	11.3	11.3	11.3	7.3	7.3	7.2	6.9	6.9	11.1	11.1	9.8	9.8	8.3	8.3	8.3	3.3	4.4	3.9	3.9	2.8
	10km ↓	4	10.8	10.8	10.4	10.4	10.1	10.1	9.2	9.2	8.9	8.9	8.7	14.9	21.2	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	13.0	7.3	7.3	7.2	7.2	6.9	12.7	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	9.1	4.4	4.4	3.9	2.8
		5	10.8	10.8	10.4	10.4	10.1	10.1	10.1	9.2	9.2	8.9	8.7	14.9	21.2	31.8	30.6	29.9	29.9	29.1	29.1	19.4	13.4	7.5	7.3	7.2	7.2	6.9	13.9	20.8	27.7	27.7	24.4	24.4	13.8	9.1	4.4	4.4	3.9	3.9
⇄	0km ↓	6	10.8	10.8	10.4	10.4	10.1	10.1	10.1	9.2	9.2	8.9	8.9	15.0	21.2	31.8	40.8	39.8	39.8	39.8	29.1	19.4	13.4	7.5	7.3	7.2	7.2	14.0	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	10.9	5.5	4.4	3.9	3.9	
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	21.7	31.8	40.8	40.8	39.8	39.8	29.9	19.4	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	17.3	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	21.7	31.8	40.8	40.8	40.8	39.8	29.9	19.4	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	17.3	31.3	41.7	41.7	27.7	18.5	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータの設定)

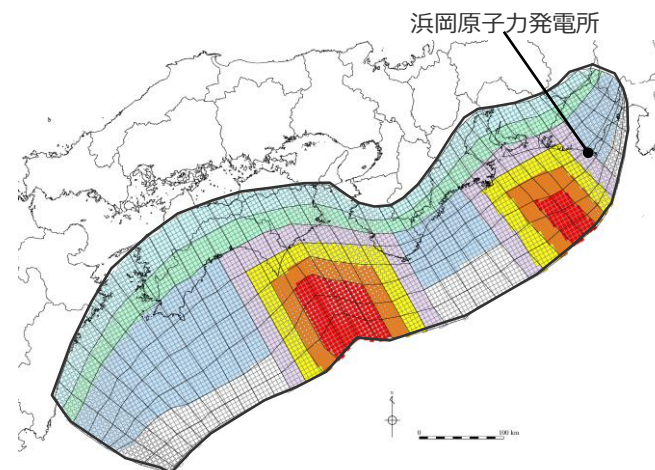
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.5 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.5
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		40.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	27.9
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,681km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,956km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を100kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

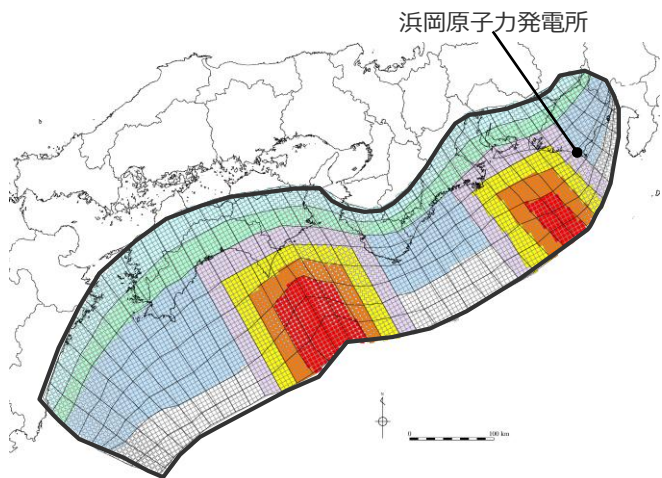
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
42.4	12.6

- 津波断層域
  - 超大すべり域 (平均すべり量の4倍)
  - 中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)
  - 大すべり域 (平均すべり量の2倍)
  - 大すべり域と背景領域の遷移領域
  - 背景領域
  - 深い背景領域
  - 最も深い背景領域
  - 浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)
- 津波断層域の全面積の約20%

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を120kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.6	1.6	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	0.7	
	30km↓	1	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.6	1.6	1.4	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.7	0.7	
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	5.3	5.3	5.1	5.1	5.0	5.0	4.5	4.4	4.4	4.2	4.2	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.2	3.2	2.7	2.7	2.7	2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.4	
		3	10.5	10.5	10.2	10.2	9.9	9.9	9.0	9.0	8.7	8.5	9.6	12.7	12.2	12.2	11.9	11.9	11.6	11.6	8.5	8.5	7.4	7.1	7.1	7.0	6.8	6.8	11.1	11.1	9.7	9.7	8.3	8.3	8.3	3.2	4.3	3.8	3.8	2.8
	10km↓	4	10.5	10.5	10.2	10.2	9.9	9.9	9.0	9.0	8.7	8.7	15.0	21.2	21.2	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	13.4	7.4	7.1	7.1	7.0	7.0	6.8	12.6	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	9.1	4.3	4.3	3.8	2.8
		5	10.5	10.5	10.2	10.2	9.9	9.9	9.9	9.0	9.0	8.7	15.2	21.7	31.8	31.8	30.6	29.9	29.9	29.1	19.4	13.4	7.4	7.4	7.1	7.1	7.0	7.0	6.8	13.8	20.8	27.7	27.7	24.4	24.4	13.8	9.1	4.3	4.3	3.8
0km↓	6	10.5	10.5	10.2	10.2	9.9	9.9	9.9	9.0	9.0	8.7	15.2	21.7	31.8	42.4	40.8	39.8	39.8	29.9	19.4	13.4	7.4	7.4	7.1	7.1	7.0	7.0	13.9	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	10.9	5.4	4.3	3.8	3.8	
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	22.2	32.5	42.4	40.8	40.8	39.8	29.9	19.9	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	17.3	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	22.2	32.5	42.4	40.8	40.8	40.8	29.9	19.9	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	17.3	31.3	41.7	41.7	27.7	18.5	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0		

- ・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータの設定)

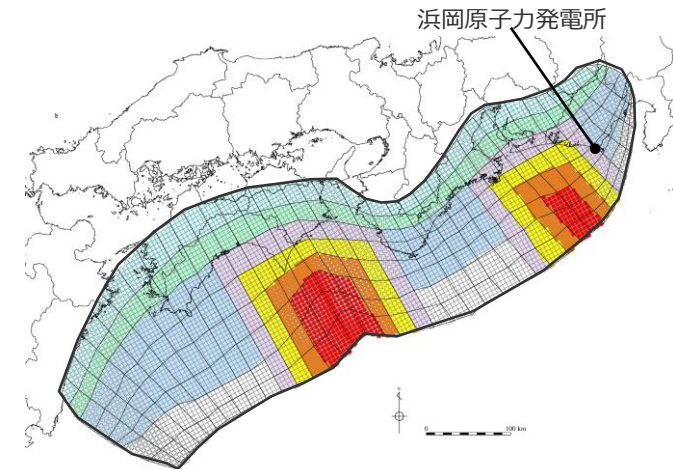
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.6 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.6
	最大すべり量 (m)	42.4
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		42.4
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	28.8
	最大すべり量 (m)	42.4

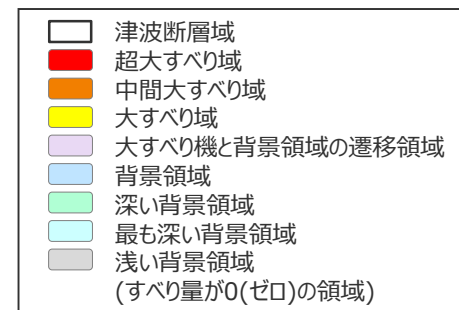
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,605km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,880km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

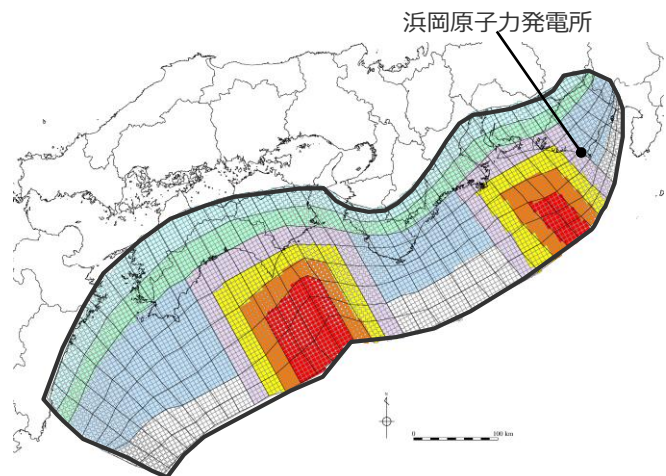


# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

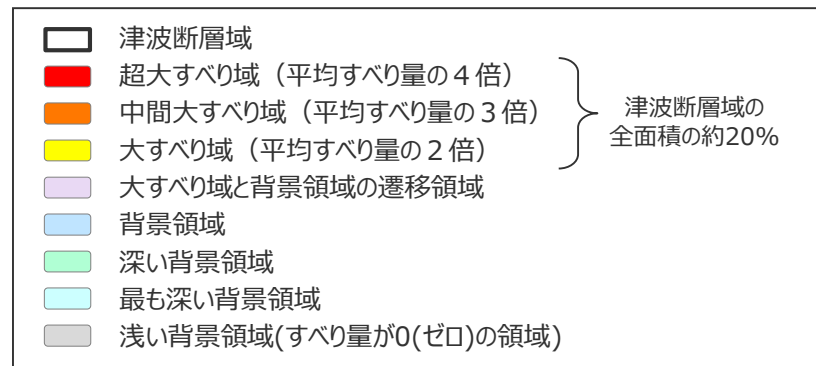
(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.3	12.7



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を140kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																				
陸側 ⇄ 海溝軸側	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.7	1.5	1.5	1.3	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.7
	20km↓	2	5.1	5.1	4.9	4.9	4.8	4.8	4.3	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.5	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
		3	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	8.7	8.7	8.4	12.9	12.9	12.6	12.1	12.1	11.8	11.8	11.5	11.5	5.3	7.1	7.1	6.8	6.8	6.8	6.5	6.5	11.0	11.0	9.7	9.7	8.2	8.2	8.2	3.1	4.1	3.7	3.7
	10km↓	4	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	8.7	8.7	8.4	15.0	21.7	21.2	21.2	20.4	19.9	19.9	19.4	19.4	13.2	7.1	7.1	6.8	6.8	6.8	6.5	12.5	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	9.0	4.1	4.1	3.7	2.7
		5	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	8.7	8.7	15.2	21.7	32.5	31.8	31.8	30.6	29.9	29.9	19.4	13.3	7.3	7.1	7.1	6.8	6.8	6.8	6.5	13.7	20.8	27.7	27.7	24.4	24.4	13.8	9.0	4.1	4.1	3.7
	0km↓	6	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	8.7	8.7	15.4	22.2	32.5	42.4	42.4	40.8	39.8	29.9	19.9	13.6	7.3	7.1	7.1	6.8	6.8	6.8	13.8	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	10.8	5.2	4.1	3.7	3.7
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	22.2	33.3	43.3	42.4	40.8	40.8	29.9	19.9	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	17.3	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	22.2	33.3	43.3	42.4	40.8	40.8	30.6	19.9	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	17.3	31.3	41.7	41.7	27.7	18.5	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータの設定)

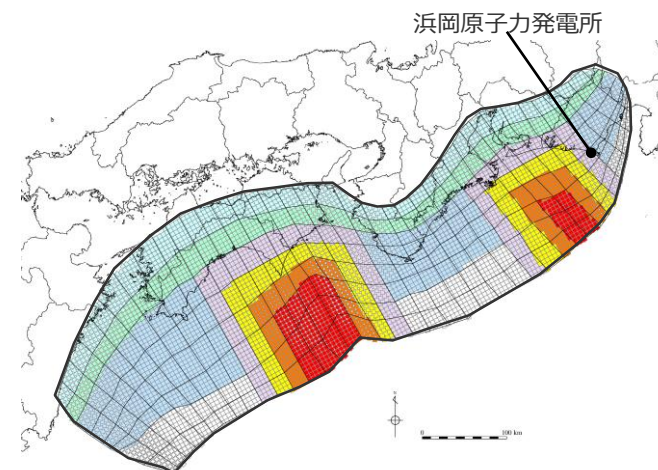
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.6 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.7
	最大すべり量 (m)	43.3
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		42.4
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	29.4
	最大すべり量 (m)	43.3

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,529km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,804km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を140kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

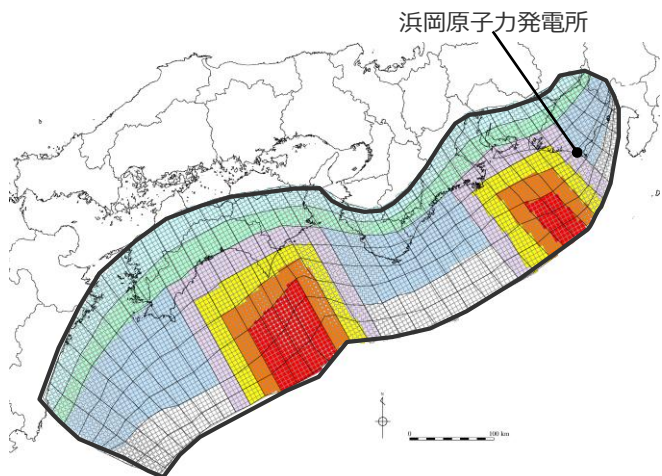
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
44.5	12.7

	津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を160kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
陸側 ⇄	深度40km↓		2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.1	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.7	1.5	1.5	1.2	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.6	0.6	
	30km↓	1	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.1	4.0	4.0	3.9	3.8	3.8	3.7	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	3.3	3.3	2.9	2.9	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.8	1.8	1.3
海溝軸側 ⇄	20km↓	2	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	8.3	8.3	13.1	12.8	12.8	12.5	12.0	12.0	11.7	11.7	11.4	11.4	6.7	6.7	6.7	6.5	6.5	6.4	6.2	6.2	10.9	10.9	9.6	9.6	8.2	8.2	8.2	2.9	3.9	3.5	3.5	2.5
		3	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	8.3	8.3	15.2	22.2	21.7	21.2	21.2	20.4	19.9	19.9	19.4	13.2	7.0	6.7	6.7	6.5	6.5	6.4	6.4	6.2	12.4	18.5	18.5	16.3	13.8	13.8	13.8	8.9	3.9	3.9	3.5	2.5
	10km↓	4	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	8.3	8.3	15.2	22.2	32.5	32.5	31.8	31.8	30.6	29.9	19.9	13.4	7.0	7.0	6.7	6.7	6.5	6.4	6.4	6.2	13.5	20.8	27.7	27.7	24.4	24.4	13.8	8.9	3.9	3.9	3.5	3.5
		5	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	8.3	8.3	15.2	22.2	33.3	43.3	42.4	42.4	40.8	29.9	19.9	13.4	7.0	7.0	6.7	6.7	6.5	6.5	6.4	6.4	13.6	20.8	31.3	37.0	37.0	24.4	16.3	10.6	5.0	3.9	3.5	3.5
⇄	0km↓	6	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	8.3	8.3	15.2	22.2	33.3	44.5	43.3	42.4	40.8	30.6	19.9	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	17.3	31.3	41.7	37.0	27.7	16.3	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	23.0	33.3	44.5	43.3	42.4	40.8	30.6	20.4	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	17.3	31.3	41.7	41.7	27.7	18.5	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.2	23.0	33.3	44.5	43.3	42.4	40.8	30.6	20.4	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	17.3	31.3	41.7	41.7	27.7	18.5	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を20kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータの設定)

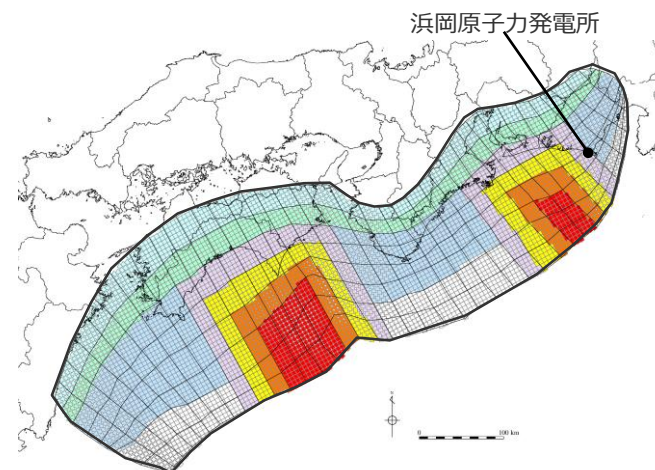
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を160kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.6 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.7
	最大すべり量 (m)	44.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		43.3
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	29.6
	最大すべり量 (m)	44.5

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,377km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,653km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を160kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

---

余 白



## 1 検討波源モデルDの詳細

### 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

---



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータの設定)

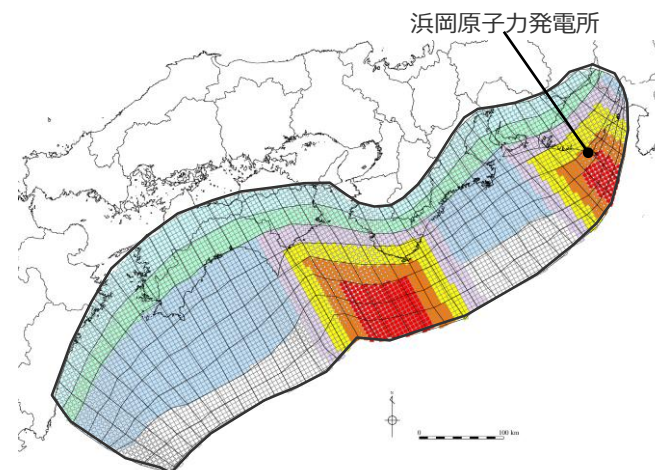
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.8
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.3
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(124,883km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,159km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を120kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

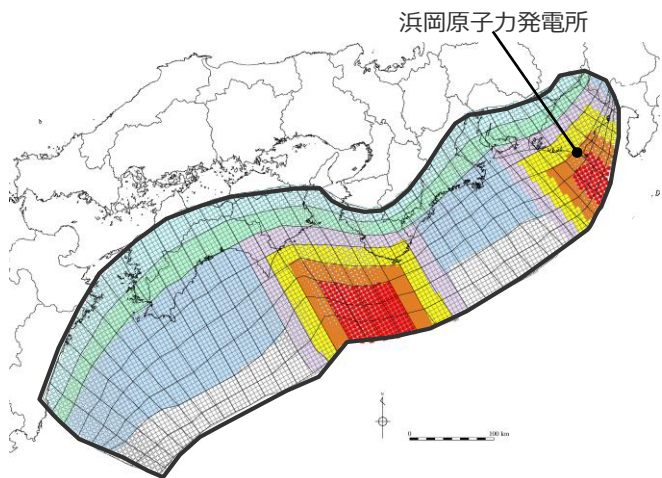
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を130kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を130kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を130kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	11.9

津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を130kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を130kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					⇒ 東																																	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																	
陸側	深度 40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																	
	30km↓	1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.1	2.1	1.9	1.9	1.9	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8																			
海溝軸側	20km↓	2	6.2	6.2	6.2	6.0	6.0	6.0	5.9	5.9	5.9	5.3	5.3	5.1	5.1	5.1	5.0	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.0	4.0	4.3	4.3	4.3	3.8	3.8	3.8	3.2	3.2	3.2	2.5	2.5	2.5	2.3	2.3	2.3	1.6	1.6																			
	10km↓	3	12.5	12.5	12.5	12.0	12.0	12.0	11.7	11.7	11.7	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	10.0	10.0	10.0	9.8	9.8	9.5	12.3	12.3	12.3	12.3	11.9	11.9	11.9	11.6	11.6	11.6	11.2	11.2	11.2	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	8.0	8.6	8.6	8.6	8.6	7.6	7.6	7.5	8.5	8.5	8.5	8.5	6.7	6.7	6.7	6.0	4.7	6.0	4.7	3.3	3.3											
陸側	0km↓	4	12.5	12.5	12.5	12.0	12.0	12.0	11.7	11.7	11.7	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	14.9	14.9	19.9	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.8	18.1	18.1	13.2	13.2	8.3	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	9.7	9.7	8.6	8.6	8.6	7.6	11.2	10.7	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	9.8	7.1	4.9	3.3								
	5	12.5	12.5	12.5	12.0	12.0	12.0	11.7	11.7	11.7	10.6	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	10.0	10.0	10.0	9.8	9.8	15.1	15.1	20.4	20.4	29.9	29.9	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	18.8	18.8	13.5	13.5	8.3	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	8.0	9.7	9.7	8.6	8.6	8.6	12.4	12.4	16.3	16.3	24.4	20.7	20.7	20.7	16.4	16.4	10.9	9.8	7.7	4.9	4.5						
海溝軸側	6	12.5	12.5	12.5	12.0	12.0	12.0	11.7	11.7	11.7	10.6	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	15.1	15.1	20.4	20.4	29.9	29.9	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	28.1	28.1	18.8	18.8	13.6	13.6	8.4	8.4	8.3	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	9.7	9.7	9.7	9.7	8.6	14.1	12.4	18.5	16.3	24.4	32.6	27.7	27.7	27.7	20.7	16.4	10.9	9.8	7.7	4.9	4.5			
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.1	15.1	20.4	20.4	30.6	30.6	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	29.1	29.1	18.8	18.8	13.6	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	12.4	18.5	18.5	27.7	24.4	32.6	32.6	27.7	20.7	16.4	10.9	9.8	7.7	4.9	4.5			
陸側	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.1	15.1	20.4	20.4	30.6	30.6	40.8	40.8	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	29.1	29.1	18.8	18.8	13.6	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	12.4	20.8	18.5	27.7	27.7	37.0	32.6	32.6	27.7	20.7	16.4	10.9	9.8	7.7	4.9	4.5

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を130kmとしたケースの断層パラメータの設定)

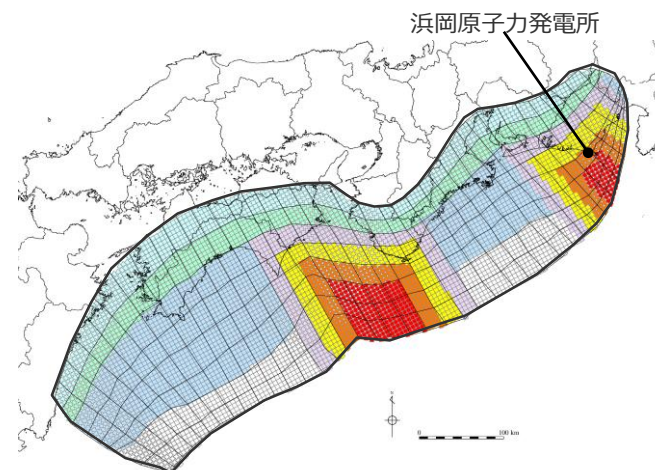
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、  
大すべり域間の距離を130kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.5
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,008km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,283km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、  
大すべり域間の距離を130kmとしたケース

	津波断層域
	超大すべり域
	中間大すべり域
	大すべり域
	大すべり機と背景領域の遷移領域
	背景領域
	深い背景領域
	最も深い背景領域
	浅い背景領域 (すべり量が0(ゼロ)の領域)

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータの設定)

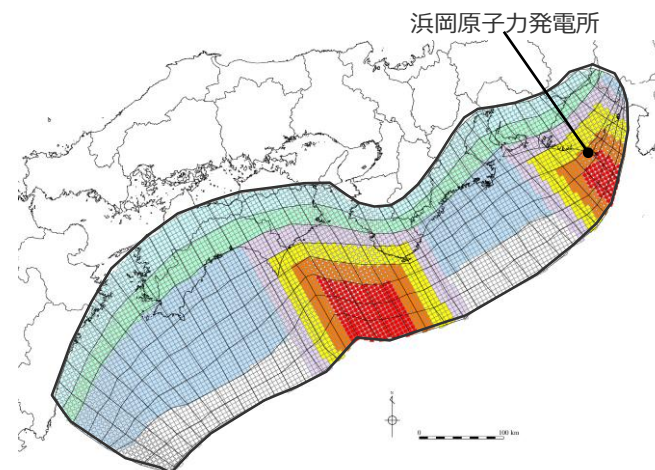
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を140kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.9
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,132km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,408km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を東へ10km、大すべり域間の距離を140kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







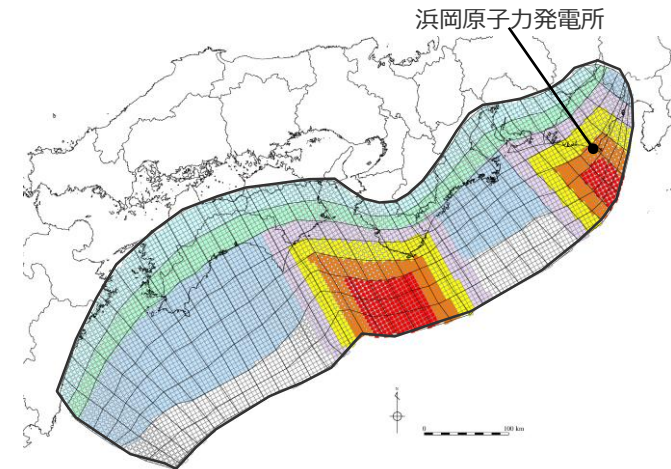
## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

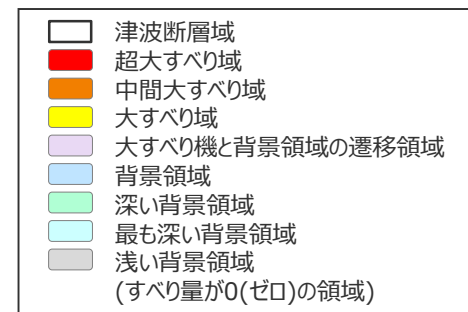
(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を110kmとしたケースの断層パラメータの設定)

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を110kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.2
	最大すべり量 (m)	40.8



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、  
大すべり域間の距離を110kmとしたケース



※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,387km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,662km<sup>2</sup>)に基づき算出

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を130kmとしたケースの断層パラメータの設定)

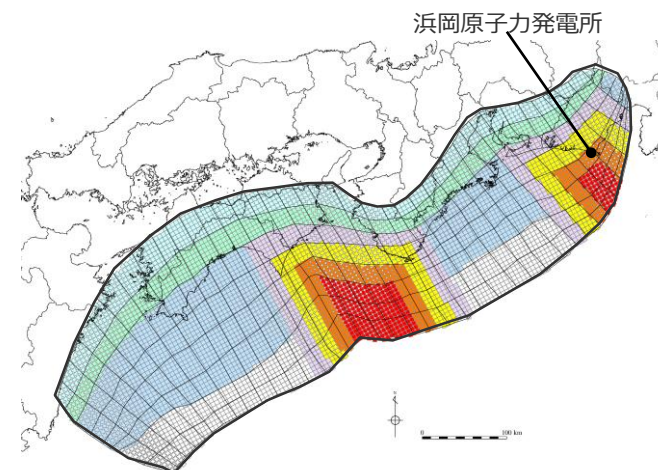
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を130kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.2 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.8
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,636km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,911km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を基準位置、大すべり域間の距離を130kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータの設定)

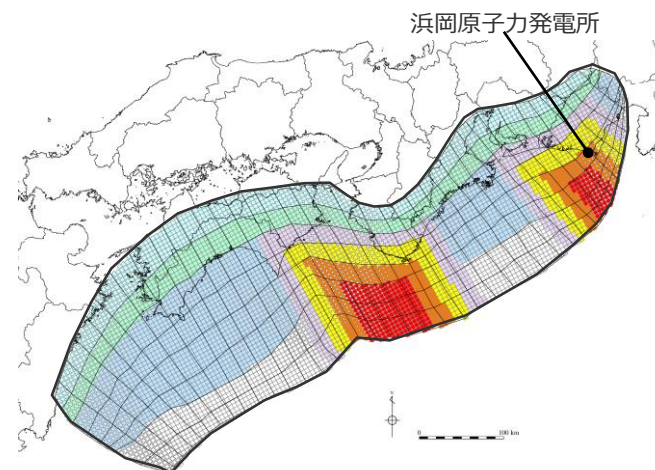
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、  
大すべり域間の距離を100kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	11.9
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.5
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,613km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(15,888km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、  
大すべり域間の距離を100kmとしたケース

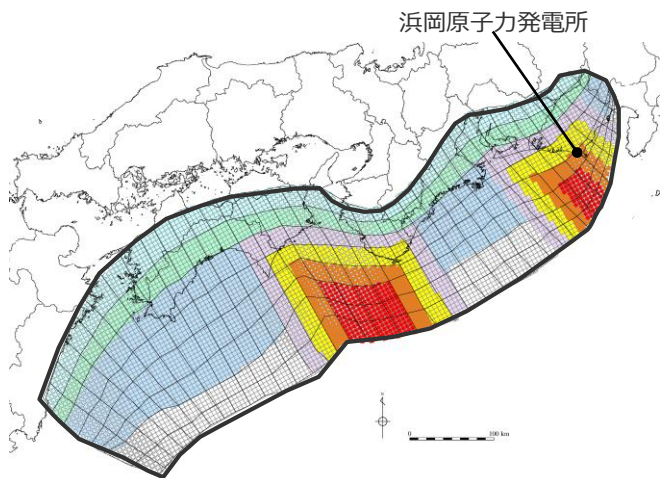


主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース (敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、大すべり域間の距離を110kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、大すべり域間の距離を110kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、大すべり域間の距離を110kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	12.0

	津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
	超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
	中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
	大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
	大すべり域と背景領域の遷移領域	
	背景領域	
	深い背景領域	
	最も深い背景領域	
	浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、大すべり域間の距離を110kmとしたケース

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、大すべり域間の距離を110kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					⇒ 東																																		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																		
陸側⇕	深度 40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																		
	30km↓	1	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.6	1.6	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8					
海溝軸側⇓	20km↓	2	6.1	6.1	6.1	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	4.2	4.2	4.2	4.2	3.7	3.7	3.7	3.7	3.1	3.1	3.1	3.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.2	2.2	2.2	2.2	1.6	1.6							
	10km↓	3	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	9.6	9.6	9.2	9.2	12.3	12.2	12.2	12.2	11.9	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	11.1	11.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	8.3	8.3	7.3	10.0	7.4	10.0	8.5	8.5	8.5	8.5	6.7	6.7	6.7	4.6	3.3	4.6	4.4	3.2	3.2								
	5km↓	4	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	9.6	9.6	15.0	15.0	20.4	20.4	29.9	29.9	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	18.8	18.8	13.4	13.4	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	7.8	9.4	9.4	8.3	8.3	8.3	12.3	11.1	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	7.7	7.1	4.4	4.4	3.2	3.2				
	0km↓	5	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	9.6	9.6	15.0	15.0	20.4	20.4	29.9	29.9	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	18.8	18.8	13.4	13.4	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	7.8	9.4	9.4	8.3	13.9	12.3	18.5	16.3	24.4	24.4	20.7	20.7	20.7	16.4	10.9	10.9	7.7	7.1	4.4	4.4	3.2	3.2					
	0km↓	6	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	15.0	15.0	20.4	20.4	29.9	29.9	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	18.8	18.8	13.5	13.5	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	9.4	9.4	9.4	13.9	13.9	18.5	18.5	27.7	24.4	32.6	32.6	27.7	20.7	20.7	13.8	10.9	9.1	7.7	4.4	4.4	3.2	3.2					
	0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	15.0	20.4	20.4	30.6	30.6	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	38.8	29.1	29.1	18.8	18.8	13.5	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	13.9	20.8	18.5	27.7	27.7	37.0	37.0	32.6	24.4	20.7	13.8	10.9	9.1	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0		
	0km↓	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	15.0	20.4	20.4	30.6	30.6	40.8	40.8	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	29.1	29.1	18.8	18.8	13.5	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	13.9	20.8	20.8	31.3	27.7	37.0	37.0	32.6	24.4	20.7	13.8	10.9	9.1	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、大すべり域間の距離を110kmとしたケースの断層パラメータの設定)

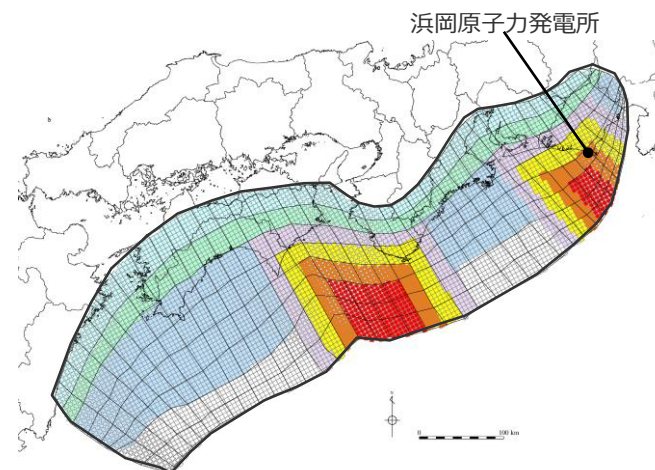
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、  
大すべり域間の距離を110kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.2 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.7
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,737km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(16,013km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、  
大すべり域間の距離を110kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータの設定)

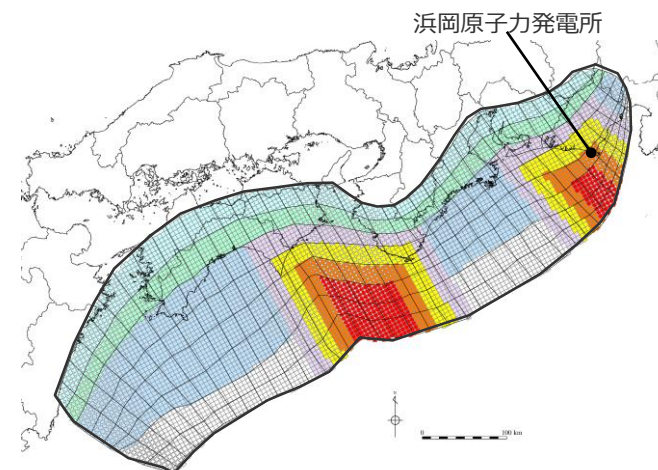
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.2 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.0
	最大すべり量 (m)	40.8

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(125,862km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(16,137km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ10km、  
大すべり域間の距離を120kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

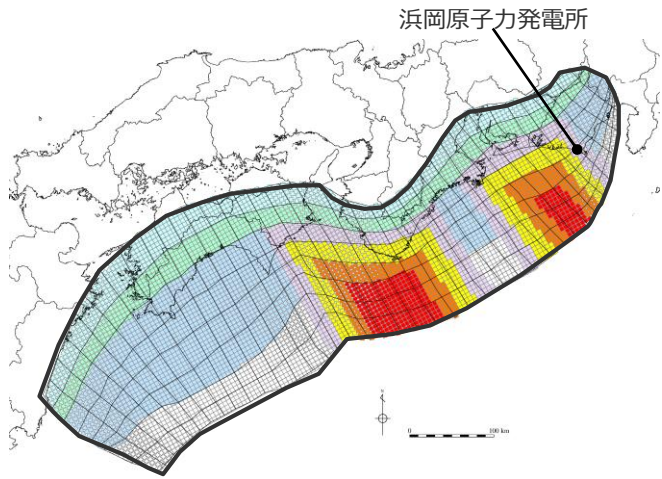
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.1

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を40kmとしたケース

津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					⇒ 東																													
深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																													
陸側⇕	40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																													
	30km↓	1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	2.0	2.0	1.8	1.8	1.8	1.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8				
海溝軸側⇓	20km↓	2	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.6	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	4.1	4.1	4.1	4.1	3.6	3.6	3.6	3.6	3.0	3.0	3.0	3.0	2.4	2.4	2.4	2.2	2.2	2.2	2.2	1.6	1.6					
	10km↓	3	11.8	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.8	8.8	9.4	9.2	12.2	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	10.9	8.5	5.7	7.6	7.6	7.6	8.1	12.5	11.3	11.3	9.9	9.9	9.9	9.9	8.4	8.4	8.4	8.4	8.1	3.6	3.6	4.8	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	
⇓	0km↓	4	11.8	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.8	14.5	14.1	19.9	19.4	19.4	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.8	18.1	18.1	18.1	17.9	13.0	12.8	7.9	7.6	7.6	7.6	9.2	13.1	13.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	9.3	9.3	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1	3.1	
		5	11.8	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	14.6	14.5	19.9	19.9	29.9	29.1	29.1	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	28.1	27.2	18.1	17.9	13.0	12.8	7.9	7.6	7.6	7.6	14.2	13.1	20.8	18.5	27.7	27.7	27.7	24.4	24.4	24.4	24.4	20.7	13.8	13.8	9.3	9.3	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	
	6	11.8	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	14.6	14.5	19.9	19.9	29.9	29.9	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	37.5	37.5	28.1	27.2	18.1	18.1	13.0	13.0	7.9	7.9	7.9	7.6	14.4	14.2	20.8	20.8	31.3	27.7	37.0	37.0	37.0	32.6	24.4	24.4	16.3	13.8	11.2	9.3	6.1	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3
	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6	14.5	20.4	19.9	29.9	29.9	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	37.5	28.1	27.2	18.1	18.1	13.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.4	14.2	17.3	20.8	31.3	31.3	41.7	37.0	37.0	27.7	24.4	16.3	16.3	11.2	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.6	14.5	20.4	20.4	30.6	29.9	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	37.5	28.1	28.1	18.8	18.1	13.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.4	14.2	17.3	20.8	31.3	31.3	41.7	41.7	37.0	27.7	27.7	18.5	16.3	11.2	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

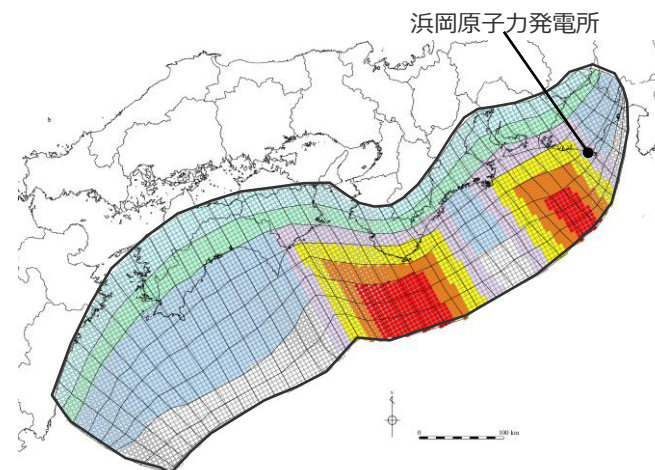
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.8
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(126,990km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,265km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、  
大すべり域間の距離を40kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

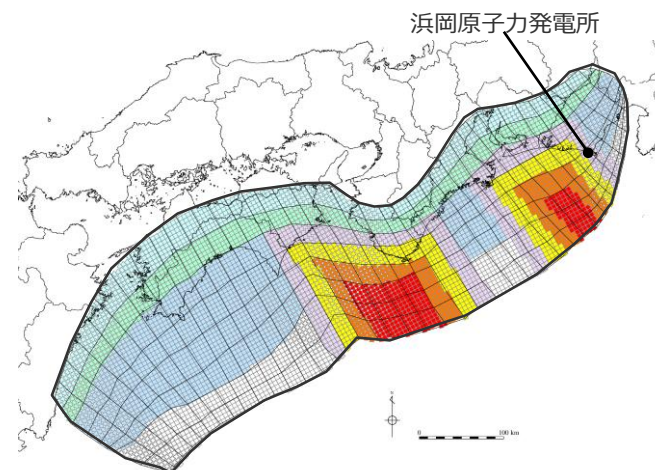
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、  
大すべり域間の距離を50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.8
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,089km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,364km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、  
大すべり域間の距離を50kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

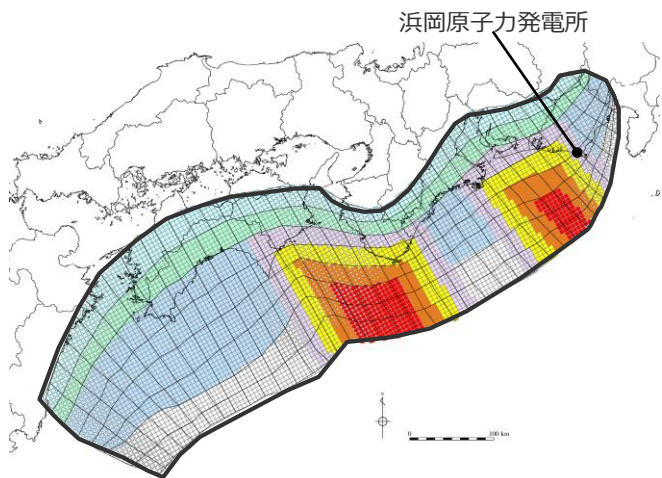
浅部断層：深さ10km以浅の断層

# 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

## 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「検討波源モデルD」の敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
41.7	12.1

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を60kmとしたケース

津波断層域	} 津波断層域の全面積の約20%
超大すべり域 (平均すべり量の4倍)	
中間大すべり域 (平均すべり量の3倍)	
大すべり域 (平均すべり量の2倍)	
大すべり域と背景領域の遷移領域	
背景領域	
深い背景領域	
最も深い背景領域	
浅い背景領域(すべり量が0(ゼロ)の領域)	

検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																																					⇒ 東																																				
深度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																				
陸側⇄	40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																				
	30km↓	1	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8											
海溝軸側⇄	20km↓	2	5.8	5.8	5.8	5.8	5.6	5.6	5.6	5.6	5.5	5.5	5.5	5.0	5.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.4	2.4	2.4	2.4	2.1	2.1	2.1	2.1	1.5	1.5							
	10km↓	3	11.6	11.6	11.6	11.6	11.2	11.2	11.2	11.2	10.9	10.9	10.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.6	9.6	9.4	9.4	9.4	9.2	9.2	8.8	8.8	8.8	12.2	12.1	12.1	12.1	12.1	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.4	11.0	11.0	11.0	7.7	7.5	7.5	7.5	7.5	8.0	12.4	11.2	11.2	9.9	9.9	9.9	9.9	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.1	3.5	3.5	4.7	4.7	4.2	4.2	4.2	3.1	3.1			
	0km↓	4	11.6	11.6	11.6	11.6	11.2	11.2	11.2	11.2	10.9	10.9	10.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.6	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	8.8	14.5	14.4	19.9	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.8	18.1	18.1	18.1	12.9	12.9	7.7	7.7	7.7	7.5	7.5	9.0	13.0	13.8	18.5	18.5	18.5	16.3	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	9.3	9.3	4.7	4.7	4.7	4.2	4.2	4.2	3.1	3.1			
		5	11.6	11.6	11.6	11.6	11.2	11.2	11.2	11.2	10.9	10.9	10.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.4	9.4	9.4	9.2	9.2	14.8	14.5	20.4	19.9	29.9	29.9	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	29.1	28.1	28.1	28.1	18.8	18.1	13.3	12.9	7.7	7.7	7.7	7.5	7.5	14.2	13.0	20.8	18.5	27.7	27.7	27.7	24.4	24.4	24.4	24.4	20.7	13.8	13.8	9.3	9.3	4.7	4.7	4.7	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2		
		6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.2	11.2	11.2	11.2	10.9	10.9	10.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.4	9.4	9.2	9.2	14.8	14.5	20.4	19.9	29.9	29.9	29.9	29.9	29.9	29.9	29.9	29.9	28.1	28.1	28.1	18.8	18.1	13.3	12.9	7.8	7.7	7.7	7.7	7.5	14.3	14.2	20.8	20.8	31.3	27.7	37.0	37.0	32.6	24.4	24.4	16.3	13.8	11.1	9.3	6.0	4.7	4.7	4.2	4.2	4.2	4.2					
		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.8	14.5	20.4	20.4	30.6	29.9	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	38.8	28.1	18.8	18.1	13.3	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.2	17.3	20.8	31.3	31.3	41.7	37.0	37.0	27.7	24.4	16.3	16.3	11.1	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.8	14.5	20.4	20.4	30.6	30.6	40.8	39.8	39.8	39.8	38.8	38.8	38.8	38.8	28.1	18.8	18.8	13.3	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.2	17.3	20.8	31.3	31.3	41.7	41.7	37.0	27.7	27.7	18.5	16.3	11.1	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

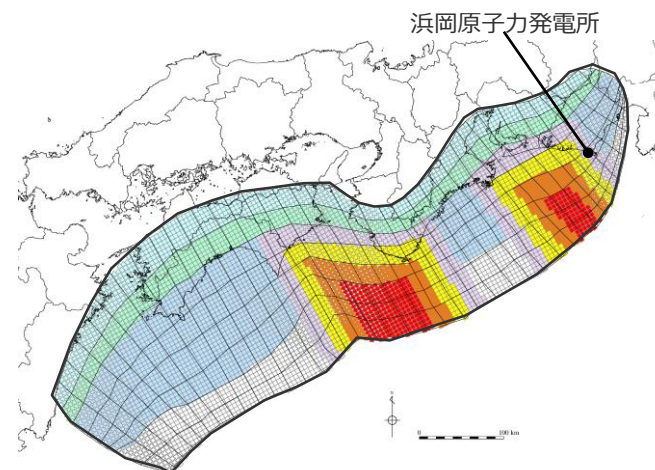
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.1
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	25.9
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,188km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,464km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、  
大すべり域間の距離を60kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

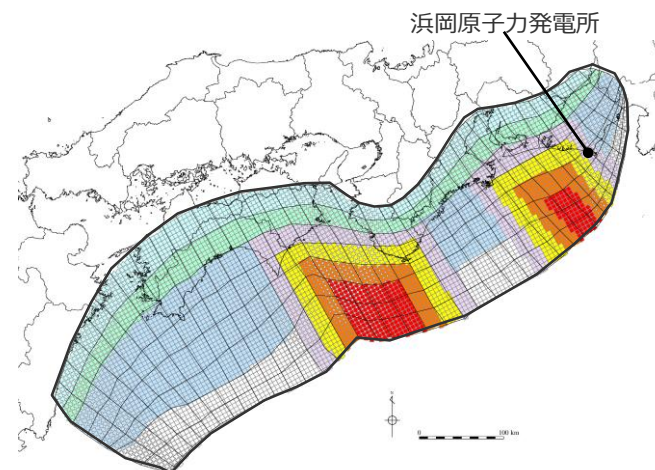
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、  
大すべり域間の距離を70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.1
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,313km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,588km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、  
大すべり域間の距離を70kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

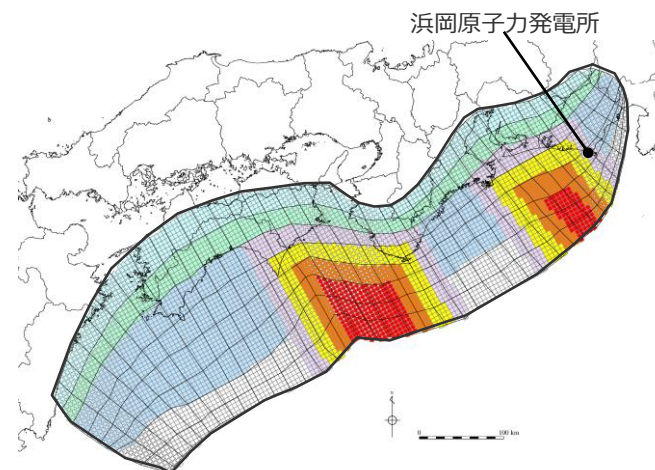
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.4
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,437km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,713km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ50km、大すべり域間の距離を80kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

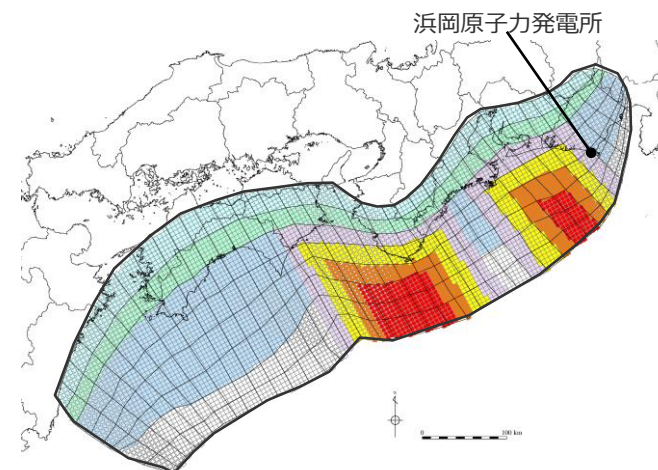
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.0
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,284km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,559km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を30kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層



## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

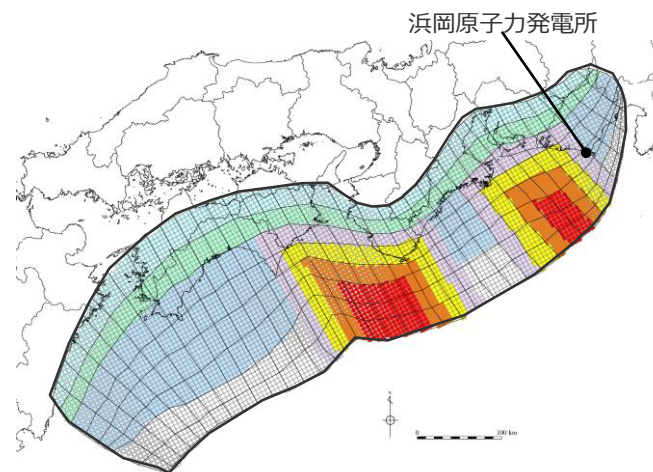
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.2
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$1.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.1
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,483km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(17,758km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を50kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層







## 1-2 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

### 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース

(敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、大すべり域間の距離を70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

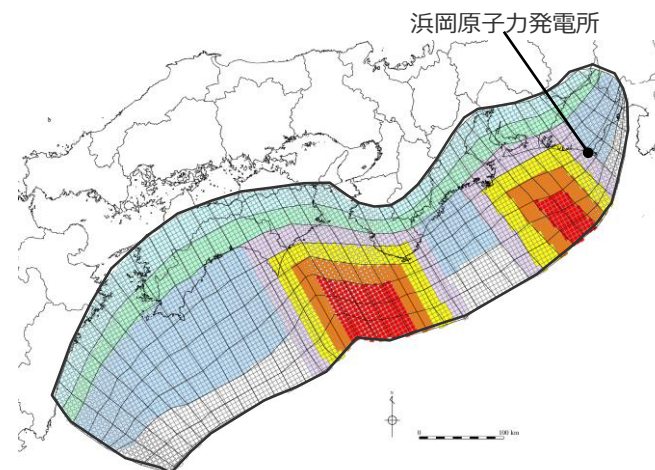
検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.1
	平均応力降下量 ※1(MPa)	3.0
	平均すべり量 ※2(m)	12.3
	最大すべり量 (m)	41.7
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$4.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.0 \times 10^{22}$
	平均すべり量 ※3 (m)	26.6
	最大すべり量 (m)	41.7

※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量(主部断層の面積と地震モーメントより算出)

※2 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(127,732km<sup>2</sup>)に基づき算出

※3 すべり量が0m(ゼロ)でない領域の断層面積(18,007km<sup>2</sup>)に基づき算出



検討波源モデルDの敷地に近い大すべり域の位置を西へ60km、  
大すべり域間の距離を70kmとしたケース



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

---

余 白

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

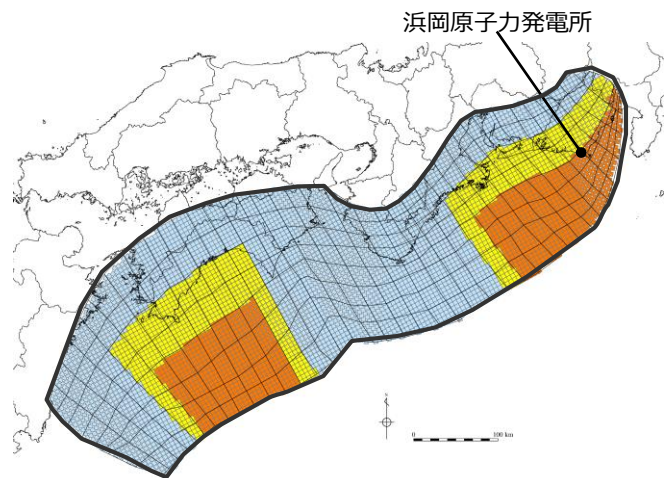
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル①（ $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s）のパラメータスタディモデルの設定

---

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

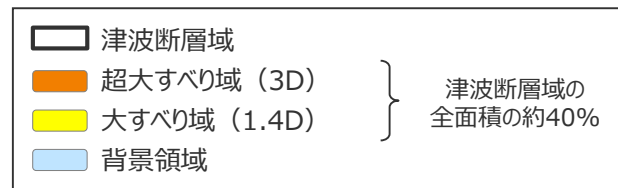
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	12.6



日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース

・D: 平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) の位置を東へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																							
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
		30km↓	1	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3	1.3		
	20km↓	2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3	1.3		
		3	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.2	17.2	16.9	16.2	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	13.8	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	7.8	7.8	5.6	5.6
	10km↓	4	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	16.9	16.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	13.8	16.6	14.7	14.7	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	7.8	7.8	5.6	5.6
		5	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	36.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	13.8	29.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	23.6	18.7	18.7	16.7	16.7		
	0km↓	6	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	14.3	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	23.6	18.7	16.7	16.7			
		7	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	14.3	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	18.7	16.7	16.7		
	8	5.0	5.0	4.9	4.9	20.7	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	14.3	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	23.6	18.7	16.7	16.7			

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



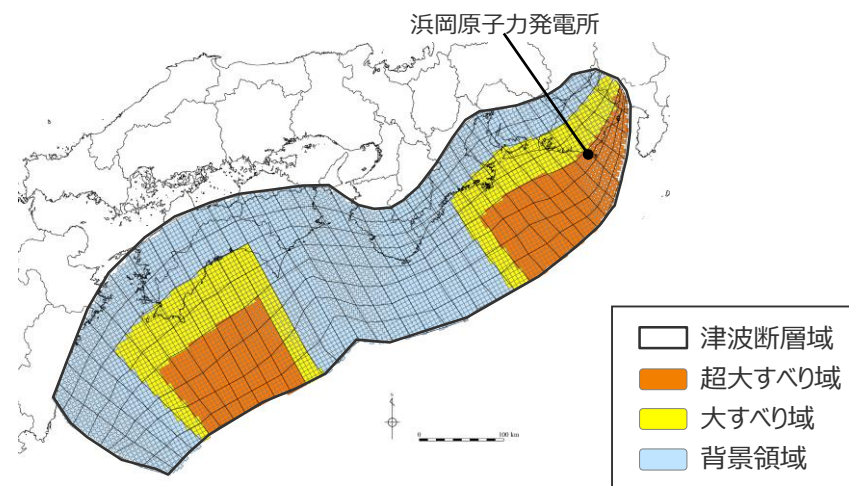
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$7.5 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	12.6
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.0 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	11.2
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	17.1
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



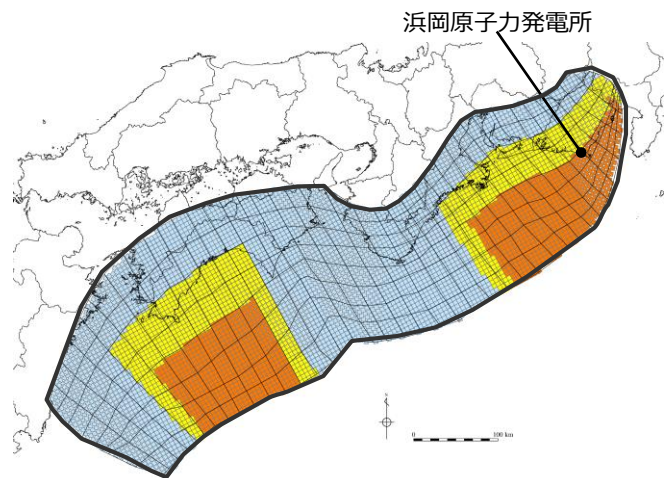
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

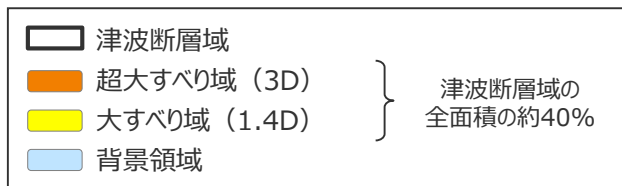
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■ 「日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) 」の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	12.8



日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケース

・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	断層番号 (西から東)																																																																					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																
30km↓	1	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3	
	2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3
20km↓	3	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	17.2	16.9	16.9	16.2	16.2	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	13.8	13.8	13.8	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	8.7	8.7	7.8	7.8	7.8	5.6	5.6		
	4	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	16.9	16.9	16.9	16.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	14.3	13.8	13.8	16.6	16.6	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	8.7	8.7	7.8	7.8	7.8	5.6	5.6		
10km↓	5	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	35.5	35.5	35.5	35.5	35.5	34.3	34.3	34.3	34.3	34.3	34.3	14.3	13.8	29.5	29.5	29.5	29.5	29.5	31.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	23.6	18.7	18.7	18.7	16.7	16.7	16.7	7.8		
	6	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	35.5	35.5	35.5	35.5	35.5	34.3	34.3	34.3	34.3	34.3	34.3	14.3	14.3	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	31.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	23.6	18.7	18.7	16.7	16.7	16.7	7.8			
0km↓	7	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	35.5	35.5	35.5	35.5	35.5	34.3	34.3	34.3	34.3	34.3	34.3	14.3	14.3	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	31.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	23.6	18.7	18.7	16.7	16.7	16.7	7.8				
	8	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.7	20.7	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	36.9	35.5	35.5	35.5	35.5	35.5	34.3	34.3	34.3	34.3	34.3	34.3	14.4	14.3	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	31.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	23.6	18.7	18.7	16.7	16.7	16.7	7.8				

- ・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)
- ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

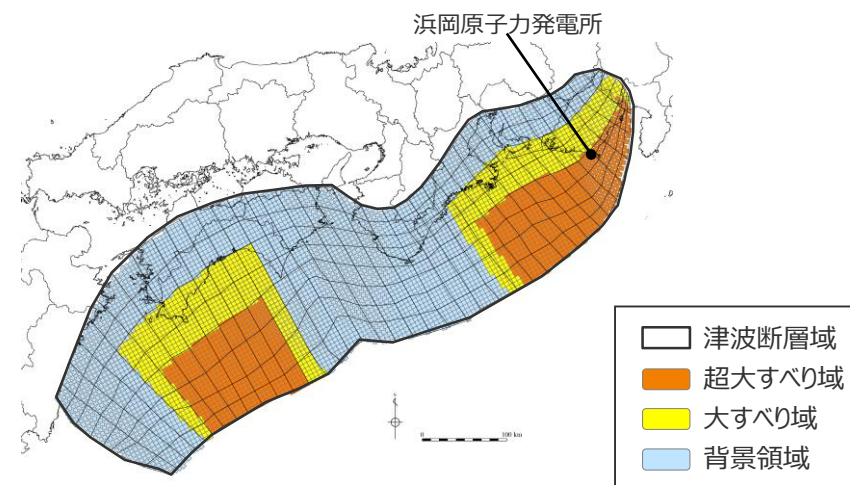
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$7.6 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	12.8
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	11.3
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	17.6
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



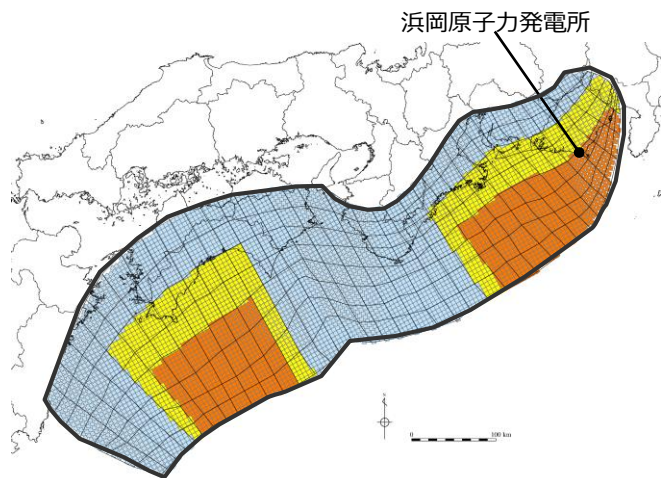
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ50kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

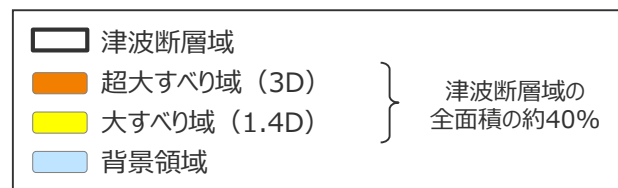
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	13.0



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																						
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3	1.3	
	20km↓	2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3	
		3	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.2	17.2	16.9	16.2	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	13.8	13.8	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	7.8	7.8	5.6
	10km↓	4	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	16.9	16.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	14.3	13.8	16.6	14.7	14.7	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	7.8	7.8	5.6
		5	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	36.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	14.3	29.5	29.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	23.6	18.7	18.7	16.7	7.8	
	0km↓	6	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	14.3	30.6	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	23.6	18.7	16.7	7.8		
		7	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.4	3.4	14.3	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	18.7	16.7	7.8		
	8	5.0	5.0	4.9	4.9	20.7	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	14.4	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	23.6	18.7	16.7	7.8		

- ・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



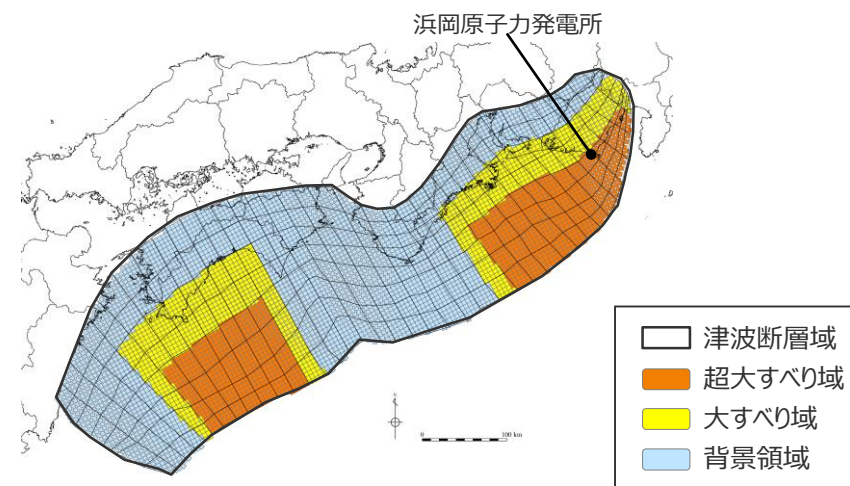
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$7.7 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	13.0
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	11.5
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	18.1
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層



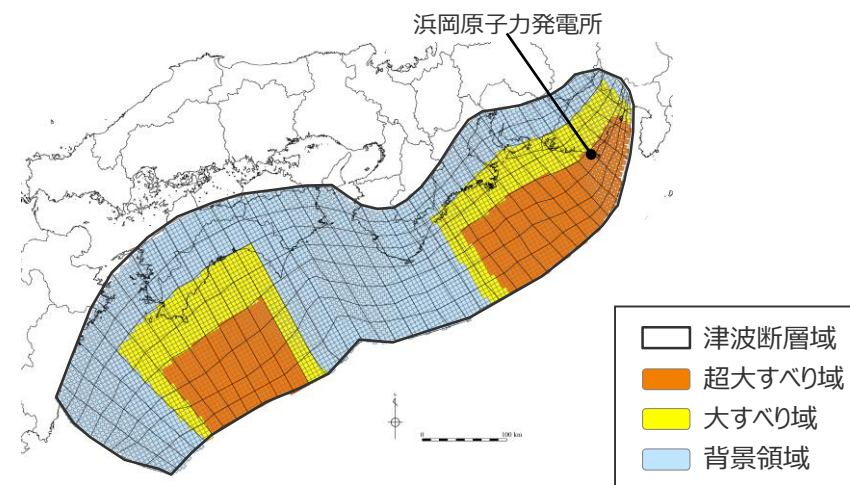
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$7.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	13.2
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$5.2 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		11.6
最大すべり量 (m)		43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	18.5
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



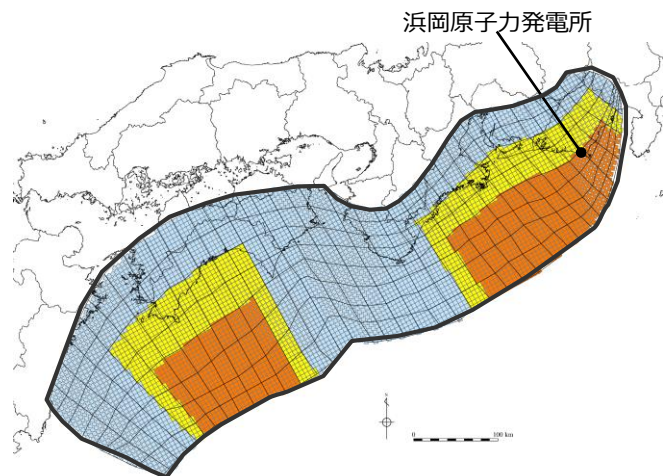
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の  
大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

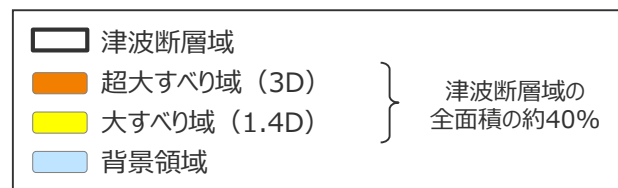
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	13.4



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3	1.3
	20km↓	2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3	
		3	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.2	17.2	16.9	16.2	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	14.3	13.8	13.8	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	7.8	7.8
	10km↓	4	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	16.9	16.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	14.3	14.3	13.8	16.6	14.7	14.7	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	7.8	1.3
		5	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	36.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	14.3	30.6	29.5	29.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	23.6	18.7	18.7	7.8	1.8
	0km↓	6	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	14.4	30.6	30.6	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	23.6	18.7	7.8	1.8	
		7	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.4	14.4	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	18.7	7.8	1.8	
	8	5.0	5.0	4.9	4.9	20.7	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	14.4	30.9	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	23.6	18.7	7.8	1.8	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



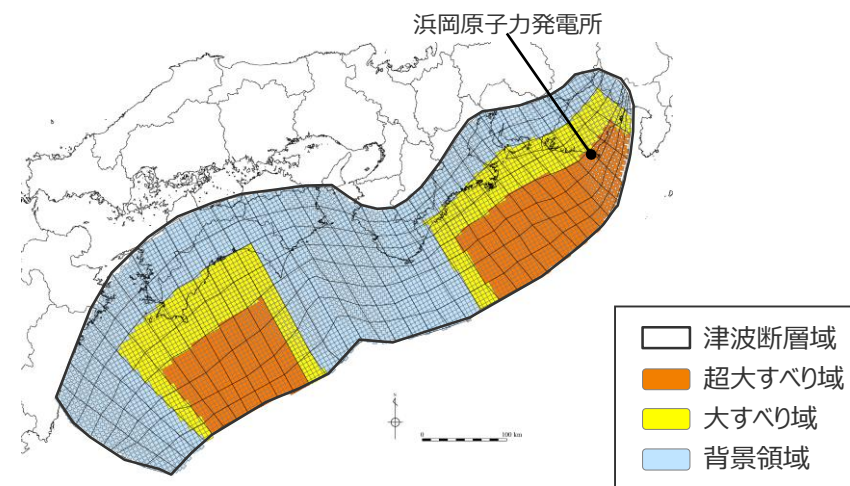
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$7.9 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	13.4
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	11.7
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	18.9
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



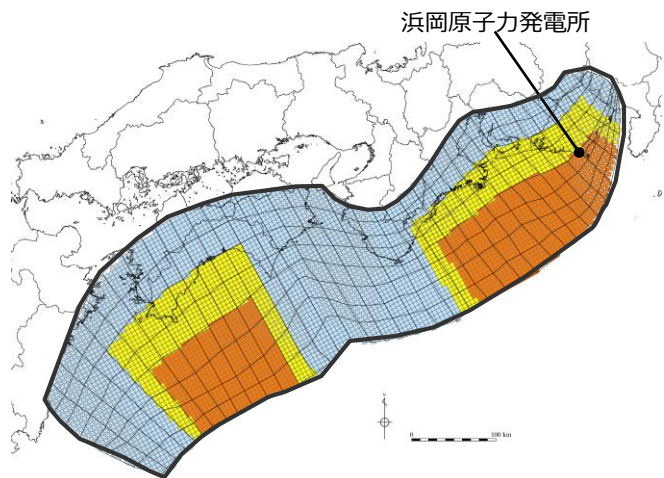
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

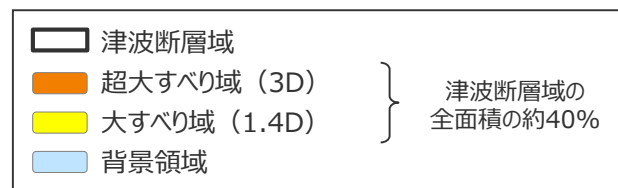
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■ 「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) ①」の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	13.6



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	断層番号 (西から東)																																																																					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																
30km↓	1	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3		
20km↓	2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3	
10km↓	3	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	17.2	16.9	16.9	16.2	16.2	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	14.4	14.3	14.3	13.8	13.8	13.8	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	8.7	7.8	7.8	7.8	1.8	1.3	1.3		
5km↓	4	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	16.9	16.9	16.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	14.4	14.3	14.3	14.3	13.8	13.8	16.6	16.6	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	8.7	7.8	7.8	1.8	1.3	1.3					
0km↓	5	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	36.9	16.9	16.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	14.4	14.3	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	23.6	18.7	18.7	1.8	1.8	1.8
0km↓	6	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	16.9	16.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	14.4	14.4	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	23.6	18.7	7.8	1.8	1.8	1.8
0km↓	7	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	16.9	16.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	14.4	14.4	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	18.7	7.8	1.8	1.8	1.8
0km↓	8	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.7	20.7	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	17.2	17.2	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	14.9	14.4	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	18.7	7.8	1.8	1.8	1.8	

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

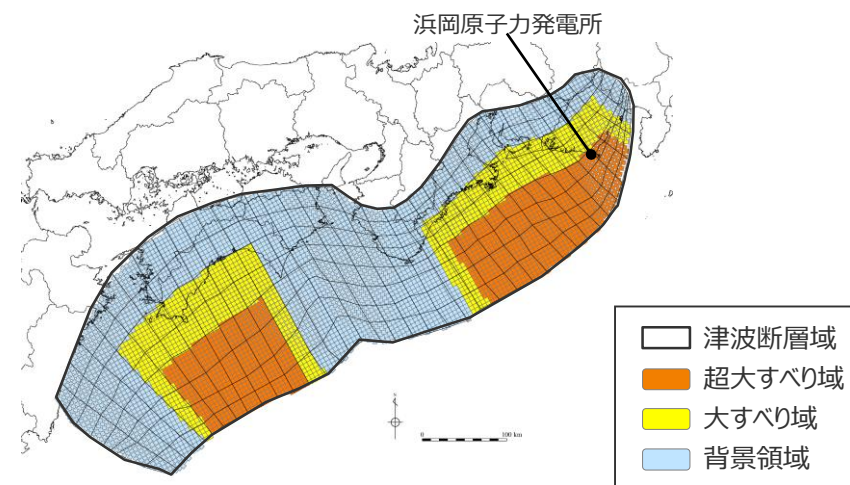
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.0 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	13.6
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.3 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	11.8
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	19.3
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



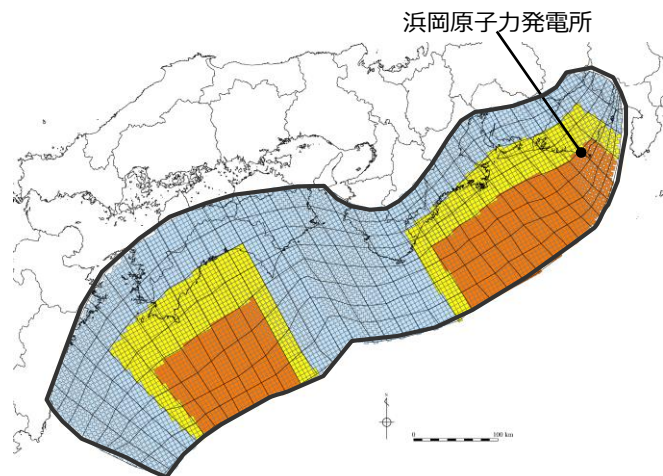
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

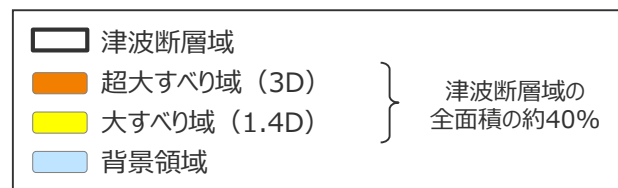
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	13.7



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を基準位置としたケース

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を基準位置としたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
陸側 ⇄	海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
20km↓	2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3	
	3	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.2	17.2	16.9	16.2	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	14.4	14.3	13.8	13.8	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	7.8	1.8	1.3
10km↓	4	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	16.9	16.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	14.4	14.3	14.3	13.8	16.6	14.7	14.7	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	1.8	1.3	
	5	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	14.4	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	23.6	18.7	8.7	1.8	1.8	
0km↓	6	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	14.4	30.9	30.6	30.6	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	23.6	8.7	1.8	1.8		
	7	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	14.4	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	8.7	1.8	1.8
	8	5.0	5.0	4.9	4.9	20.7	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	14.9	30.9	30.9	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	23.6	8.7	1.8	1.8

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



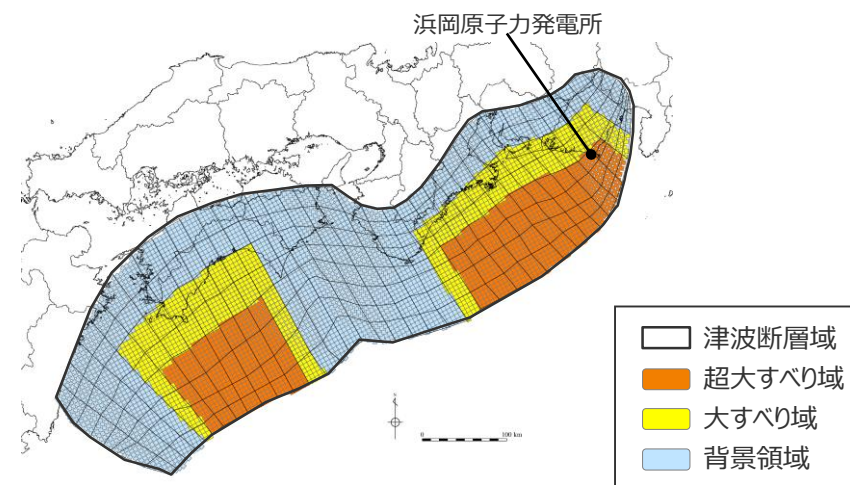
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.1 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	13.7
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.3 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	11.8
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	19.7
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層



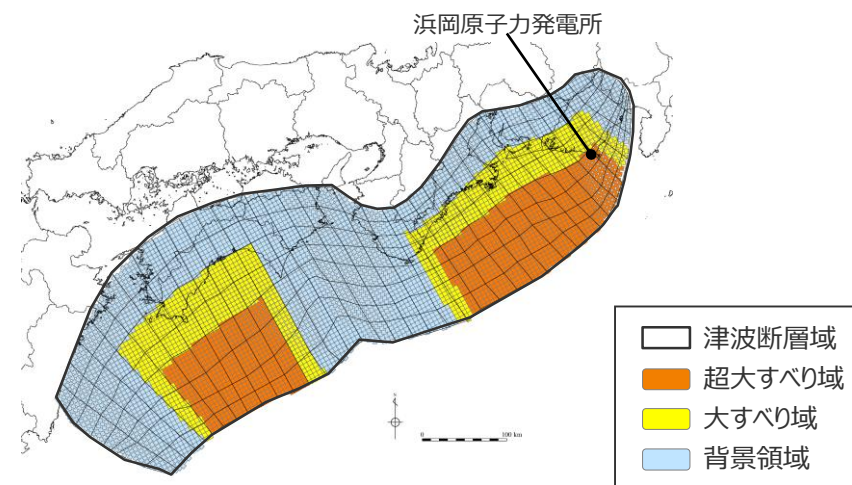
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 ( $\text{km}^2$ )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.2 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	13.9
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 ( $\text{N}/\text{m}^2$ )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 ( $\text{km}^2$ )
地震モーメント (Nm)		$5.4 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		11.9
最大すべり量 (m)		43.2
浅部断層	面積 ( $\text{km}^2$ )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.8 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	20.0
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



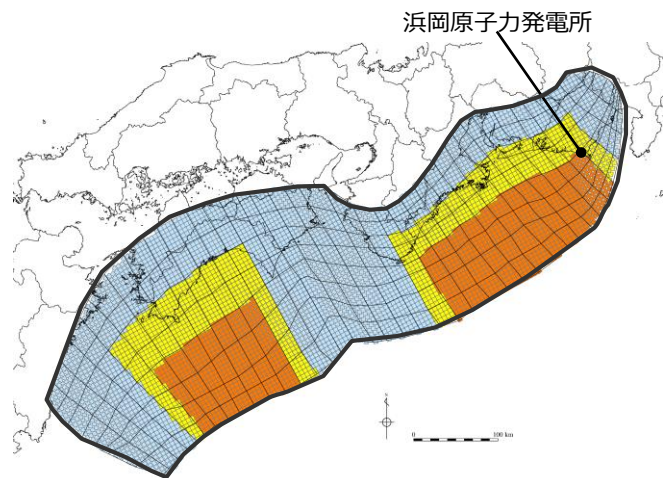
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

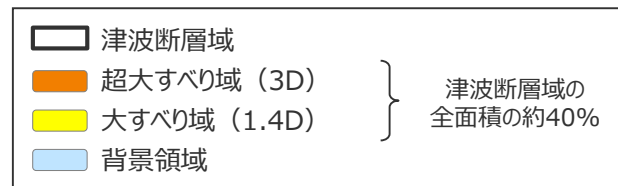
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	14.0



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
	20km↓	2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
		3	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.2	17.2	16.9	16.2	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	14.4	14.4	14.3	13.8	13.8	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	1.8	1.8
	10km↓	4	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	16.9	16.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	14.4	14.4	14.3	14.3	13.8	16.6	14.7	14.7	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	2.1	1.8	1.3
		5	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	36.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	14.9	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	23.6	8.7	2.1	1.8	1.8
	0km↓	6	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	14.9	30.9	30.9	30.6	30.6	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	11.0	2.1	1.8	1.8	
		7	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	14.9	30.9	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	11.0	2.1	1.8	1.8	
	8	5.0	5.0	4.9	4.9	20.7	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	14.9	32.0	30.9	30.9	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	11.0	2.1	1.8	1.8	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



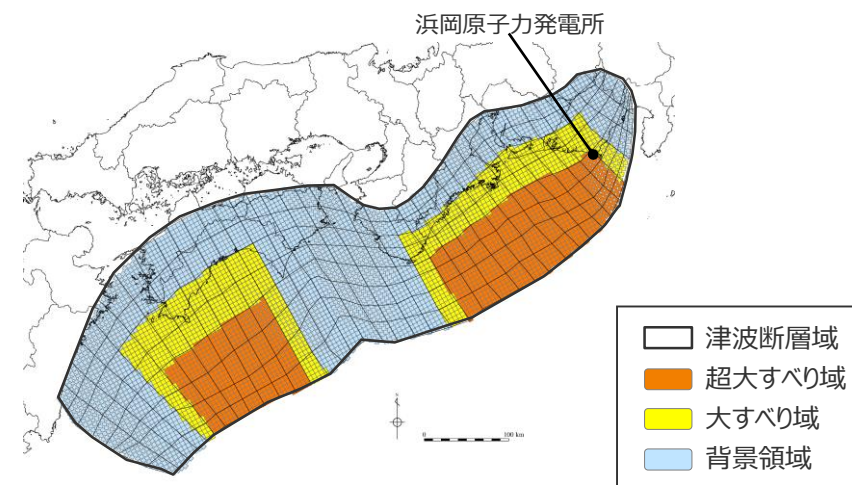
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	14.0
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	20.3
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



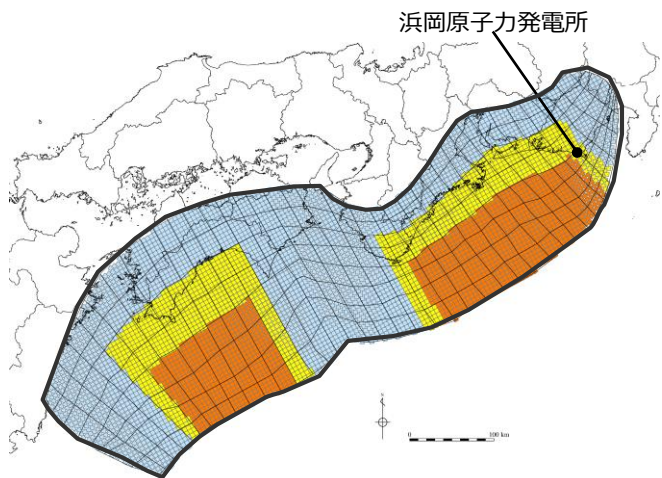
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の  
大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

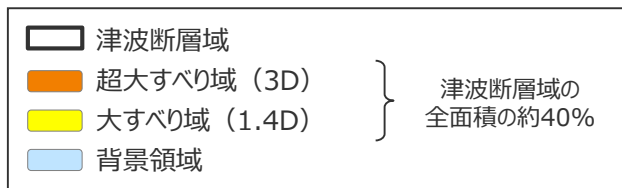
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■ 「日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) 」の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	14.1



日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

・D: 平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	断層番号 (西から東)																																																																							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																		
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																		
30km↓	1	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3			
20km↓	2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3			
10km↓	3	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	17.2	16.9	16.9	16.2	16.2	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	14.9	14.4	14.4	14.4	14.4	14.3	14.3	13.8	13.8	13.8	16.6	16.6	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	8.7	2.1	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3		
0km↓	4	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	16.9	16.9	16.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	14.9	14.4	14.4	14.4	14.4	14.3	14.3	13.8	13.8	13.8	16.6	16.6	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3			
	5	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	14.9	14.9	32.0	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	11.0	8.7	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	
	6	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	14.9	14.9	32.0	30.9	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	23.6	23.6	11.0	11.0	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	7	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	15.4	14.9	32.0	32.0	32.0	30.9	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	23.6	11.0	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	8	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.7	20.7	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	15.4	14.9	32.0	32.0	32.0	30.9	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	23.6	11.0	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

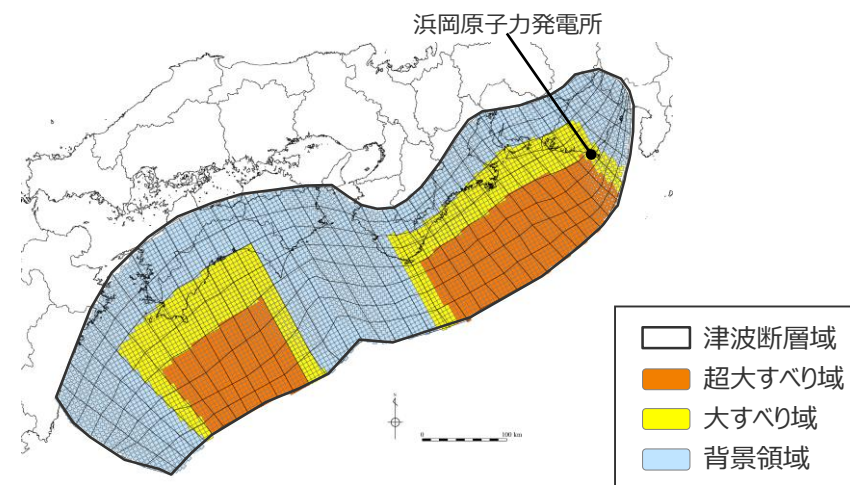
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	14.1
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	12.1
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	20.6
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



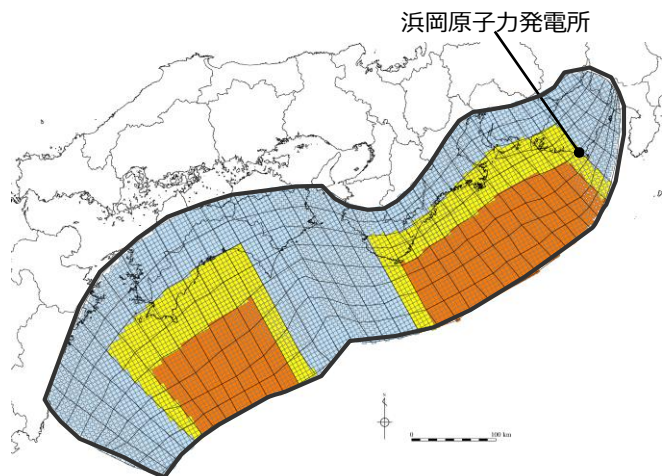
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

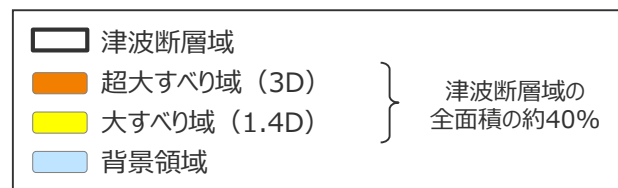
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	14.2



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
	20km↓	2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
		3	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.2	17.2	16.9	16.2	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	14.9	14.4	14.4	14.3	13.8	13.8	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	2.1	1.8	1.8
	10km↓	4	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	16.9	16.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	14.9	14.4	14.4	14.3	14.3	13.8	16.6	14.7	14.7	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	2.1	2.1	1.8	1.3
		5	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	36.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	14.9	32.0	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	23.6	11.0	2.1	2.1	1.8	1.8
	0km↓	6	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	14.9	32.0	30.9	30.9	30.6	30.6	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	11.0	2.6	2.1	1.8	1.8
		7	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	15.4	32.0	30.9	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	13.0	2.6	2.1	1.8
	8	5.0	5.0	4.9	4.9	20.7	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	15.4	32.0	32.0	30.9	30.9	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	31.5	31.5	13.0	2.6	2.1	1.8	1.8

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



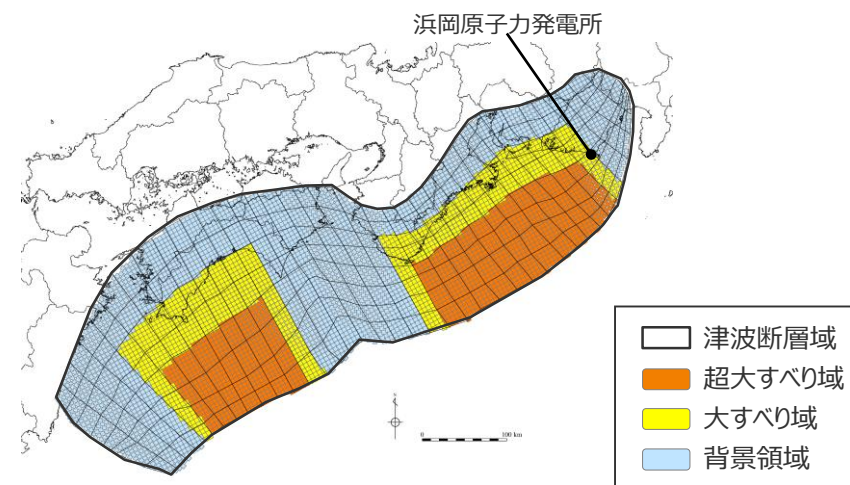
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	14.2
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$5.5 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		12.1
最大すべり量 (m)		43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$3 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	20.9
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



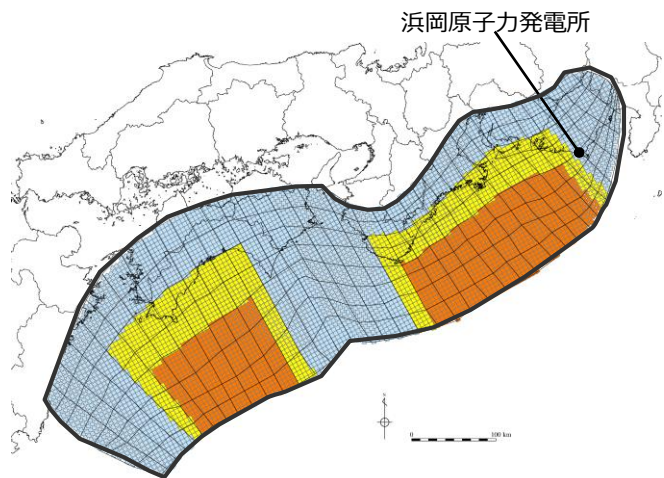
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

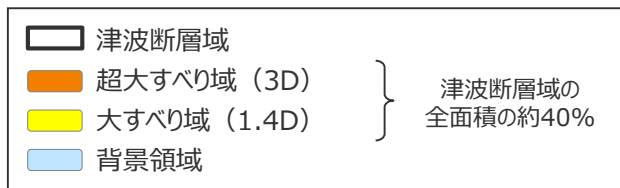
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■ 「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) 」の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	14.1



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	断層番号 (西から東)																																																																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																														
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																														
30km↓	1	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3				
	2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3		
20km↓	3	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	17.2	16.9	16.9	16.2	16.2	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	14.9	14.9	14.4	14.4	14.4	14.3	13.8	13.8	13.8	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	8.7	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3				
	4	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	16.9	16.9	16.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	14.9	14.9	14.4	14.4	14.4	14.3	14.3	13.8	13.8	16.6	16.6	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	2.6	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3	1.3						
10km↓	5	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	36.9	36.9	36.9	36.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	14.9	14.9	32.0	32.0	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	23.6	11.0	11.0	2.6	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	
	6	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	37.9	36.9	36.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	14.9	14.9	32.0	32.0	30.9	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	13.0	11.0	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	
0km↓	7	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	37.9	37.9	17.2	17.2	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	15.4	15.4	32.0	32.0	32.0	32.0	30.9	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	27.8	13.0	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8
	8	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.7	20.7	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	37.9	37.9	17.2	17.2	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	15.4	15.4	32.0	32.0	32.0	32.0	30.9	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	14.7	13.0	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

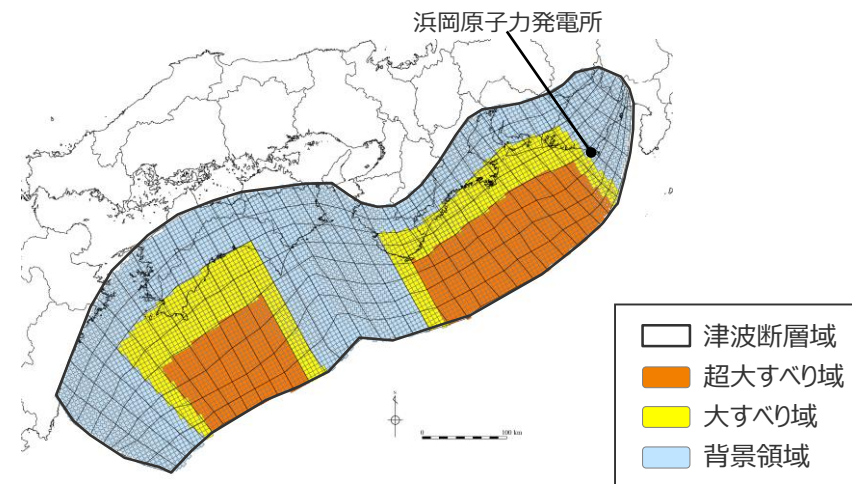
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	14.1
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$5.4 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		12.0
最大すべり量 (m)		43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	20.7
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



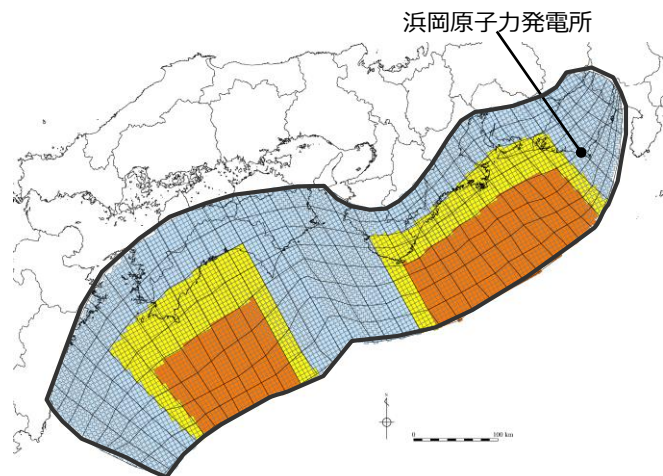
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

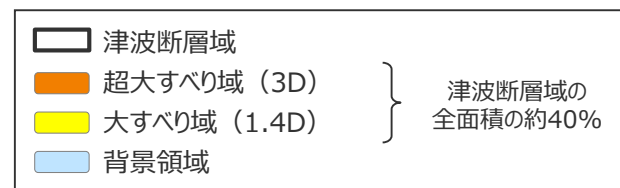
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	14.0



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3	1.3
	20km↓	2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
		3	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.2	17.2	16.9	16.2	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	14.9	14.4	14.4	14.3	13.8	13.8	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
	10km↓	4	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	16.9	16.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	14.9	14.4	14.4	14.3	14.3	13.8	16.6	14.7	14.7	13.0	11.0	11.0	11.0	2.6	2.1	2.1	1.8	1.3
		5	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	36.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	14.9	32.0	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	31.5	31.5	27.8	27.8	11.0	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8
	0km↓	6	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	14.9	32.0	30.9	30.6	30.6	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	27.8	13.0	2.6	2.6	2.1	1.8	1.8	
		7	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	15.4	32.0	30.9	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	13.0	3.1	2.6	2.1	1.8	1.8
	8	5.0	5.0	4.9	4.9	20.7	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	15.4	32.0	32.0	30.9	30.9	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	31.5	14.7	3.1	2.6	2.1	1.8	1.8	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



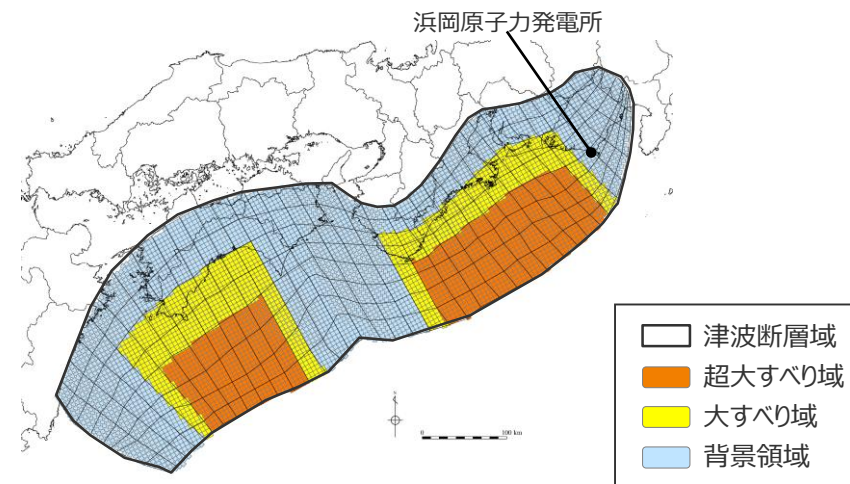
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	14.0
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )
地震モーメント (Nm)		$5.4 \times 10^{22}$
平均すべり量 (m)		11.9
最大すべり量 (m)		43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	20.5
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



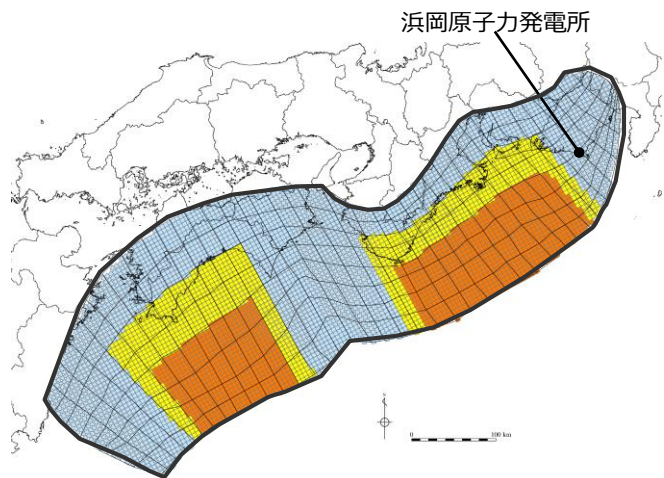
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

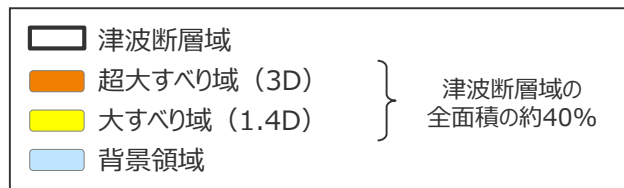
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	14.1



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	断層番号																																																																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																						
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																						
30km↓	1	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3								
20km↓	2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3									
10km↓	3	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	17.2	16.9	16.9	16.2	16.2	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	14.9	14.9	14.9	14.4	14.4	14.4	14.4	14.3	14.3	13.8	13.8	13.8	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3						
0km↓	4	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	20.1	18.3	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	17.2	16.9	16.9	16.9	16.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	14.9	14.9	14.9	14.4	14.4	14.4	14.4	14.3	14.3	13.8	13.8	13.8	16.6	16.6	14.7	14.7	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	11.0	11.0	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.3	1.3	1.3	1.3			
	5	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	36.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	15.4	14.9	32.0	32.0	32.0	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	31.5	27.8	27.8	27.8	13.0	11.0	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	6	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	36.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	15.4	14.9	32.0	32.0	32.0	30.9	30.9	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	31.5	27.8	13.0	3.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	7	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.1	20.1	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	36.9	36.9	36.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	15.4	15.4	33.0	32.0	32.0	32.0	30.9	30.9	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	31.5	14.7	13.0	3.1	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	
	8	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.9	20.7	20.7	43.2	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	37.9	37.9	37.9	37.9	37.9	37.9	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	15.4	15.4	33.0	32.0	32.0	32.0	30.9	30.9	30.9	30.9	30.6	30.6	30.6	29.5	29.5	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	31.5	31.5	31.5	14.7	14.7	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

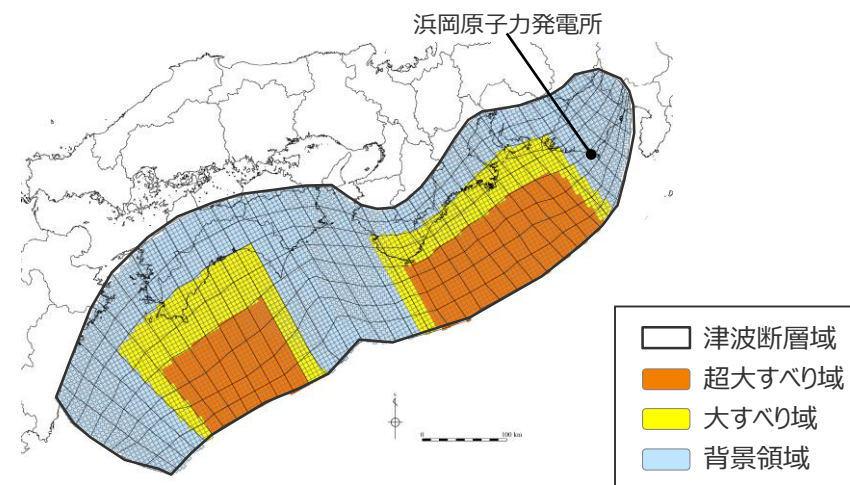
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.3 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	14.1
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.9 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	20.7
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



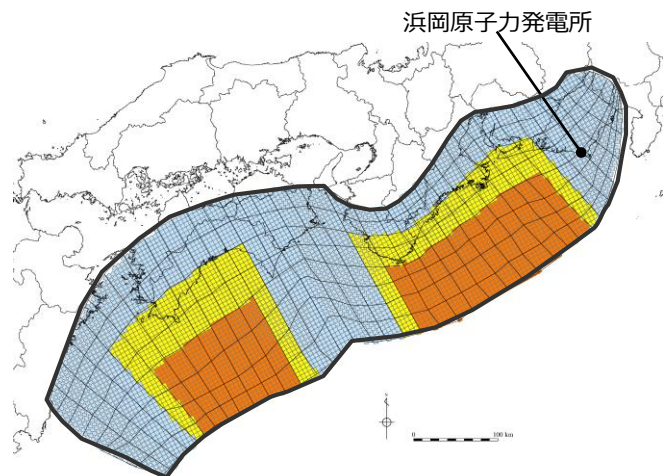
日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

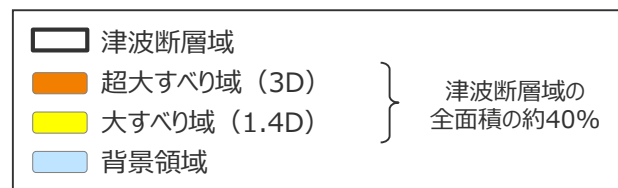
### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
43.2	14.1



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
	20km↓	2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.7	4.3	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	2.6	2.6	2.6	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
		3	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.2	17.2	16.9	16.2	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	14.9	14.9	14.4	14.4	14.3	13.8	13.8	14.7	14.7	13.0	13.0	11.0	11.0	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8	1.3
	10km↓	4	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	20.1	18.3	18.3	17.7	17.7	17.2	16.9	16.9	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	14.9	14.9	14.4	14.4	14.3	14.3	13.8	16.6	14.7	14.7	13.0	11.0	11.0	2.6	2.6	2.1	2.1	1.8	1.3
		5	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	36.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	15.4	32.0	32.0	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	31.5	31.5	27.8	13.0	2.6	2.6	2.1	2.1	1.8	1.8
	0km↓	6	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	36.9	16.9	4.0	3.8	3.7	3.7	3.6	15.4	32.0	32.0	30.9	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	13.0	3.1	2.6	2.6	2.1	1.8	1.8	
		7	5.0	5.0	4.9	4.9	20.1	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	15.4	33.0	32.0	30.9	30.9	30.6	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	31.5	14.7	3.1	3.1	2.6	2.1	1.8	1.8	
	8	5.0	5.0	4.9	4.9	20.7	43.2	43.2	43.2	39.2	39.2	37.9	37.9	17.2	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	15.4	33.0	32.0	32.0	30.9	30.9	30.6	29.5	29.5	35.5	35.5	35.5	14.7	3.5	3.1	2.6	2.1	1.8	1.8	

- ・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



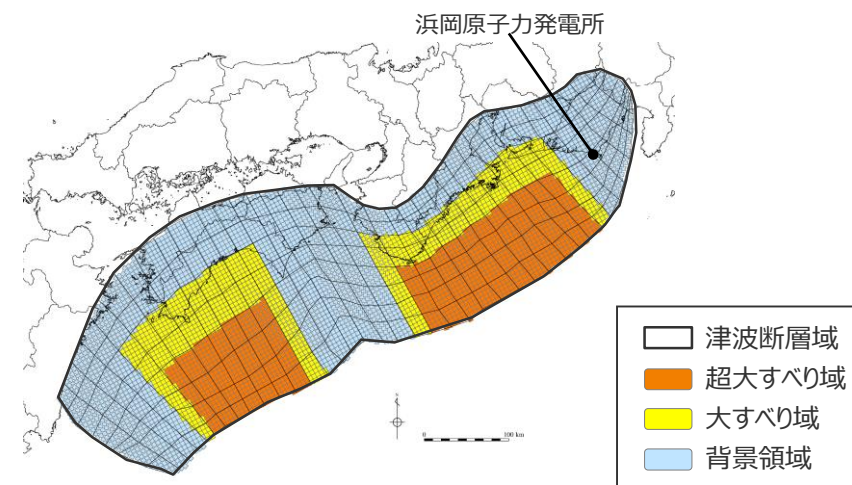
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-1 日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$8.4 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	14.1
	最大すべり量 (m)	43.2
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$5.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	12.0
	最大すべり量 (m)	43.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$3 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	20.9
	最大すべり量 (m)	43.2

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル① ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

---

余 白

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

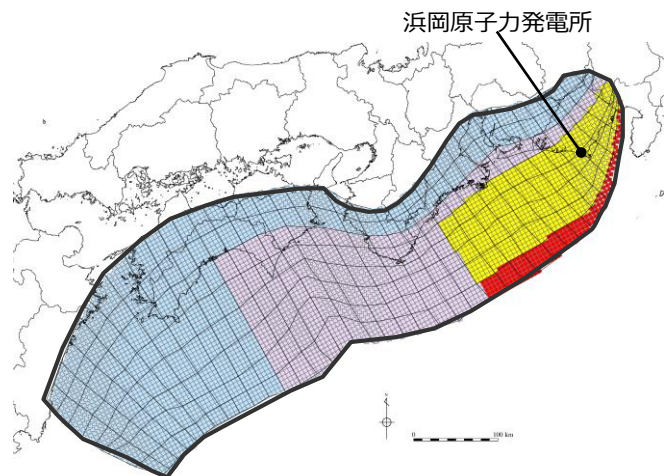
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma$ 3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定

---

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

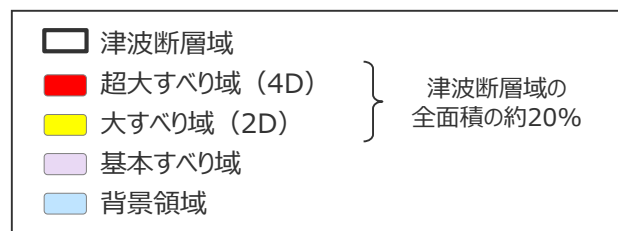
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	11.1	10.7	10.4	10.2	10.2	9.9	9.6	9.3	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.9	7.9	7.9	6.7	6.7	5.3	5.3	5.3	5.3	4.7	4.7	3.4	3.4
	20km↓	2	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	11.1	10.7	10.7	10.4	10.2	10.2	9.9	9.6	9.3	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.6	8.3	8.9	8.9	7.9	7.9	6.7	6.7	6.7	5.3	5.3	5.3	4.7	4.7	3.4
		3	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	11.1	11.1	10.7	10.4	10.4	10.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	8.3	8.3	8.9	8.9	7.9	7.9	6.7	6.7	6.7	5.3	5.3	4.7	4.7	3.4
	10km↓	4	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	11.1	11.1	10.7	10.7	10.4	10.2	10.2	9.9	9.6	9.6	9.3	9.3	9.3	9.1	9.1	8.8	8.8	8.6	15.7	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	12.1	12.1	12.1	12.1	9.6	9.6	8.6	6.2
		5	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	12.2	11.1	11.1	10.7	10.4	10.4	10.2	10.2	9.9	9.6	9.6	9.6	9.3	9.3	9.3	9.1	9.1	8.8	8.6	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	9.6	8.6
	0km↓	6	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	12.2	11.1	11.1	10.7	10.7	10.4	10.2	10.2	9.9	9.6	9.6	9.6	9.3	9.3	9.1	9.1	8.8	8.8	15.7	15.7	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	9.6	8.6	8.6
		7	13.0	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	12.2	11.1	11.1	11.1	10.7	10.7	10.4	10.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.3	9.3	9.1	8.8	8.8	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	9.6	8.6	8.6
	8	13.0	13.0	12.5	12.5	12.5	12.2	12.2	12.2	11.1	11.1	10.7	10.7	10.4	10.2	9.9	9.9	9.9	9.6	9.6	9.3	9.3	9.1	9.1	8.8	31.7	31.3	30.3	30.3	36.5	36.5	36.5	32.3	32.3	28.5	24.2	19.1	17.1	17.1	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



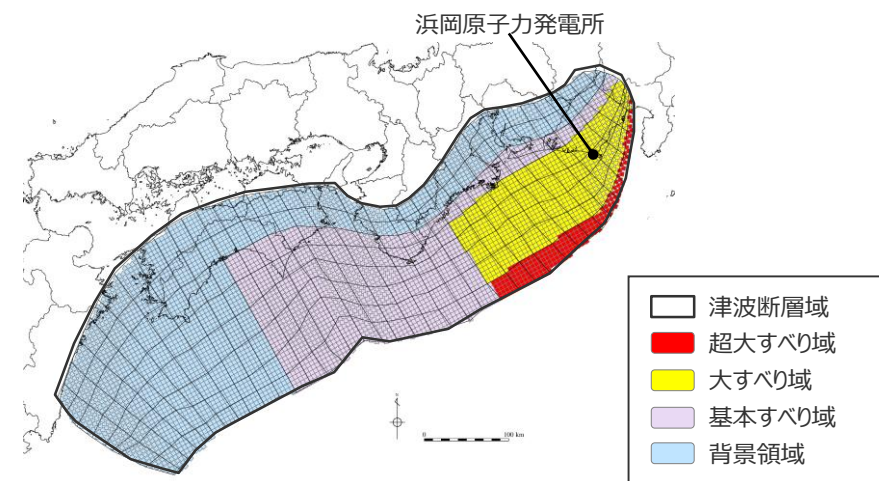
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.5
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	14.3
	最大すべり量 (m)	36.5

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層



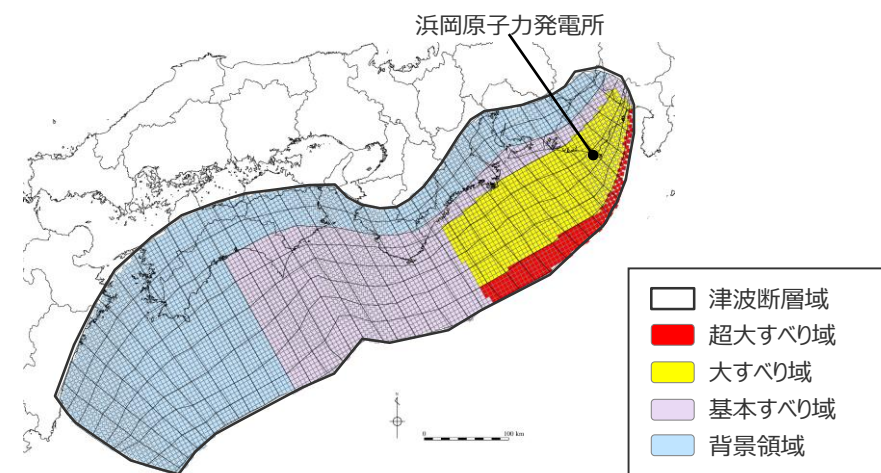
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.4
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	14.5
	最大すべり量 (m)	36.5

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



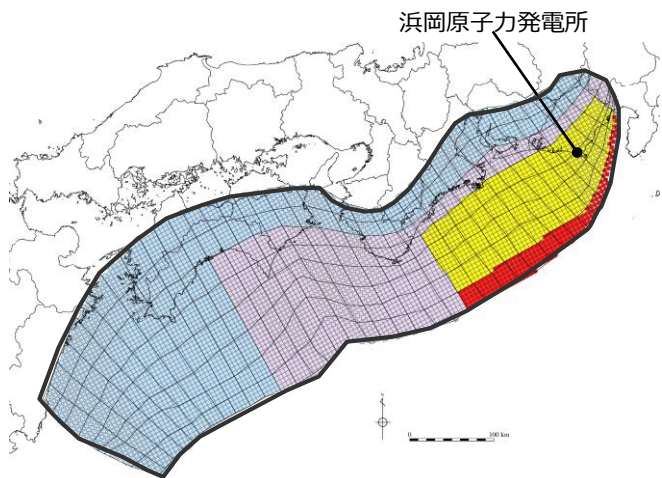
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

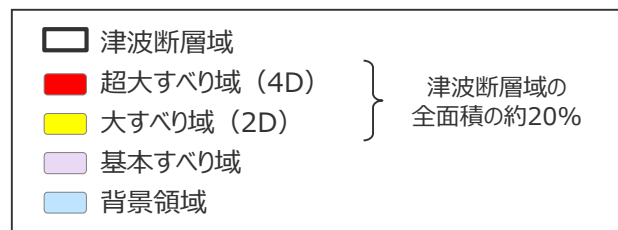
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.5	10.2	10.0	10.0	9.6	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.5	8.5	8.2	8.7	7.7	7.7	6.5	6.5	5.2	5.2	5.2	5.2	4.6	4.6	3.3	3.3
	20km↓	2	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.5	10.5	10.2	10.0	9.6	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.5	8.5	8.2	8.7	8.7	7.7	7.7	6.5	6.5	6.5	5.2	5.2	5.2	4.6	4.6	3.3		
		3	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.2	10.2	10.0	9.6	9.6	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.5	8.2	8.2	8.7	7.7	7.7	6.5	6.5	6.5	5.2	5.2	4.6	4.6	3.3	
	10km↓	4	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.2	10.0	10.0	9.6	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.6	8.6	15.7	15.7	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	12.1	12.1	12.1	12.1	9.6	9.6	8.6	3.3	
		5	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.2	10.2	10.0	10.0	9.6	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.6	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	9.6	9.6	8.6	4.6
	0km↓	6	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.2	10.0	10.0	9.6	9.4	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.6	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	9.6	8.6	4.6
		7	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	12.0	10.9	10.9	10.9	10.5	10.5	10.2	10.0	9.6	9.6	9.4	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.6	15.9	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	9.6	8.6	4.6
	8	12.7	12.7	12.3	12.3	12.3	12.0	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.5	10.2	10.0	9.6	9.6	9.6	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	31.7	31.7	31.3	30.3	30.3	36.5	36.5	36.5	32.3	32.3	28.5	24.2	19.1	17.1	4.6

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。

・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



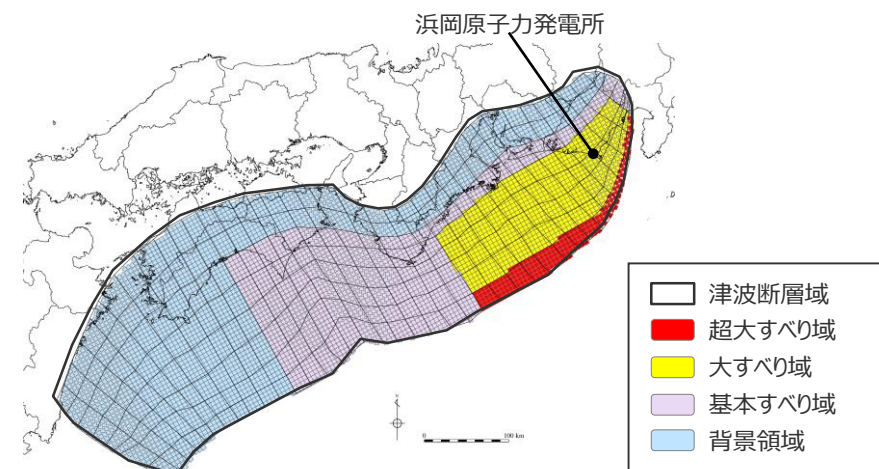
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.7 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.4
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	14.7
	最大すべり量 (m)	36.5

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層



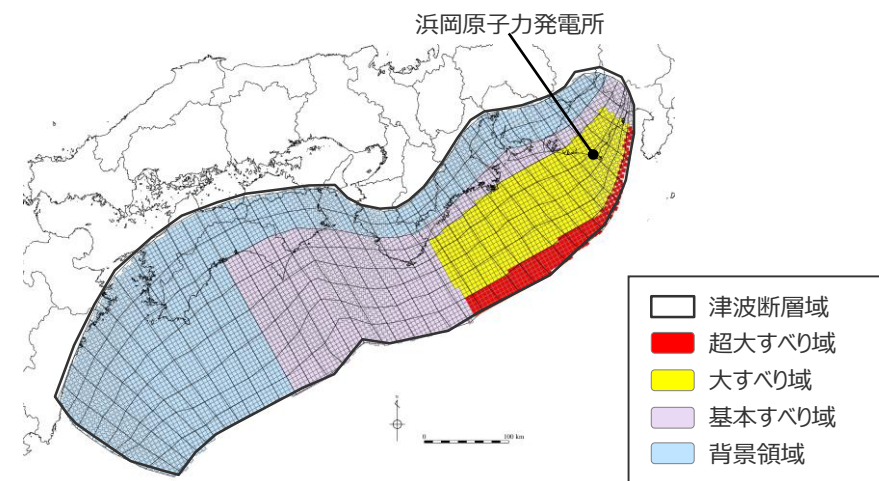
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.3
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	14.9
	最大すべり量 (m)	36.5

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



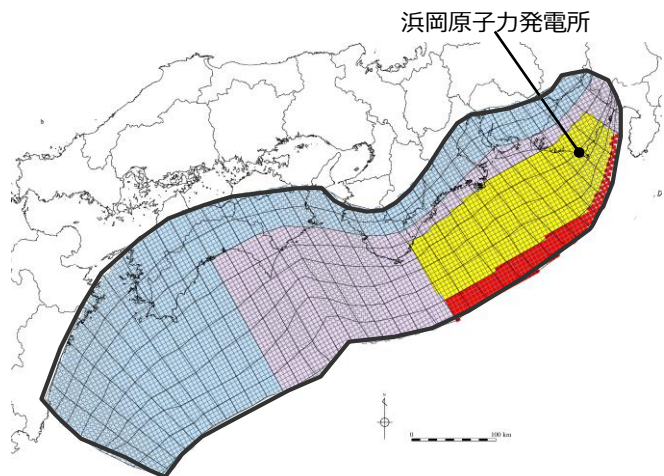
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

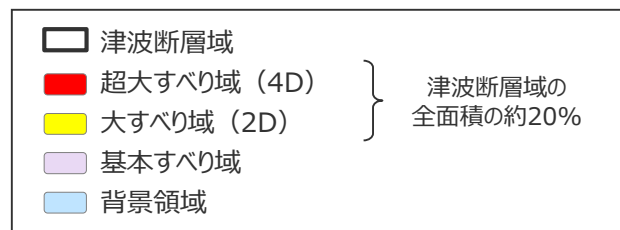
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を基準位置としたケース

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を基準位置としたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
陸側 ⇄	海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	12.5	12.5	12.1	12.1	11.7	11.7	10.7	10.3	10.0	9.8	9.8	9.5	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.3	8.3	8.0	8.6	7.6	7.6	6.4	6.4	5.1	5.1	5.1	5.1	4.5	4.5	3.3
20km↓	2	12.5	12.5	12.1	12.1	11.7	11.7	10.7	10.3	10.3	10.0	9.8	9.8	9.5	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.3	8.3	8.0	8.6	8.6	7.6	7.6	6.4	6.4	6.4	5.1	5.1	5.1	4.5	4.5	3.3	
	3	12.5	12.5	12.1	12.1	11.7	11.7	10.7	10.7	10.3	10.0	10.0	9.8	9.5	9.5	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.3	8.0	8.0	8.6	8.6	7.6	7.6	6.4	6.4	6.4	5.1	5.1	4.5	4.5	3.3	
10km↓	4	12.5	12.5	12.1	12.1	11.7	11.7	10.7	10.7	10.3	10.3	10.0	9.8	9.8	9.5	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	12.1	12.1	12.1	12.1	9.6	9.6	4.5	3.3		
	5	12.5	12.5	12.1	12.1	11.7	11.7	10.7	10.7	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.5	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	15.9	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	9.6	9.6	4.5	4.5		
0km↓	6	12.5	12.5	12.1	12.1	11.7	11.7	10.7	10.7	10.3	10.3	10.0	9.8	9.8	9.5	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	9.6	4.5	4.5			
	7	12.5	12.5	12.1	12.1	11.7	11.7	10.7	10.7	10.3	10.3	10.0	9.8	9.5	9.5	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	9.6	4.5	4.5			
	8	12.5	12.5	12.1	12.1	11.7	11.7	10.7	10.7	10.3	10.3	10.0	9.8	9.5	9.5	9.5	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	32.8	31.7	31.7	31.3	30.3	30.3	36.5	36.5	36.5	32.3	32.3	28.5	24.2	19.1	4.5	4.5			

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。

・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



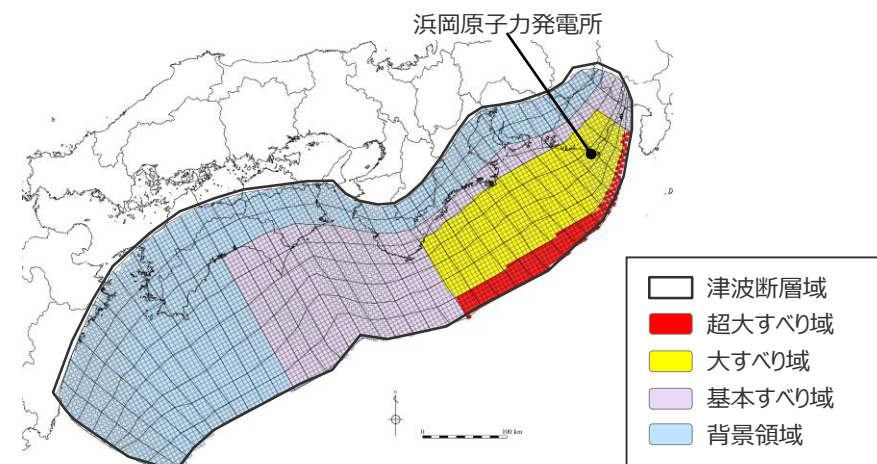
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.3
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.1 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.0
	最大すべり量 (m)	36.5

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



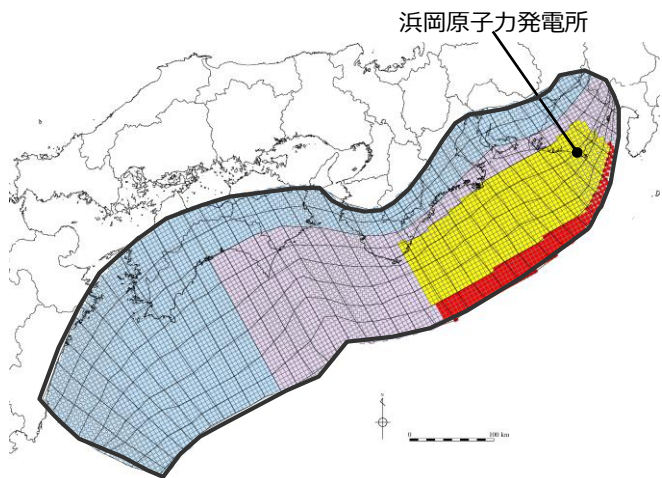
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル②（ $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $\text{RT150s}$ ）のパラメータスタディモデルの設定（大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースのすべり量分布の設定）

■「日本海溝の津波評価手法モデル②（ $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $\text{RT150s}$ ）」の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル②（ $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $\text{RT150s}$ ）の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4

津波断層域	} 津波断層域の 全面積の約20%
超大すべり域 (4D)	
大すべり域 (2D)	
基本すべり域	
背景領域	

・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル②（ $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $\text{RT150s}$ ）の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル②（ $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $\text{RT150s}$ ）の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度 ↓	断層番号																																																																																				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																															
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																															
30km↓	1	12.4	12.4	12.4	12.0	12.0	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.6	10.6	10.6	10.2	10.2	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.3	3.3	3.3	3.3								
20km↓	2	12.4	12.4	12.4	12.0	12.0	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.6	10.6	10.6	10.2	10.2	10.2	10.2	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.5	8.5	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.3	3.3	3.3	3.3				
10km↓	3	12.4	12.4	12.4	12.0	12.0	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.6	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	10.2	10.2	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.5	8.5	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.3	3.3	3.3	3.3			
0km↓	4	12.4	12.4	12.4	12.0	12.0	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.6	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	10.2	10.2	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.5	8.5	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.3	3.3	3.3	3.3		
	5	12.4	12.4	12.4	12.0	12.0	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.6	10.6	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	10.2	10.2	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.5	8.5	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.3	3.3	3.3	3.3	
	6	12.4	12.4	12.4	12.0	12.0	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.6	10.6	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	10.2	10.2	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.5	8.5	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.3	3.3	3.3	3.3
	7	12.4	12.4	12.4	12.0	12.0	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.6	10.6	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	10.2	10.2	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.5	8.5	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.3	3.3	3.3	3.3
	8	12.4	12.4	12.4	12.0	12.0	12.0	12.0	11.6	11.6	11.6	11.6	10.6	10.6	10.6	10.6	10.2	10.2	10.2	10.2	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.5	8.5	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.3	3.3	3.3	3.3

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。（東西方向はさらにwとeの2つに分割）
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

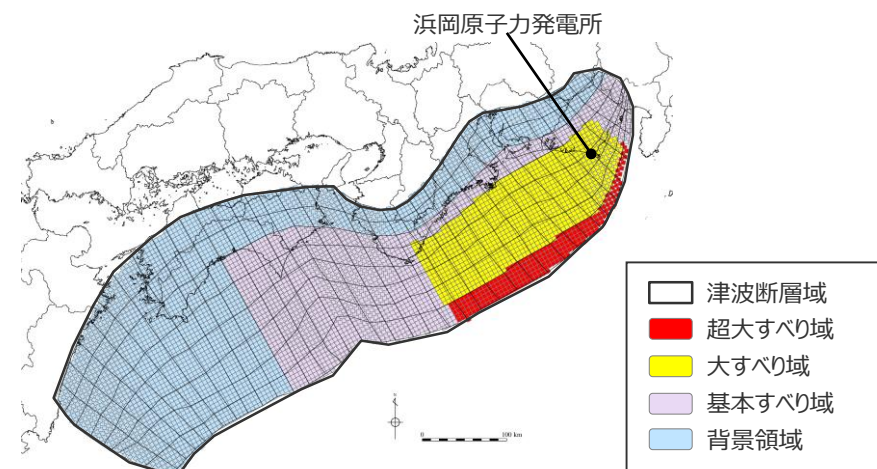
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.2
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.1
	最大すべり量 (m)	36.5

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



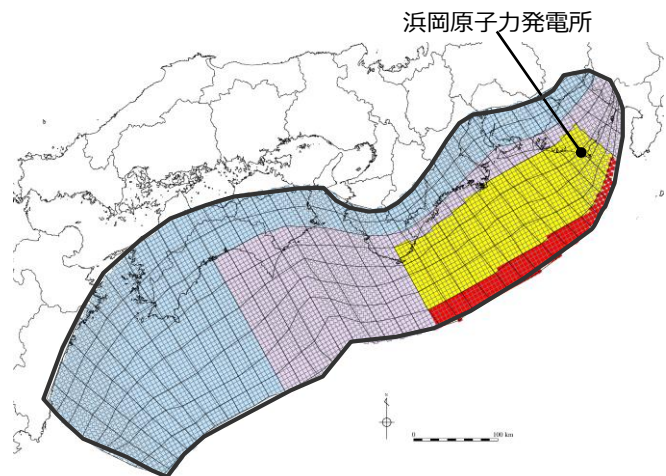
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

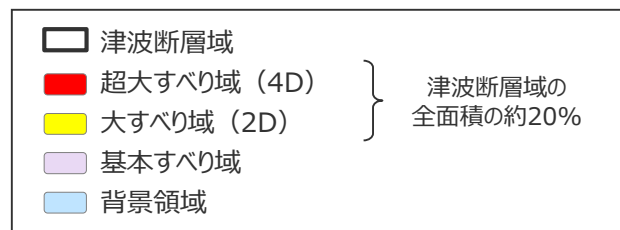
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



・D : 基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
陸側 ⇄	海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.5	10.1	9.9	9.7	9.7	9.3	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	8.3	8.3	8.2	8.2	7.9	8.4	7.4	7.4	6.3	6.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5
20km↓	2	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.5	10.1	10.1	9.9	9.7	9.3	9.1	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	8.3	8.3	8.2	8.2	7.9	8.4	8.4	7.4	7.4	6.3	6.3	6.3	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	3.2		
	3	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.5	10.1	9.9	9.9	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	8.3	8.3	8.2	7.9	7.9	8.4	8.4	7.4	7.4	6.3	6.3	6.3	5.0	5.0	4.5	4.5	3.2		
10km↓	4	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.5	10.1	10.1	9.9	9.7	9.7	9.3	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	12.1	12.1	12.1	12.1	9.6	5.0	4.5	3.2		
	5	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	10.5	10.1	9.9	9.9	9.7	9.7	9.3	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	16.4	15.9	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	9.6	5.0	4.5	4.5	
0km↓	6	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.5	10.1	10.1	9.9	9.7	9.7	9.3	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	5.0	4.5	4.5	
	7	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.5	10.1	10.1	9.9	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	5.0	4.5	4.5		
	8	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.5	10.1	10.1	9.9	9.7	9.3	9.3	9.3	9.1	9.1	8.8	8.8	8.8	32.8	32.8	31.7	31.7	31.3	30.3	30.3	36.5	36.5	36.5	32.3	32.3	28.5	24.2	5.0	4.5	4.5			

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



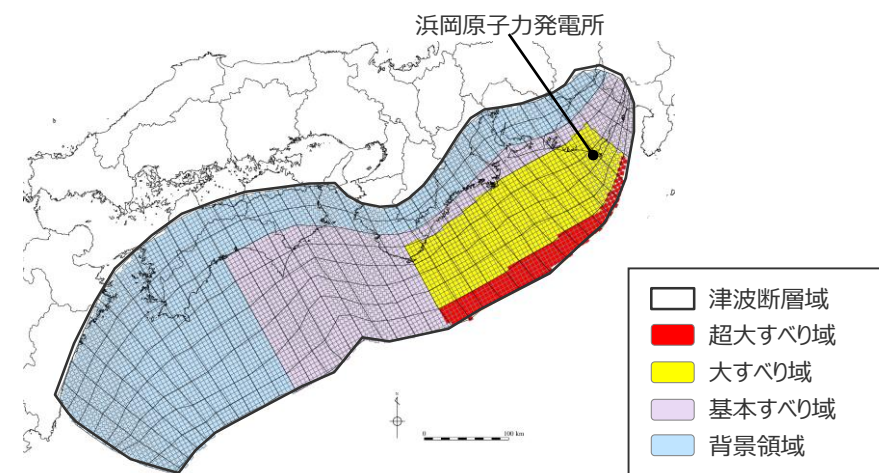
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.2
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.3
	最大すべり量 (m)	36.5

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



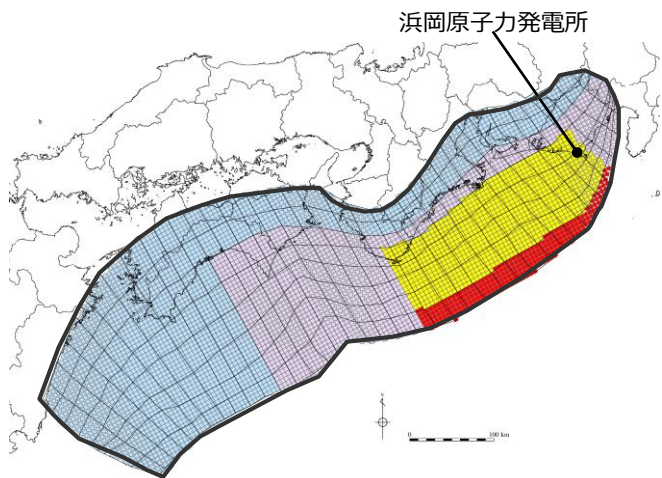
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

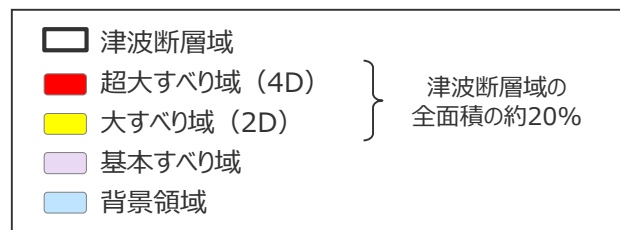
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



・D : 基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	断層番号 (西から東)																																																																						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																	
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																	
30km↓	1	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2								
20km↓	2	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2							
10km↓	3	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2				
0km↓	4	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	16.4	15.9	15.9	15.9	15.9	15.7	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	12.1	12.1	12.1	12.1	9.6	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2		
	5	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	16.4	16.4	16.4	15.9	15.9	15.9	15.7	15.7	15.7	15.1	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	16.2	14.3	14.3	14.3	12.1	12.1	12.1	12.1	9.6	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2		
	6	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	16.4	16.4	16.4	15.9	15.9	15.9	15.7	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	16.2	14.3	14.3	14.3	12.1	12.1	12.1	12.1	9.6	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2		
	7	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	16.9	16.4	16.4	15.9	15.9	15.9	15.7	15.7	15.7	15.1	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	16.2	14.3	14.3	14.3	12.1	12.1	12.1	12.1	9.6	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2
	8	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	33.9	32.6	32.6	32.6	32.6	31.7	31.7	31.7	31.3	31.3	30.3	30.3	30.3	30.3	36.5	36.5	36.5	36.5	36.5	32.3	32.3	32.3	28.5	28.5	24.2	6.2	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

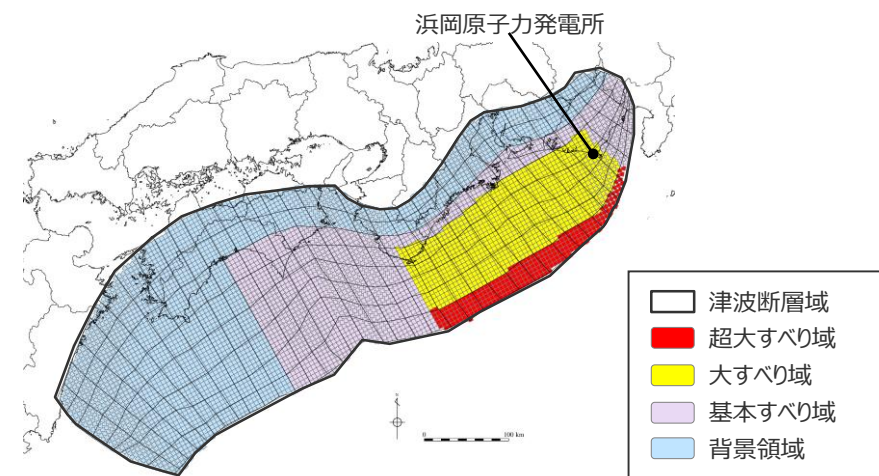
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.5
	最大すべり量 (m)	36.5

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



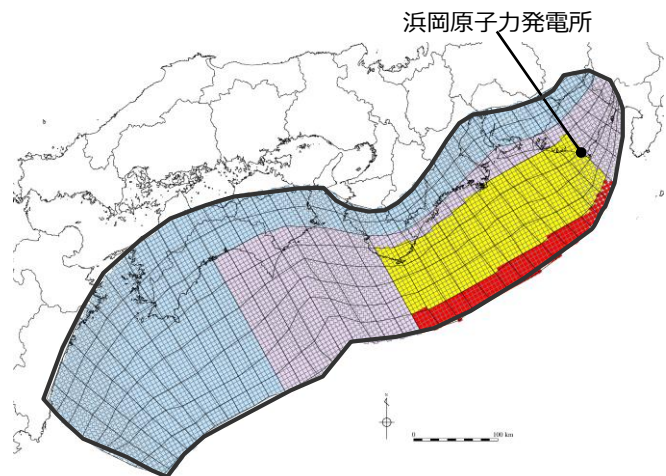
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

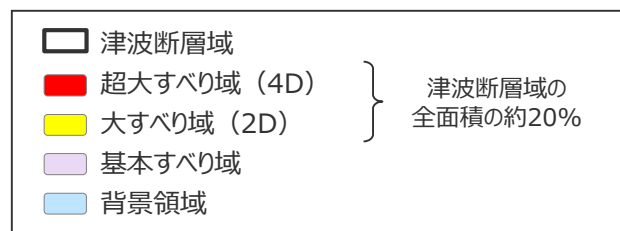
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

・D: 基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	12.0	12.0	11.7	11.7	11.3	11.3	10.3	10.0	9.7	9.5	9.5	9.1	8.9	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.1	8.1	8.0	8.0	7.7	8.3	7.3	7.3	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	3.2	3.2
	20km↓	2	12.0	12.0	11.7	11.7	11.3	11.3	10.3	10.0	9.7	9.5	9.5	9.1	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.1	8.1	8.0	8.0	7.7	8.3	8.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	3.2		
		3	12.0	12.0	11.7	11.7	11.3	11.3	10.3	10.0	9.7	9.7	9.5	9.1	9.1	8.9	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.1	8.1	8.0	7.7	7.7	8.3	8.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.4	4.4	3.2	
	10km↓	4	12.0	12.0	11.7	11.7	11.3	11.3	10.3	10.3	10.0	9.7	9.5	9.5	9.1	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.4	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	12.1	12.1	12.1	12.1	4.9	4.9	4.4	3.2	
		5	12.0	12.0	11.7	11.7	11.3	11.3	11.3	10.3	10.3	10.0	9.7	9.7	9.5	9.5	9.1	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	16.4	16.4	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	12.1	4.9	4.9	4.4	4.4	
	0km↓	6	12.0	12.0	11.7	11.7	11.3	11.3	11.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.5	9.5	9.1	8.9	8.9	8.9	8.7	8.7	16.4	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	6.2	4.9	4.4	4.4
		7	12.0	12.0	11.7	11.7	11.3	11.3	11.3	10.3	10.3	10.0	10.0	10.0	9.7	9.5	9.1	9.1	8.9	8.9	8.9	8.7	16.9	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	6.2	4.9	4.4	4.4	
	8	12.0	12.0	11.7	11.7	11.7	11.3	11.3	11.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.5	9.1	9.1	9.1	8.9	8.9	8.7	33.9	32.8	32.8	31.7	31.7	31.3	30.3	30.3	36.5	36.5	36.5	32.3	32.3	28.5	6.2	4.9	4.4	4.4	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



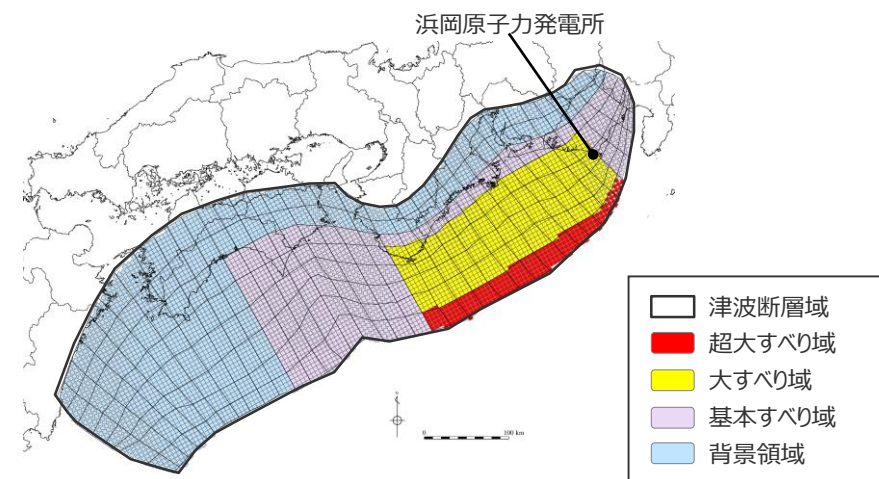
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.6
	最大すべり量 (m)	36.5

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



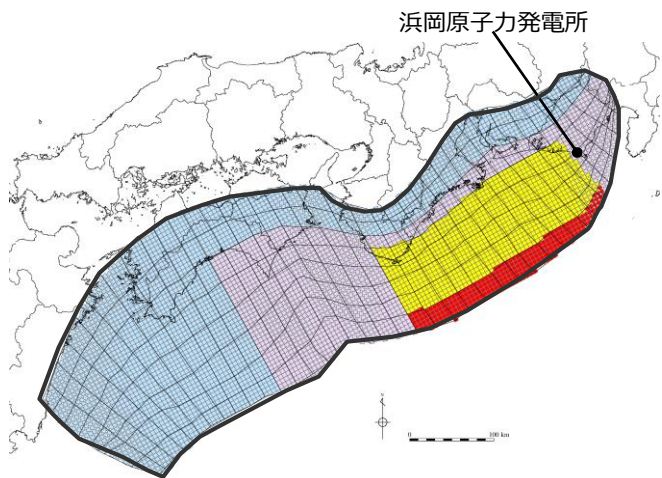
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

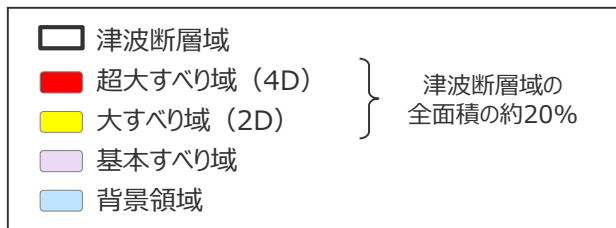
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



・D : 基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度 40km↓	すべり量分布 (m)																																																																							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																		
陸側⇄	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																		
30km↓	1	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2				
20km↓	2	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2				
10km↓	3	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2	
	4	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2	
0km↓	5	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2	
	6	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2	
⇄	7	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2
	8	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

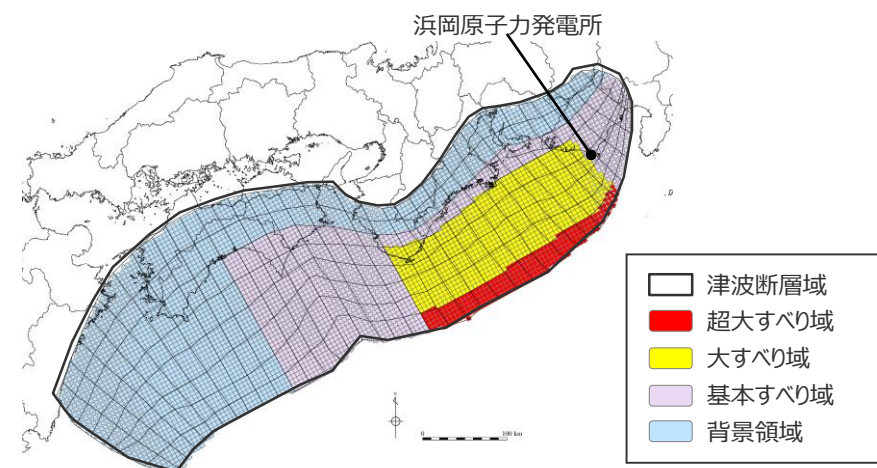
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.5
	最大すべり量 (m)	36.5

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



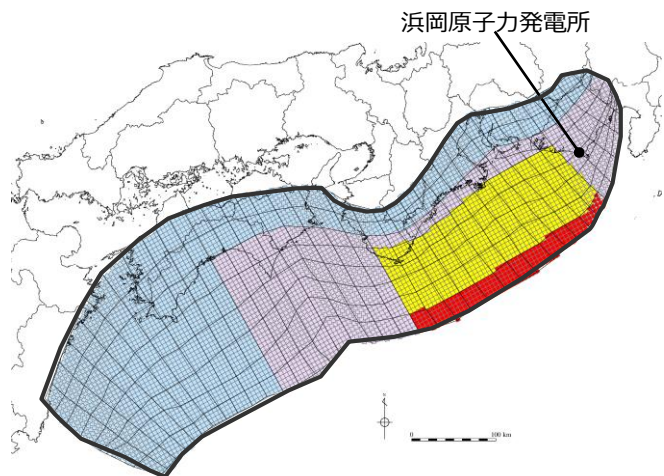
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

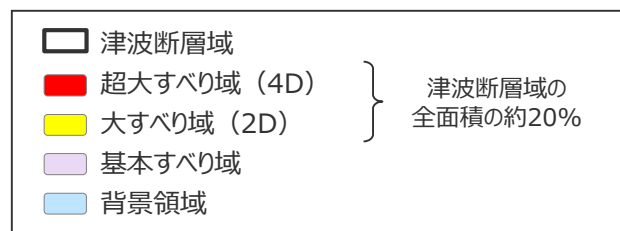
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



・D : 基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																						
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.4	10.1	9.8	9.6	9.6	9.3	9.0	9.0	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.1	8.1	7.8	8.4	7.4	7.4	6.3	6.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.4	4.4	3.2
	20km↓	2	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.4	10.1	10.1	9.8	9.6	9.3	9.0	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.1	8.1	7.8	8.4	8.4	7.4	7.4	6.3	6.3	6.3	5.0	5.0	5.0	4.4	4.4	3.2		
		3	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	9.8	9.8	9.6	9.3	9.3	9.0	9.0	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.1	7.8	7.8	8.4	8.4	7.4	7.4	6.3	6.3	6.3	5.0	5.0	4.4	4.4	3.2	
	10km↓	4	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.6	9.6	9.3	9.0	9.0	8.8	8.8	8.8	8.5	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	12.1	12.1	12.1	6.3	5.0	5.0	4.4	3.2	
		5	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	9.8	9.8	9.6	9.6	9.3	9.0	9.0	8.8	8.8	8.8	16.4	16.4	15.9	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	12.1	6.3	5.0	5.0	4.4	4.4	
	0km↓	6	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.6	9.3	9.3	9.0	9.0	8.8	8.8	16.4	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	6.3	6.3	5.0	4.4	4.4		
		7	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	10.1	10.1	9.8	9.6	9.3	9.3	9.0	9.0	8.8	16.9	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	7.4	6.3	5.0	4.4	4.4		
	8	12.2	12.2	11.8	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.6	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.8	33.9	32.8	32.8	31.7	31.7	31.3	30.3	30.3	36.5	36.5	36.5	32.3	32.3	7.4	6.3	5.0	4.4	4.4		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



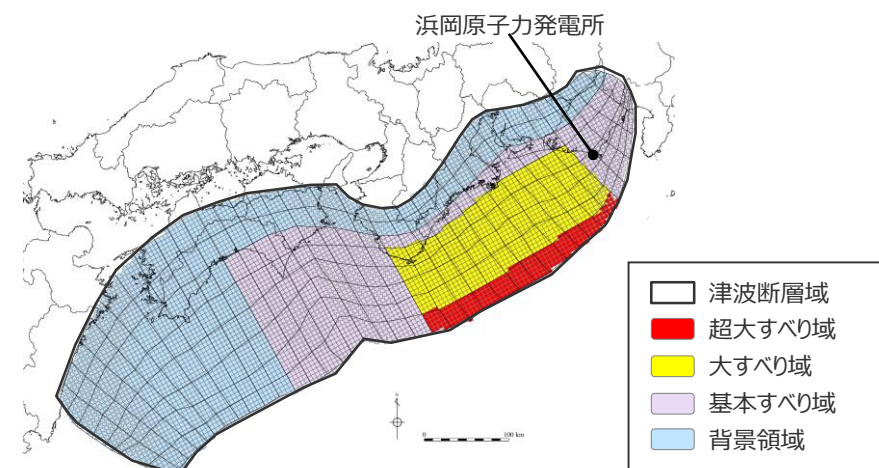
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.4
	最大すべり量 (m)	36.5

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



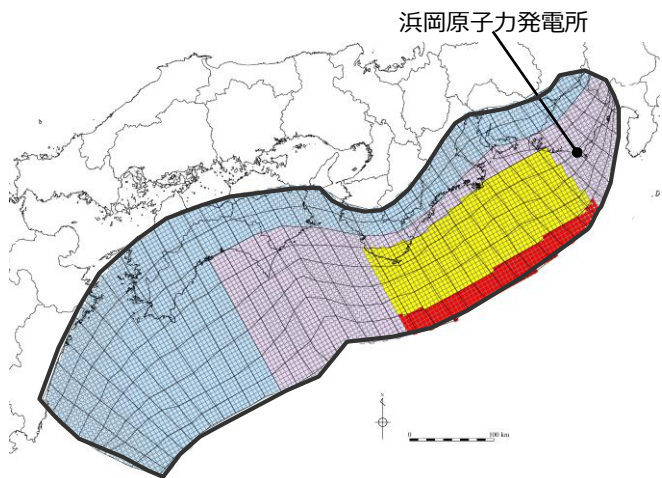
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

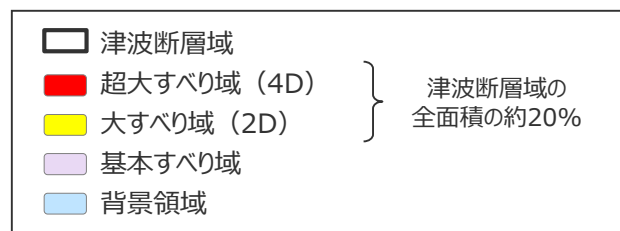
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )」の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



・D : 基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	断層番号 (西から東)																																																																				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																															
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																															
30km↓	1	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2						
20km↓	2	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2					
10km↓	3	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2		
0km↓	4	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2		
	5	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2		
	6	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2		
	7	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2
	8	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.4	10.4	10.4	10.0	10.0	9.8	9.8	9.6	9.6	9.6	9.2	9.2	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	7.4	7.4	7.4	6.2	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	4.4	4.4	3.2	3.2	3.2	3.2

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

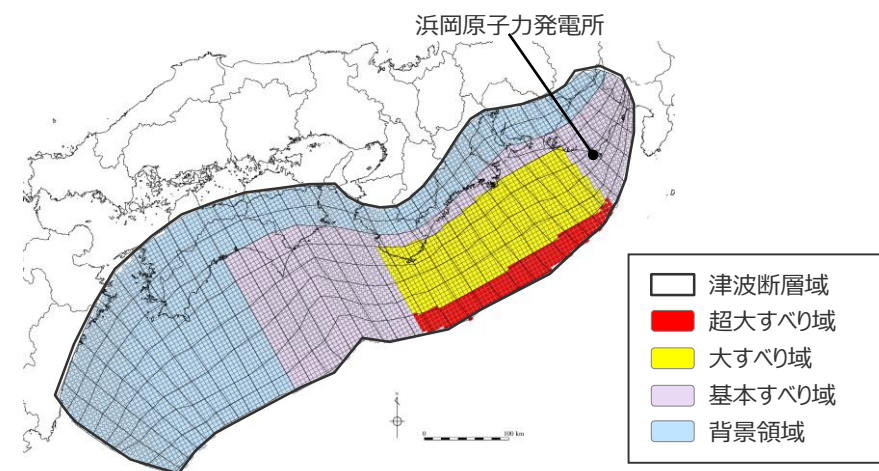
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.5
	最大すべり量 (m)	36.5

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



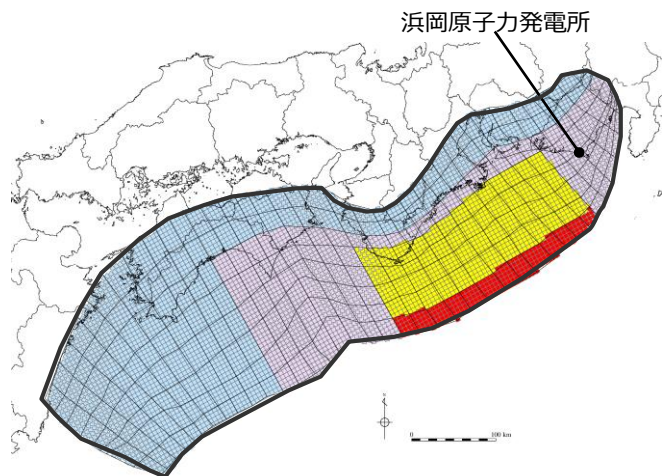
日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

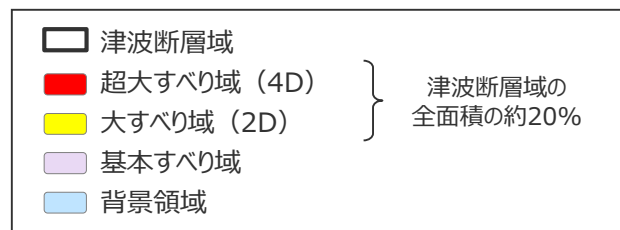
### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

■「日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
36.5	11.4



・D : 基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル② (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	10.3	10.0	9.7	9.5	9.5	9.2	8.9	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.1	8.1	8.0	8.0	7.8	8.3	7.3	7.3	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	3.2	3.2
	20km↓	2	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	10.3	10.0	10.0	9.7	9.5	9.2	8.9	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.1	8.1	8.0	8.0	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.9	4.4	4.4	3.2	
		3	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	10.3	10.3	10.0	9.7	9.7	9.5	9.2	8.9	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.1	8.1	8.0	7.8	7.8	8.3	8.3	7.3	7.3	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	4.4	4.4	3.2	
	10km↓	4	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.5	9.5	9.2	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	16.4	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	12.1	12.1	6.2	6.2	4.9	4.9	4.4	3.2
		5	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.0	9.7	9.7	9.5	9.5	9.2	8.9	8.9	8.7	8.7	16.9	16.4	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	16.2	16.2	14.3	14.3	6.2	6.2	4.9	4.9	4.4	4.4
	0km↓	6	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.5	9.5	9.2	8.9	8.9	8.9	8.7	16.9	16.4	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	14.3	7.3	6.2	6.2	4.9	4.4	4.4
		7	12.1	12.1	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.5	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	16.9	16.9	16.4	15.9	15.9	15.7	15.7	15.1	15.1	18.2	18.2	16.2	16.2	7.3	7.3	6.2	4.9	4.4	4.4
	8	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.5	9.2	9.2	9.2	8.9	8.9	33.9	33.9	32.8	32.8	31.7	31.7	31.3	30.3	30.3	36.5	36.5	36.5	32.3	8.3	7.3	6.2	4.9	4.4	4.4	

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。

・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



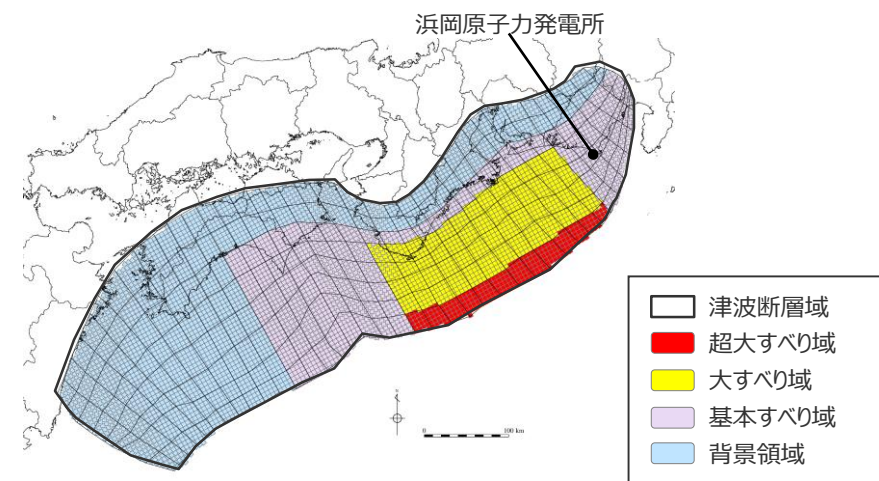
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-2 日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ ) のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	36.5
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	18.2
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.6
	最大すべり量 (m)	36.5

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル② ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

---

余 白

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

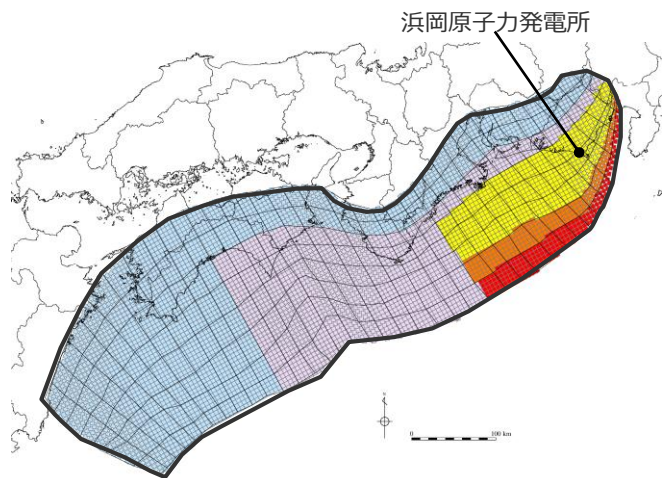
### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③（ $\Delta\sigma$ 3.0MPa、RT150s）のパラメータスタディモデルの設定

---

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

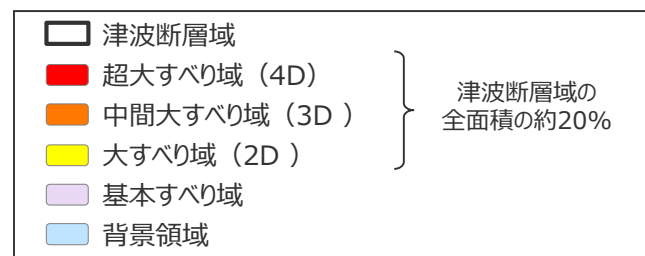
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.5	10.3	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.5	8.5	8.2	8.8	8.8	7.7	7.7	6.5	6.5	5.2	5.2	5.2	5.2	4.6	4.6	3.4
	20km↓	2	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.5	10.5	10.3	10.0	10.0	9.7	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.5	8.5	8.2	8.8	8.8	7.7	7.7	6.5	6.5	6.5	6.5	5.2	5.2	5.2	4.6	4.6	3.4
		3	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.3	10.3	10.0	9.7	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.5	8.2	8.2	8.8	8.8	7.7	7.7	6.5	6.5	6.5	5.2	5.2	4.6	4.6	3.4
	10km↓	4	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.3	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.6	8.6	8.5	15.1	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	11.6	11.6	11.6	11.6	9.2	9.2	8.2	6.0	
		5	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.6	8.6	8.5	15.1	14.6	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	11.6	9.2	9.2	8.2	8.2
	0km↓	6	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.3	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.6	8.6	15.1	15.1	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	11.6	9.2	8.2	8.2	
		7	12.7	12.7	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.9	10.9	10.5	10.5	10.3	10.0	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.6	8.6	22.6	22.6	21.9	21.9	26.3	26.3	23.4	23.4	20.6	20.6	17.5	13.8	12.4	12.4	
	8	12.7	12.7	12.3	12.3	12.3	12.0	12.0	10.9	10.9	10.5	10.5	10.3	10.0	9.7	9.7	9.7	9.4	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.6	30.6	30.2	29.1	29.1	35.1	35.1	35.1	31.1	31.1	27.4	23.3	18.4	16.5	16.5	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



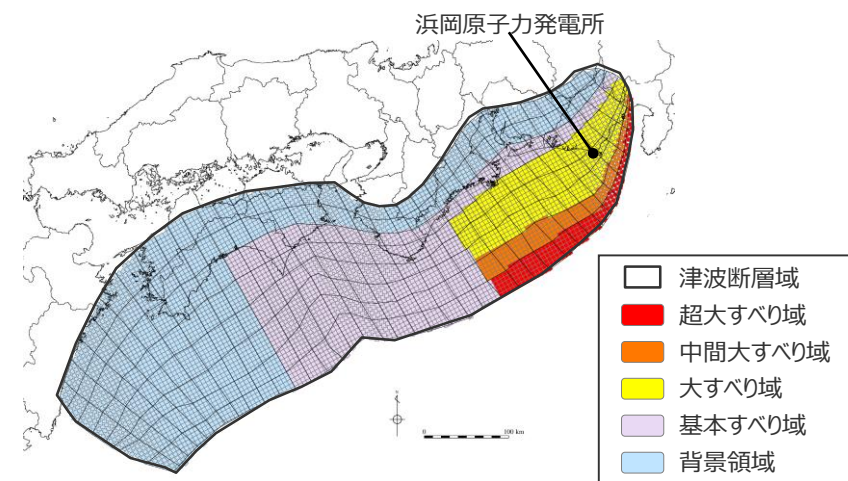
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.6×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量 (m)	10.3
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.1×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量 (m)	15.1
	最大すべり量 (m)	35.1

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層



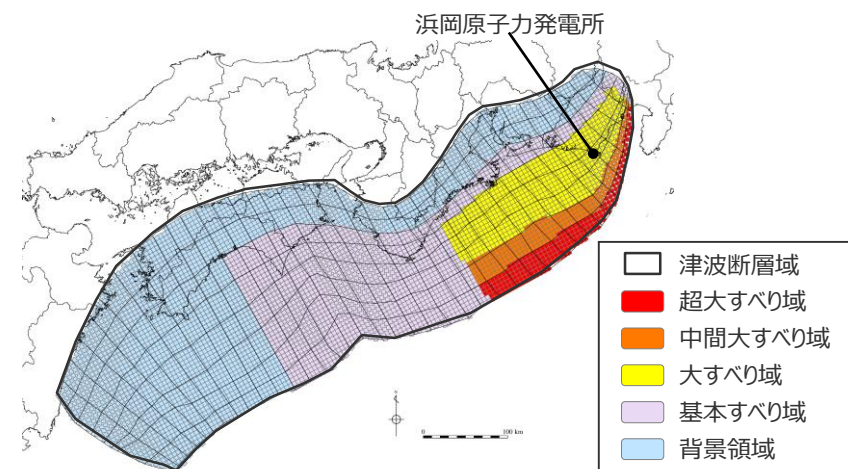
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.2
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.3
	最大すべり量 (m)	35.1

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



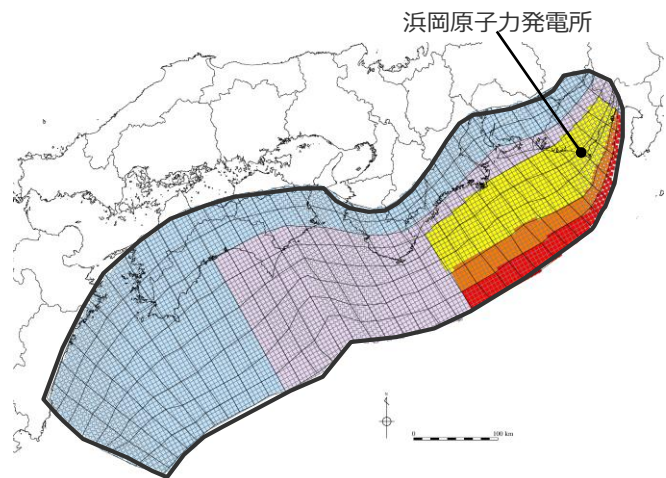
日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

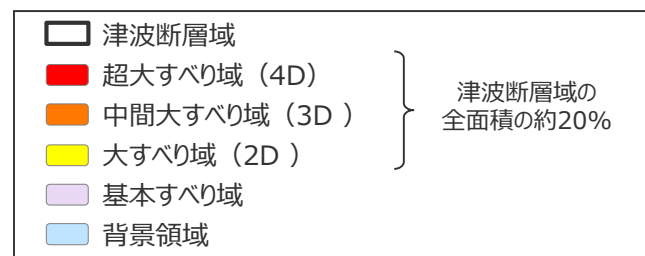
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																					
陸側 ⇄	海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
		30km↓	1	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.7	10.6	10.3	10.0	9.8	9.8	9.4	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.3	8.3	8.0	8.6	7.5	7.5	6.4	6.4	5.1	5.1	5.1	5.1	4.5	4.5	3.3
20km↓	2	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.7	10.6	10.3	10.3	10.0	9.8	9.8	9.4	9.2	9.0	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.3	8.3	8.0	8.6	8.6	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	5.1	5.1	5.1	4.5	4.5	3.3	
	3	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.7	10.6	10.6	10.3	10.0	10.0	9.8	9.4	9.4	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.4	8.4	8.3	8.0	8.0	8.6	8.6	7.5	7.5	6.4	6.4	6.4	5.1	5.1	4.5	4.5	3.3	
10km↓	4	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.7	10.6	10.6	10.3	10.3	10.0	9.8	9.8	9.4	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	8.4	15.1	15.1	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	11.6	11.6	11.6	11.6	9.2	9.2	8.2	3.3		
	5	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.7	10.6	10.6	10.3	10.3	10.0	10.0	9.8	9.8	9.4	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	15.1	15.1	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	11.6	9.2	9.2	8.2	4.5			
0km↓	6	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.7	10.6	10.6	10.3	10.3	10.0	9.8	9.8	9.4	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	8.4	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	11.6	9.2	8.2	4.5			
	7	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.7	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	10.0	9.8	9.4	9.4	9.2	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.4	22.9	22.6	22.6	21.9	21.9	26.3	26.3	23.4	23.4	20.6	20.6	17.5	13.8	12.4	4.5		
	8	12.4	12.4	12.0	12.0	11.7	11.7	10.6	10.6	10.6	10.3	10.3	10.0	9.8	9.4	9.4	9.4	9.2	9.2	9.0	9.0	8.7	8.7	30.6	30.6	30.2	29.1	29.1	35.1	35.1	35.1	31.1	31.1	27.4	23.3	18.4	16.5	4.5		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



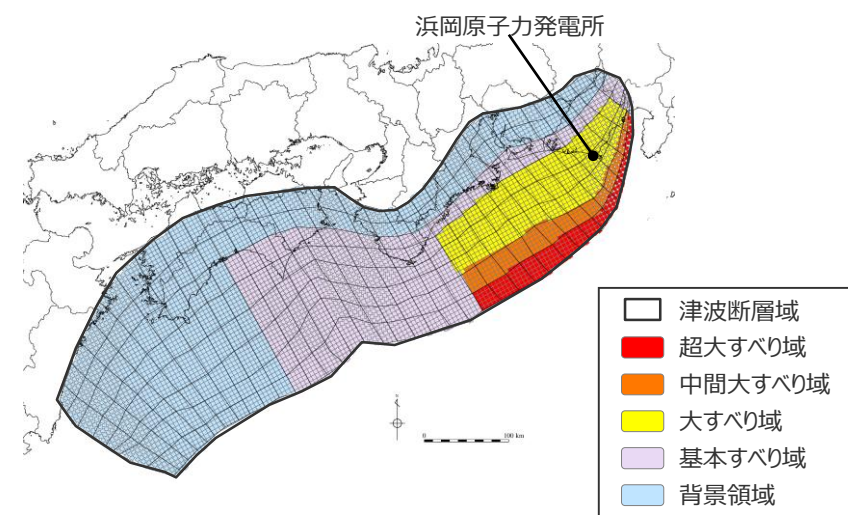
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.6 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.5
	最大すべり量 (m)	35.1

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



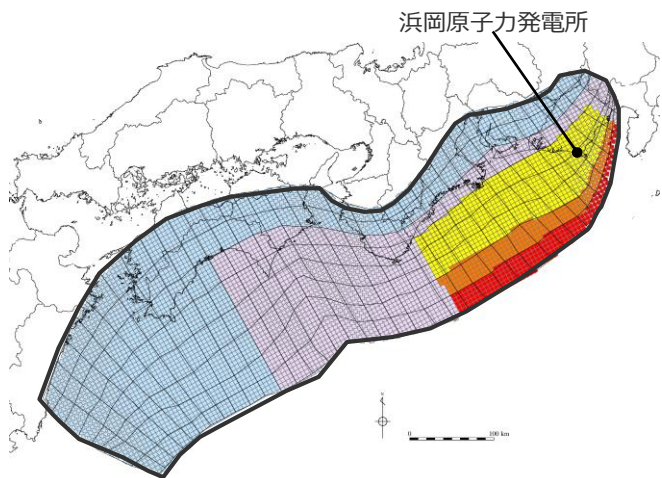
日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量分布の設定)

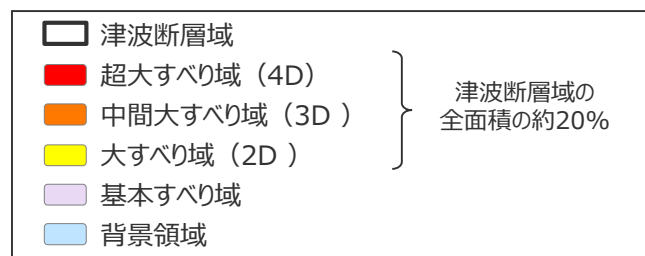
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	小断層のすべり量分布 (m)																																																																																													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																																								
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																																								
30km↓	1	12.3	12.3	12.3	11.9	11.9	11.9	11.9	11.6	11.6	11.6	11.6	10.5	10.5	10.2	10.2	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	6.3	6.3	6.3	6.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	3.2	3.2	3.2																								
20km↓	2	12.3	12.3	12.3	12.3	11.9	11.9	11.9	11.9	11.6	11.6	11.6	11.6	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	8.5	8.5	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	6.3	6.3	6.3	6.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	3.2	3.2	3.2																		
10km↓	3	12.3	12.3	12.3	12.3	11.9	11.9	11.9	11.9	11.6	11.6	11.6	11.6	10.5	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	9.1	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.2	8.2	7.9	7.9	7.9	7.9	8.5	8.5	8.5	8.5	7.5	7.5	7.5	6.3	6.3	6.3	6.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	3.2	3.2	3.2														
0km↓	4	12.3	12.3	12.3	12.3	11.9	11.9	11.9	11.9	11.6	11.6	11.6	11.6	10.5	10.5	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	9.1	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	15.3	15.1	15.1	15.1	15.1	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	9.2	9.2	9.2	9.2	8.2	4.5	4.5	4.5	4.5	3.2	3.2	3.2				
0km↓	5	12.3	12.3	12.3	12.3	11.9	11.9	11.9	11.9	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	10.5	10.5	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	9.1	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	15.3	15.1	15.1	15.1	15.1	15.1	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	15.6	15.6	13.7	13.7	13.7	13.7	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	9.2	9.2	9.2	9.2	8.2	4.5	4.5	4.5	4.5	3.2	3.2	3.2
0km↓	6	12.3	12.3	12.3	12.3	11.9	11.9	11.9	11.9	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	10.5	10.5	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	9.1	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	15.3	15.3	15.1	15.1	15.1	15.1	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	15.6	15.6	13.7	13.7	13.7	13.7	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	9.2	9.2	9.2	9.2	8.2	4.5	4.5	4.5	4.5	3.2	3.2	3.2
0km↓	7	12.3	12.3	12.3	12.3	11.9	11.9	11.9	11.9	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	10.5	10.5	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	9.1	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	22.9	22.9	22.9	22.6	22.6	22.6	22.6	21.9	21.9	21.9	21.9	26.3	26.3	26.3	26.3	23.4	23.4	23.4	23.4	20.6	20.6	20.6	20.6	17.5	17.5	13.8	13.8	12.4	4.5	4.5	4.5	4.5	3.2	3.2	3.2							
0km↓	8	12.3	12.3	12.3	12.3	11.9	11.9	11.9	11.9	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	10.5	10.5	10.5	10.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.7	9.7	9.7	9.3	9.3	9.3	9.3	9.3	9.1	9.1	9.1	9.1	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	31.6	30.6	30.6	30.6	30.6	30.2	30.2	29.1	29.1	29.1	29.1	35.1	35.1	35.1	35.1	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1	27.4	27.4	23.3	23.3	18.4	18.4	16.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.2	3.2	3.2										

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

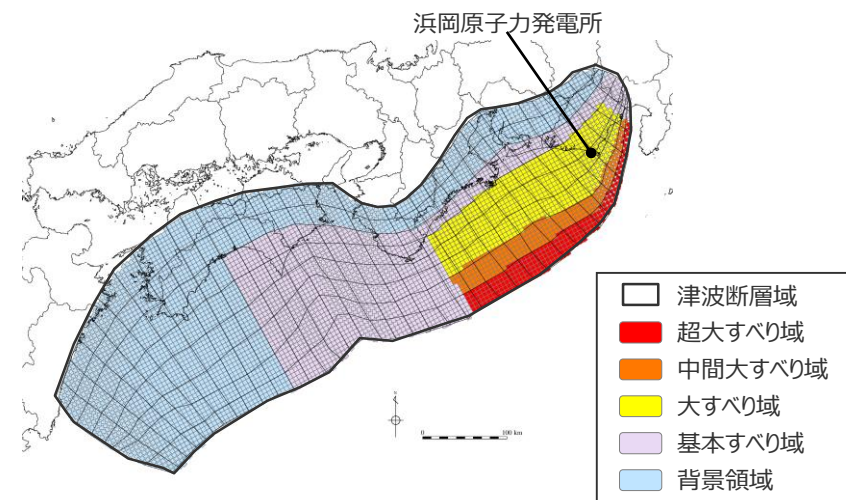
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.1
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.2 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.7
	最大すべり量 (m)	35.1

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



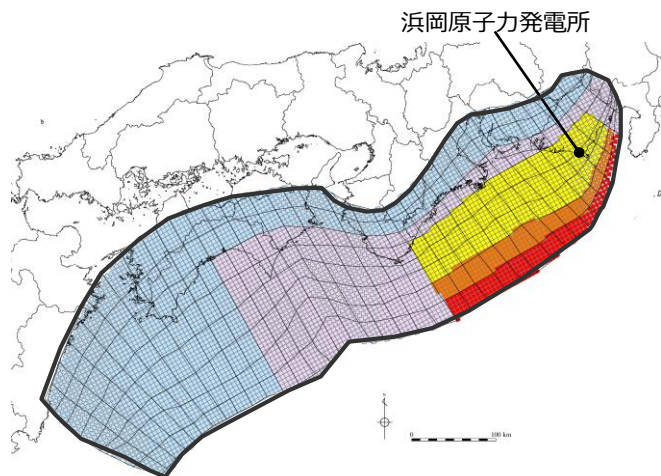
日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を東へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量分布の設定)

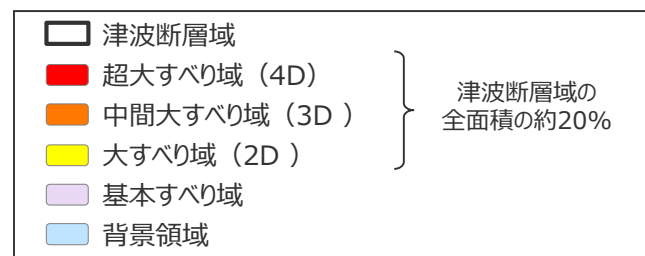
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を基準位置としたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を基準位置としたケース



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を基準位置としたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																					
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
		30km↓	1	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.4	10.1	9.8	9.6	9.2	9.0	9.0	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.1	8.1	7.8	8.4	7.4	7.4	6.3	6.3	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.4	4.4	3.2
	20km↓	2	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.4	10.1	10.1	9.8	9.6	9.2	9.0	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.1	8.1	7.8	8.4	8.4	7.4	7.4	6.3	6.3	6.3	5.0	5.0	5.0	4.4	4.4	3.2	
		3	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	9.8	9.8	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.1	7.8	7.8	8.4	8.4	7.4	7.4	6.3	6.3	6.3	5.0	5.0	4.4	4.4	3.2
	10km↓	4	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.6	9.6	9.2	9.0	9.0	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	8.2	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	11.6	11.6	11.6	11.6	9.2	9.2	4.4	3.2
		5	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	9.8	9.8	9.6	9.6	9.2	9.0	9.0	8.8	8.8	8.8	8.5	8.5	8.5	15.3	15.1	15.1	14.6	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	11.6	9.2	9.2	4.4
	0km↓	6	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	10.1	9.8	9.6	9.6	9.2	9.0	9.0	9.0	8.8	8.8	8.5	8.5	22.9	22.9	22.6	22.6	21.9	21.9	26.3	26.3	23.4	23.4	20.6	20.6	17.5	13.8	4.4	4.4
		7	12.2	12.2	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	10.4	10.4	10.1	10.1	10.1	9.8	9.6	9.2	9.2	9.0	9.0	9.0	8.8	8.8	8.5	31.6	30.6	30.6	30.2	29.1	29.1	35.1	35.1	35.1	31.1	31.1	27.4	23.3	18.4	4.4	4.4

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。

・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



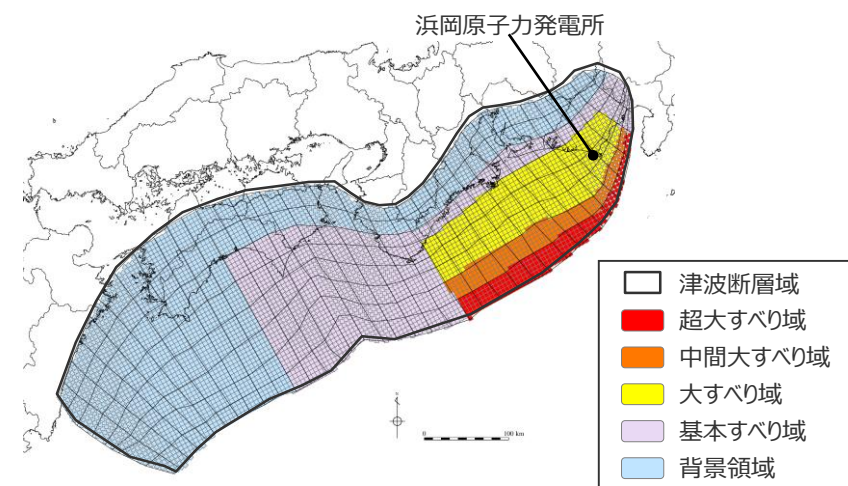
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )の  
大すべり域の位置を基準位置としたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.5 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	10.0
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.3 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	15.9
	最大すべり量 (m)	35.1

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を基準位置としたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層



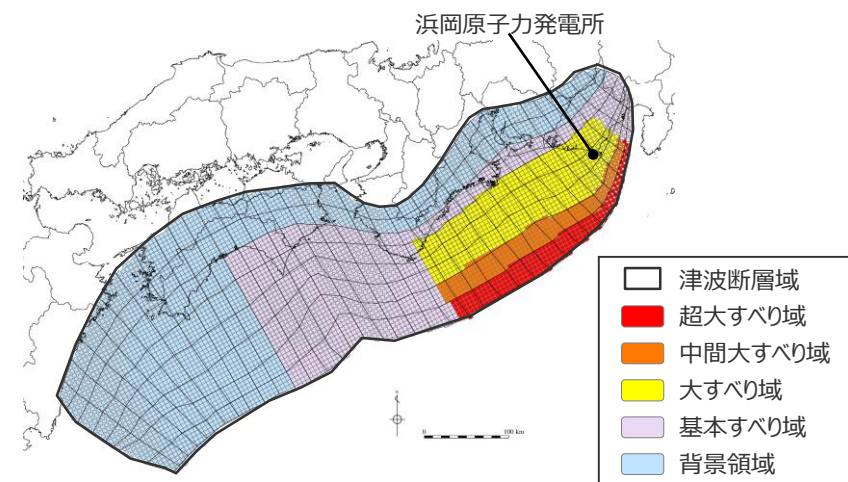
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.5×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量 (m)	16.1
	最大すべり量 (m)	35.1

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



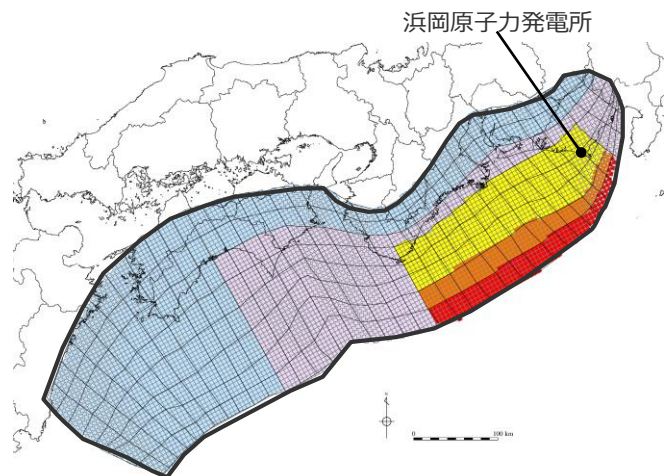
日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ10kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量分布の設定)

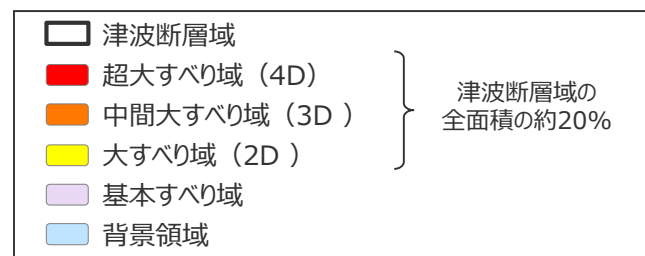
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																						
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	10.2	9.9	9.6	9.4	9.4	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	7.9	7.9	7.7	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1	3.1
	20km↓	2	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.4	9.0	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	7.9	7.9	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1		
		3	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	10.2	10.2	9.9	9.6	9.6	9.4	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	7.9	7.7	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1		
	10km↓	4	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.4	9.4	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	11.6	11.6	11.6	11.6	9.2	4.8	4.3	3.1	
		5	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	9.9	9.6	9.6	9.4	9.4	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	15.8	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	11.6	9.2	4.8	4.3	4.3
	0km↓	6	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.4	9.0	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	15.8	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	11.6	9.2	4.8	4.3	4.3
		7	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.4	9.0	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	23.7	22.9	22.9	22.6	22.6	21.9	21.9	26.3	26.3	23.4	23.4	20.6	20.6	17.5	4.8	4.3	4.3	
	8	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.4	9.0	9.0	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	31.6	31.6	30.6	30.6	30.2	29.1	29.1	35.1	35.1	35.1	31.1	31.1	27.4	23.3	4.8	4.3	4.3		

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。

・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



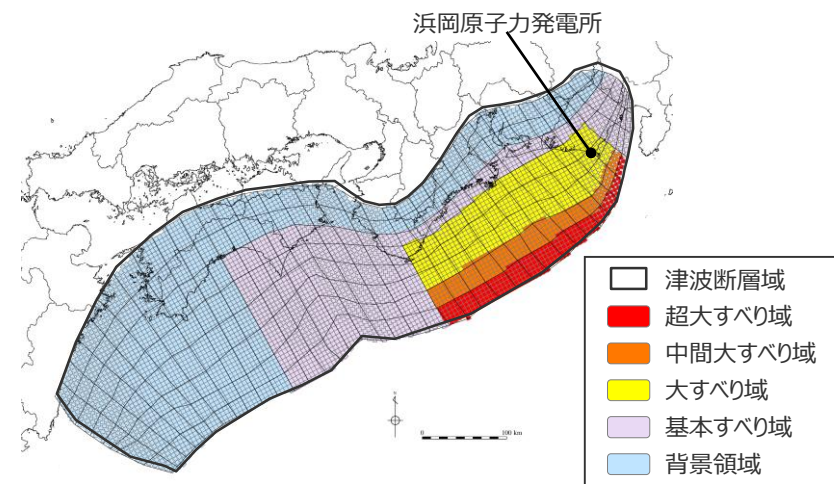
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	9.9
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.3 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	16.3
	最大すべり量 (m)	35.1

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



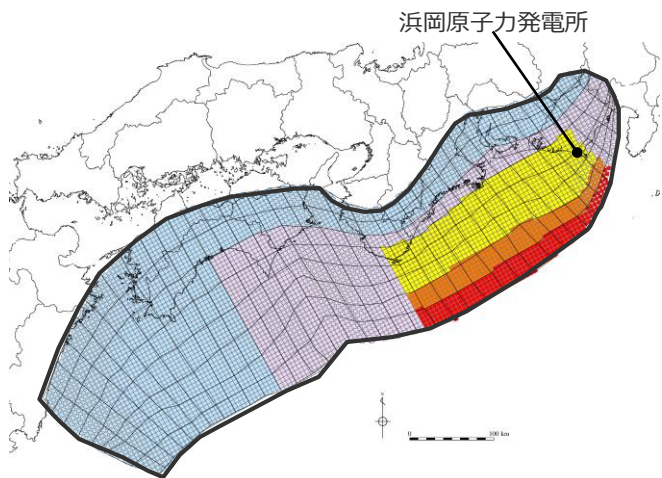
日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ20kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量分布の設定)

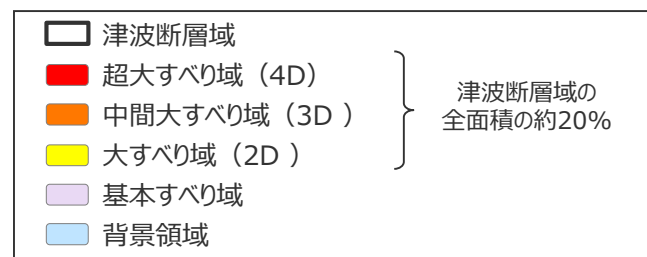
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース



・D: 基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	断層番号 (西から東)																																																																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																				
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																				
30km↓	1	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1						
20km↓	2	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1					
10km↓	3	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1			
0km↓	4	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	
	5	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1
	6	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1
	7	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1
	8	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

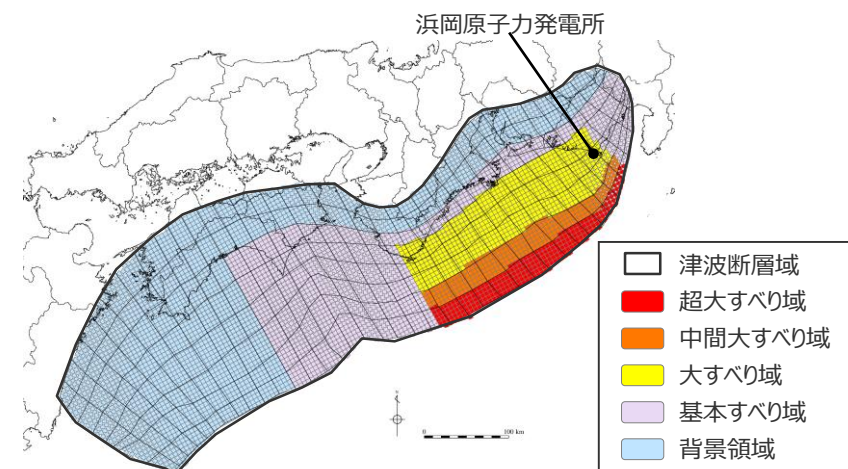
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	9.8
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.3 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	16.4
	最大すべり量 (m)	35.1

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



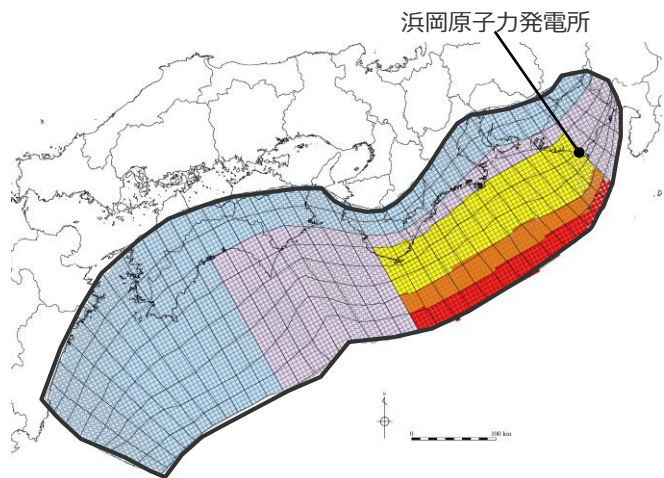
日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ30kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量分布の設定)

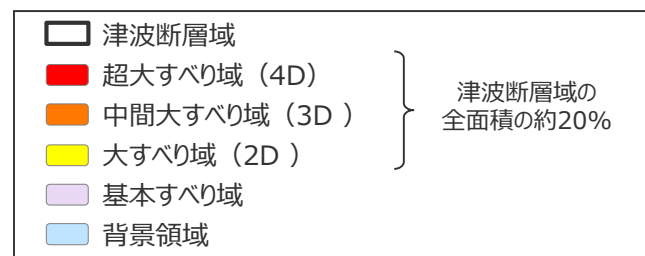
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																						
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	9.7	9.4	9.2	9.2	8.9	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.8	7.8	7.5	8.0	7.1	7.1	6.0	6.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1	3.1	
	20km↓	2	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	9.7	9.4	9.2	9.2	8.9	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.8	7.8	7.5	8.0	8.0	7.1	7.1	6.0	6.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1		
		3	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	9.2	8.9	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.8	7.5	7.5	8.0	8.0	7.1	7.1	6.0	6.0	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1		
	10km↓	4	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.2	9.2	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	15.8	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	11.6	11.6	11.6	11.6	4.8	4.8	4.3	3.1	
		5	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	8.4	15.8	15.8	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	11.6	6.0	4.8	4.3
	0km↓	6	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	24.5	23.7	22.9	22.9	22.6	22.6	21.9	21.9	26.3	26.3	23.4	23.4	20.6	20.6	6.0	4.8	4.3	4.3	
		7	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.2	8.9	8.9	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	32.6	31.6	31.6	30.6	30.6	30.2	29.1	29.1	35.1	35.1	35.1	31.1	31.1	27.4	6.0	4.8	4.3	4.3	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



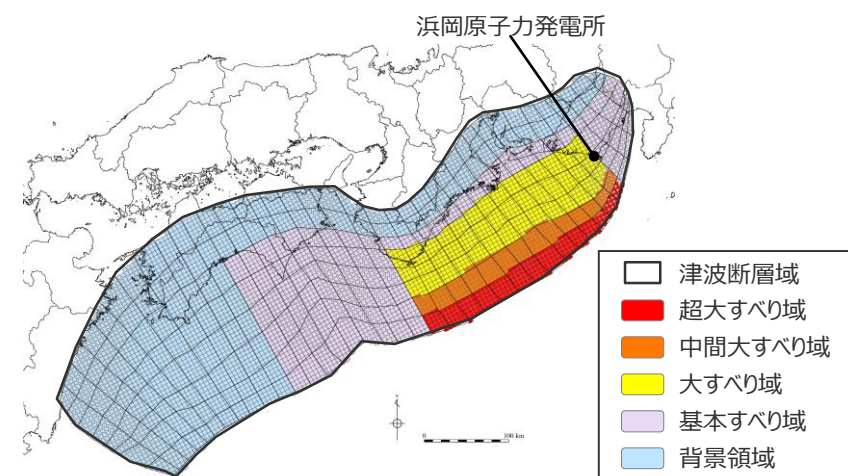
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.4×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量 (m)	9.8
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.4×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量 (m)	16.6
	最大すべり量 (m)	35.1

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



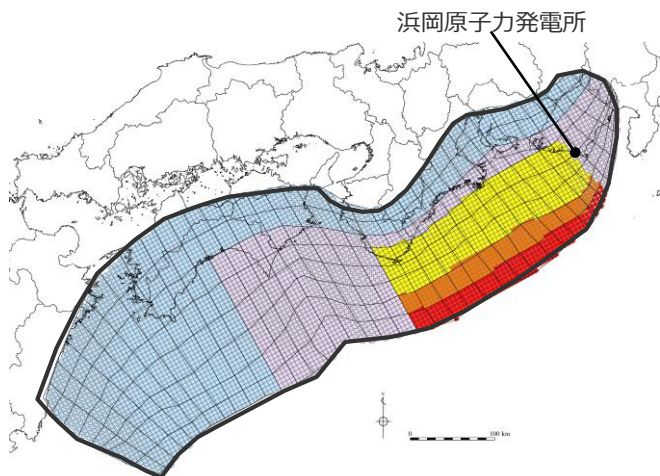
日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ40kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量分布の設定)

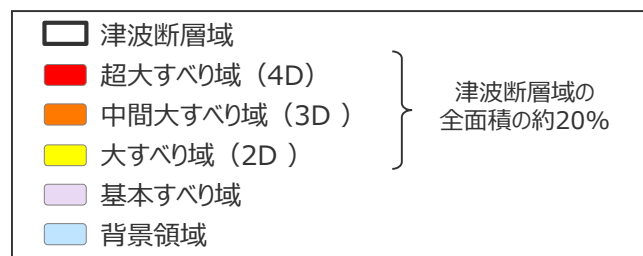
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度	断層番号 (西側から東側に順に1から38まで)																																																																																								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																																			
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																																			
30km↓	1	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1												
20km↓	2	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.7	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1									
10km↓	3	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.5	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1						
0km↓	4	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.7	9.5	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1				
	5	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.5	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1			
	6	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.7	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
	7	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.7	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
	8	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	10.1	10.1	9.7	9.7	9.7	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)  
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

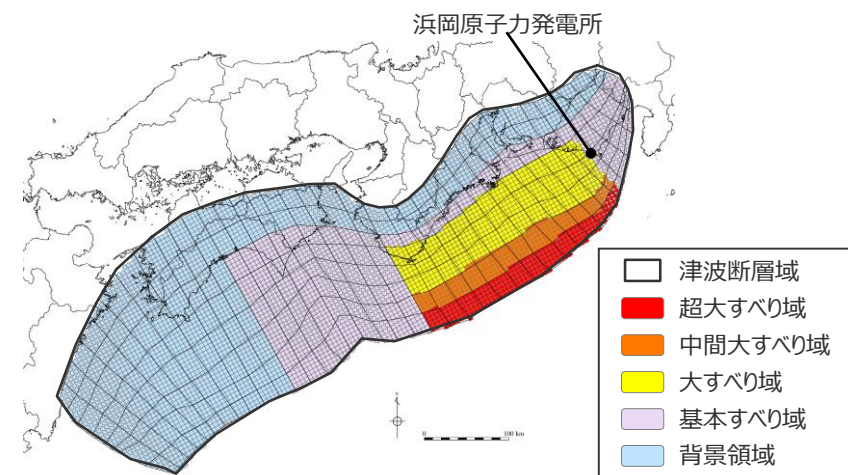
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	9.8
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.3 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	16.5
	最大すべり量 (m)	35.1

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



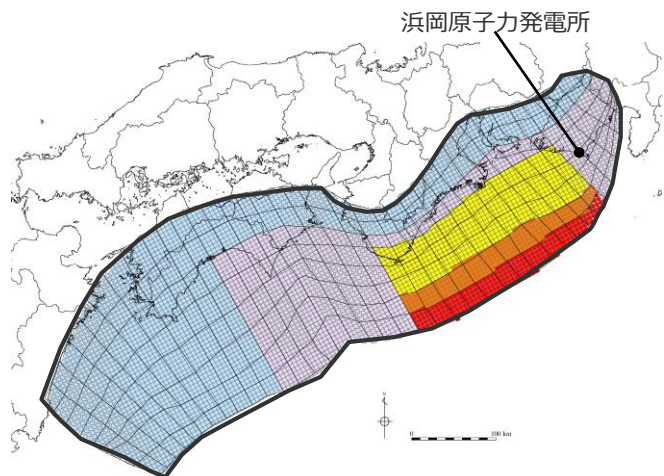
日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、 $RT150\text{s}$ )  
の大すべり域の位置を西へ50kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量分布の設定)

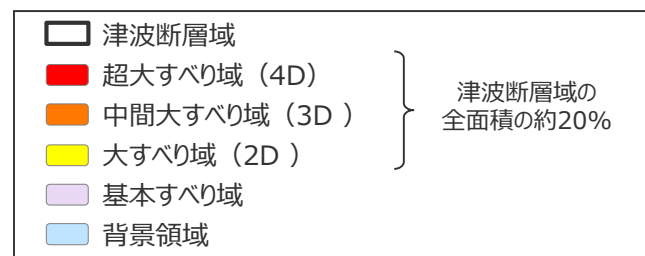
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	→ 東																						
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	10.1	9.8	9.6	9.4	9.4	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	7.9	7.9	7.6	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1	3.1
	20km↓	2	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	10.1	9.8	9.8	9.6	9.4	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.3	8.0	8.0	7.9	7.9	7.6	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1	
		3	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	10.1	10.1	9.8	9.6	9.6	9.4	9.0	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	8.3	8.0	8.0	7.9	7.6	7.6	8.2	8.2	7.2	7.2	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1	
	10km↓	4	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	10.1	10.1	9.8	9.8	9.6	9.4	9.4	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.3	15.8	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	11.6	11.6	11.6	6.1	4.8	4.8	4.3	3.1	
		5	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.1	10.1	9.8	9.6	9.6	9.4	9.4	9.0	8.8	8.8	8.6	8.6	8.6	8.6	15.8	15.8	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	11.6	6.1	4.8	4.8	4.3
	0km↓	6	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.1	10.1	9.8	9.8	9.6	9.4	9.4	9.0	8.8	8.8	8.8	8.6	8.6	24.5	23.7	22.9	22.9	22.6	22.6	21.9	21.9	26.3	26.3	23.4	23.4	20.6	7.2	6.1	4.8	4.3	4.3	
		7	11.9	11.9	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.1	10.1	10.1	9.8	9.8	9.6	9.4	9.0	9.0	8.8	8.8	8.8	8.6	32.6	31.6	31.6	30.6	30.6	30.2	29.1	29.1	35.1	35.1	35.1	31.1	31.1	7.2	6.1	4.8	4.3	4.3	

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



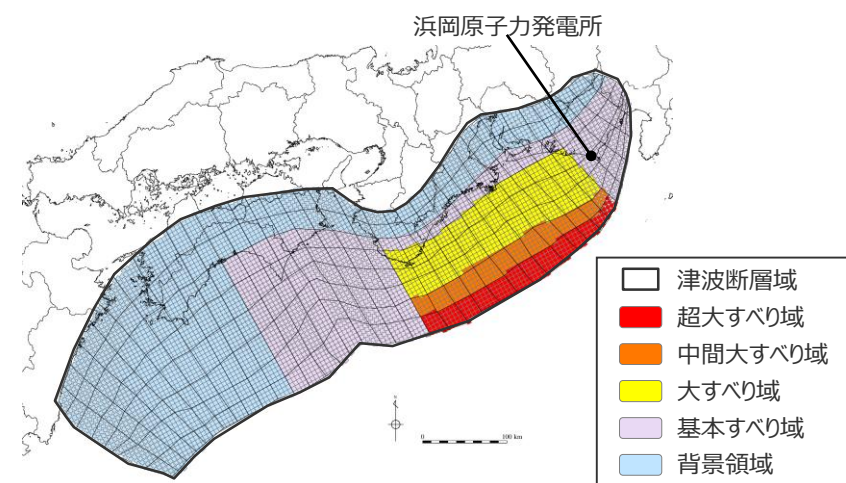
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量* (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	9.8
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.3 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	16.4
	最大すべり量 (m)	35.1

\* スケーリング則の対象とした平均応力降下量



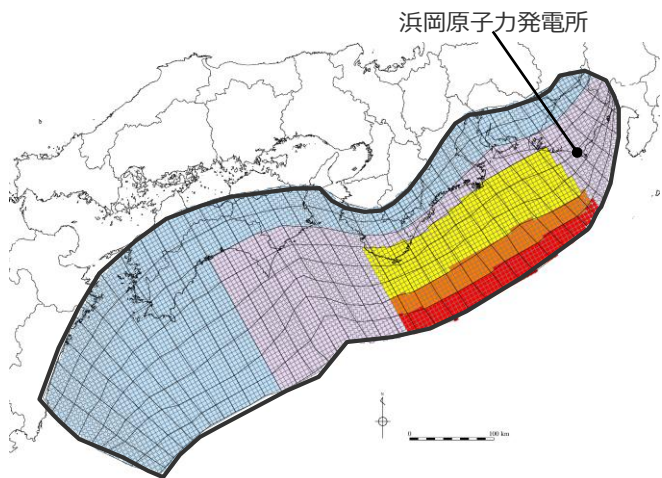
日本海溝の津波評価手法モデル③ ( $\Delta\sigma 3.0\text{MPa}$ 、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ60kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースのすべり量分布の設定)

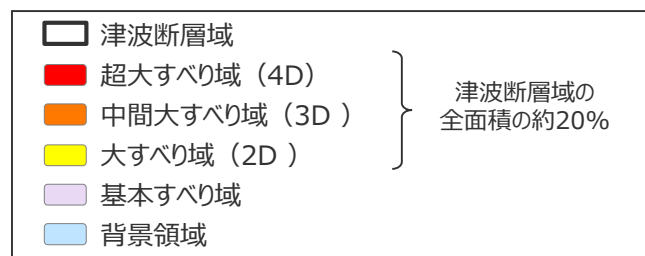
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の  
大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の  
大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

西 ←

⇒ 東

深度 40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																										
	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																										
30km↓	1	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1						
20km↓	2	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1			
10km↓	3	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	
0km↓	4	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
	5	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.5	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
	6	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
	7	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
	8	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
	8	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	11.1	10.1	9.8	9.8	9.8	9.5	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	9.0	8.7	8.7	8.7	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.9	7.9	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	7.1	7.1	7.1	6.1	6.1	6.1	6.1	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	4.3	4.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1

- ・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)
- ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超巨大すべり域のすべり量を設定した。

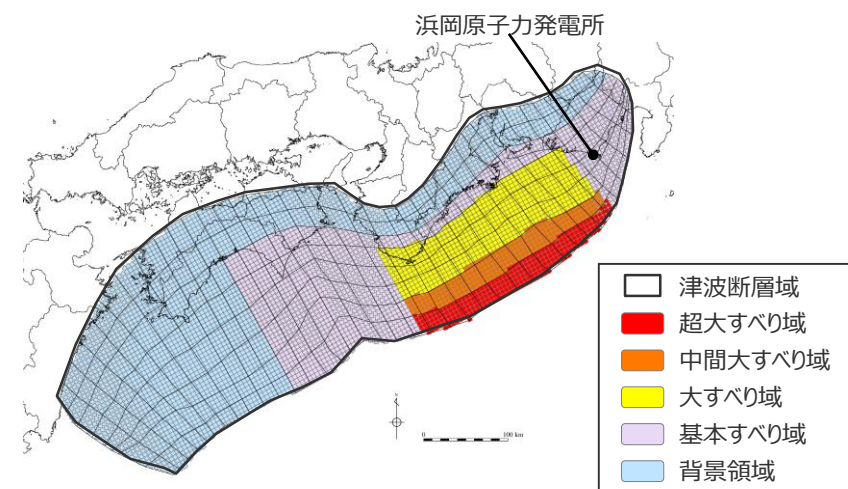
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケースの断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.8×10 <sup>22</sup>
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	4.1×10 <sup>10</sup>
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	4.4×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量 (m)	9.8
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.3×10 <sup>22</sup>
	平均すべり量 (m)	16.5
	最大すべり量 (m)	35.1

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



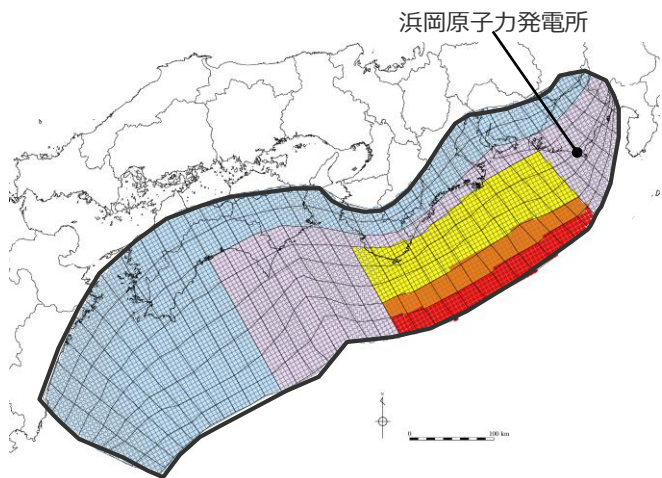
日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ70kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層

## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量分布の設定)

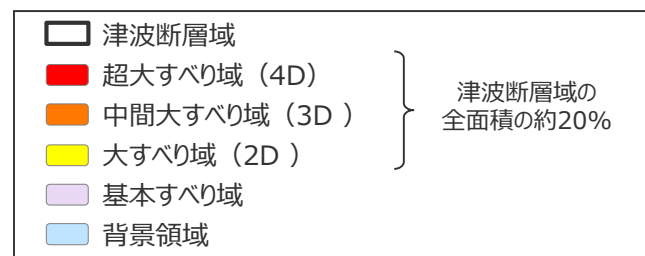
■「日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)」の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
35.1	11.4

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース



・D：基本すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s) の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの小断層のすべり量分布 (m)

		西 ←																	⇒ 東																						
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	9.7	9.4	9.2	9.2	8.9	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.8	7.8	7.5	8.1	7.1	7.1	6.0	6.0	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1	3.1
	20km↓	2	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	9.7	9.4	9.2	9.2	8.9	8.7	8.4	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.8	7.8	7.5	8.1	8.1	7.1	7.1	6.0	6.0	6.0	4.8	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1		
		3	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	9.2	8.9	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.2	8.2	8.2	7.9	7.9	7.8	7.5	7.5	8.1	8.1	7.1	7.1	6.0	6.0	6.0	4.8	4.8	4.3	4.3	3.1	
	10km↓	4	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.2	9.2	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	15.8	15.8	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	15.6	15.6	13.7	11.6	11.6	6.0	6.0	4.8	4.8	4.3	3.1	
		5	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.4	9.4	9.2	9.2	8.9	8.7	8.7	8.4	8.4	8.4	16.3	15.8	15.8	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	13.7	13.7	6.0	6.0	4.8	4.8	4.3
	0km↓	6	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.2	9.2	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.4	16.3	15.8	15.8	15.3	15.3	15.1	15.1	14.6	17.6	17.6	15.6	15.6	13.7	7.1	6.0	6.0	4.8	4.3	4.3
		7	11.7	11.7	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.2	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	24.5	24.5	23.7	22.9	22.9	22.6	22.6	21.9	21.9	26.3	26.3	23.4	23.4	7.1	7.1	6.0	4.8	4.3	4.3
	8	11.7	11.7	11.3	11.3	11.3	11.0	11.0	11.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.4	9.2	8.9	8.9	8.9	8.7	8.7	8.7	32.6	32.6	31.6	31.6	30.6	30.6	30.2	29.1	29.1	35.1	35.1	35.1	31.1	8.1	7.1	6.0	4.8	4.3	4.3	

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。

・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなせる(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。



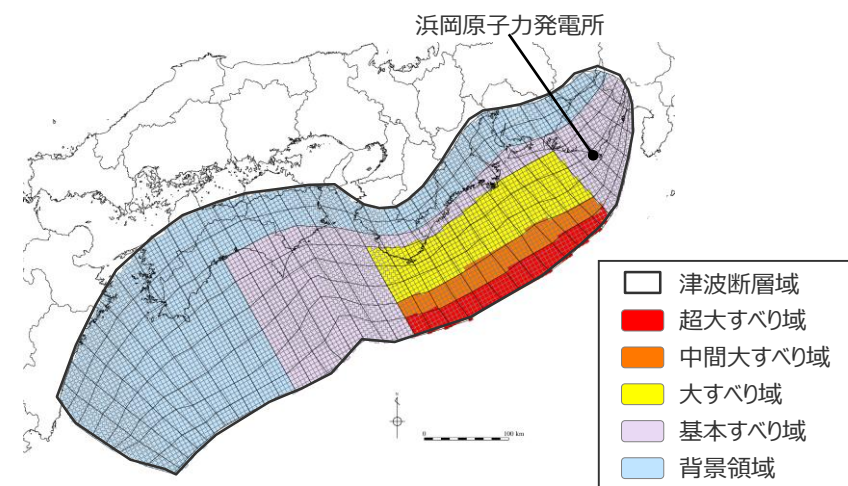
## 2 日本海溝の津波評価手法モデル①～③のための影響検討の詳細

### 2-3 日本海溝の津波評価手法モデル③(Δσ3.0MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 (大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータの設定)

日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケースの断層パラメータ

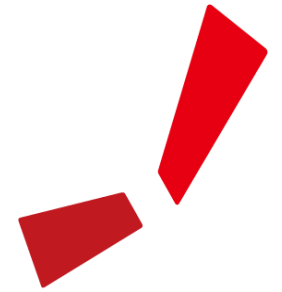
項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km <sup>2</sup> )	144,379
	地震モーメント (Nm)	$6.8 \times 10^{22}$
	Mw	9.2
	平均応力降下量※ (MPa)	3.0
	平均すべり量 (m)	11.4
	最大すべり量 (m)	35.1
	剛性率 (N/m <sup>2</sup> )	$4.1 \times 10^{10}$
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	109,725
	地震モーメント (Nm)	$4.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	9.8
	最大すべり量 (m)	17.6
浅部断層	面積 (km <sup>2</sup> )	34,655
	地震モーメント (Nm)	$2.4 \times 10^{22}$
	平均すべり量 (m)	16.6
	最大すべり量 (m)	35.1

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル③ (Δσ3.0MPa、RT150s)  
の大すべり域の位置を西へ80kmとしたケース

主部断層：深さ10km以深の断層  
浅部断層：深さ10km以浅の断層



中部電力